

設置の趣旨等を記載した書類
(目次)

1	設置の趣旨及び必要性	P. 2
2	学部・学科等の特色	P. 13
3	学部・学科等の名称及び学位の名称	P. 16
4	教育課程の編成の考え方及び特色	P. 18
5	教員組織の編成の考え方及び特色	P. 26
6	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	P. 32
7	施設、設備等の整備計画	P. 43
8	入学者選抜の概要	P. 44
9	取得可能な資格	P. 47
10	実習の具体的計画	P. 50
11	企業実習(インターンシップを含む)や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	P. 57
12	昼夜開講生を実施する場合の具体的計画	P. 57
13	編入学定員を設定する場合の具体的計画	P. 57
14	2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画	P. 58
15	社会人を対象とした大学教育の一部を校舎以外の場所(サテライトキャンパス)で実施する場合の具体的計画	P. 58
16	多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画	P. 58
17	通信教育を実施する場合の具体的計画	P. 58
18	管理運営	P. 58
19	自己点検・評価	P. 60
20	情報の公表	P. 60
21	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	P. 60
22	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	P. 61

1 設置の趣旨及び必要性

ア 学部等設置の理由及び必要性

(1) 文学部設置の社会的背景

これからの卒業生は、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会の中で、持続可能な社会の創り手として社会に貢献することになる。「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」(中央教育審議会答申、2018年)は、「2040年に必要とされる人材」を「AIには果たせない真に人が果たすべき役割を十分に考え、実行できる人材」としている。また、「Society 5.0に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」(総務省 Society 5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース、2018年)は、「Society 5.0」を「あくまでも人間を中心として、一人一人が他者との関わりの中で『幸せ』や『豊かさ』を追求できる社会」とし、「新たな価値を創造するリーダーであればこそ、他者を思いやり、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向する倫理観、価値観が一層重要となる」としている。これからの社会では、STEM(科学、技術、工学、数学)の知識・技能も注目されるが、それと同時に、これらの知識・技能をどう活用すべきかを考え抜くことができることや、AIには果たせないような、人だからこそ果たすべき役割を十分に考え、実行できることが、なおいっそう求められるようになる。

おりしも、新型コロナウイルスの蔓延にともなって、すべての人類が直面している諸課題は、そもそも人間らしく生きるとは何か、これまで人類はどのようにして危機に直面しそれをどう乗り越えてきたか、持続可能な社会のあり方はどうあるべきか、グローバル化が進む中で異文化間でどう協働していくことができるかといった、きわめて根本的であり、かつ、実践的な問いに答えなければ解決できないものばかりである。そして、これらの解決には、哲学歴史学、人間行動学、言語文化学、文化構想学を軸とする学問的基盤の上に構築された高度な専門知識と学問探究を通して養成される柔軟な思考力が必須である。

予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりを、哲学歴史学、人間行動学、言語文化学、文化構想学を基盤とする大学学士課程が大阪の地に希求される。ここに大阪公立大学文学部を設立する意義がある。

(2) 学部設置までの経緯

本学の前身となる大阪市立大学文学部は昭和24(1949)年に市立大学に創設された法文学部文学科をさらに前身としており、12専攻(哲学、社会学、心理学、教育学、芸術学、歴史学、地理学、国文学、中国学、英文学、独文学、仏文学)が設置された。

昭和28(1953)年には、「産業大都市大阪には文学部の存在が絶対に必要」という恒藤恭学長の強い信念に支えられて、文学部が創設された。同年に修士課程、その翌々年の昭和30(1955)年には博士課程も設置され、第2次大戦後の新制大学としては異例の早さで大学

院の充実がはかられた。昭和 43(1968)年からは 5 学科 11 専攻となり、大学院も整備され、実学重視といわれる大阪の学問的気風のなかで異彩を放つこととなった。

平成 13(2001)年 4 月からは大学院の部局化に踏みきり、正式名称を大阪市立大学大学院文学研究科・文学部とし、大学院の教育研究を重点化することとなった。これを契機に、言語文化学科内に、新たなディシプリンである言語情報コースと表現文化コースが誕生し、また、大学院に他に類例をみないアジア都市文化学専攻が新設され、アジアとの研究交流の太いパイプと都市文化研究の基盤が構築されることになった。その後、平成 14(2002)年には、文学研究科・文学部は、世界最高水準の研究教育拠点を目指す文部科学省の「21 世紀 COE プログラム」に採択され、名実ともに全国有数の拠点研究機関として着実に実績をあげることとなった。

平成 22(2010)年 4 月には、言語情報コースが言語応用コースとなった。さらに、令和 2(2020)年 4 月には、新たに文化構想学科が設置され、4 学科 14 コースの教育研究体制が完成した。文化構想学科は、従来の学問分野とはまったく違った斬新な視点から文化的事象を考究することによって、現代社会で必要とされる文化への深い理解の基盤を構築しようとしている。また、そうした深い知見に根ざしつつ、多様な文化的事象を社会のなかで積極的に活用できる人材、そして、現代社会が抱える諸問題の解決に取り組み、21 世紀型成熟社会を文化の面から担う人材を育てようとしている。

一方、これまで文学部は、研究と教育と地域貢献の 3 要素を有機的に連関させるプログラムを精力的に実施してきた。たとえば、大阪を代表する文化である文楽をテーマとした上方文化講座である。この講座は学生が受講する授業であると同時に、広く市民にも開放した講座でもある。文楽技芸員による公演・実演と、さまざまな専門分野の文学研究科教員による、研究に裏打ちされた講義が往還するプログラムとなっている。また、地域で活躍する観光ボランティアを対象にしたリカレント教育を、文化人材育成プログラムなどの市民講座として毎年開講しており、多くの受講生を集め実績を積んでいる。これらはいずれも文化の実践的活用を軸にした教育という点で先駆的な試みである。また、研究の学際性、応用性が教育や地域貢献と有機的に相互作用した好例であると言える。

このように、文学部は、基礎的性格の学問分野から、応用的・学際的な性格の分野まで、学生の幅広い関心に応えてきた。また、上述したように直近の令和元(2019)年には、文化構想学科設立というイノベーションに取り組み、研究、教育、地域貢献を有機的に連関させて社会に貢献する大学像を模索してきている。新大学設立にあたっては、常に新しい文学部像を模索していくというこれまでの姿勢を継承し、新しい社会だからこそ求められる文学部として、人文科学・行動科学に基づく人材養成を行う新学部を設置する。

(3) 学科設置の必要性

【哲学歴史学科】

予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会では、これまで人類はどのようにして危機に直面しそれをどう乗り越えてきたかを分析し、持続可能な社会を志向する倫理観、価値観を考察していくことが一層重要となる。そこで求められるのが、人間と文化に対

する新たなものの見方と方法に対する原理的反省である。哲学、そして日本史・世界史からなる歴史学は諸学の基礎としての役割を共有しており、哲学的観点と歴史的観点は人間理解のための2つの基本的な座標軸と言える。激しく変動する時代潮流のなかで、人間文化の本質とその普遍的価値を見極め、さらにその変化の意味と方向性を洞察する能力が切実に求められており、哲学と歴史学の学問的追究を基盤とした人材育成が強く希求される。

【人間行動学科】

あくまでも人間を中心として、一人一人が他者との関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる社会の中では、他者を思いやり、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材が求められる。そのニーズに応えるのが、社会学、心理学、教育学、地理学を基盤とする学際的な人間行動学科である。

社会学は、人間の社会生活の諸相、心理学は人間の行動とそれを支える心の働き、教育学は人間の発達と教育的働きかけとの関係、地理学は地域性や景観の形成に対する人間の働きかけをそれぞれに研究するものであるが、それらは、ともに人間の行動の諸側面を対象とし、それらを観察・調査・実験・フィールドワークの科学的手法に基づいて実証的に明らかにすることを目指す点で共通しており、このような学問的追究を基盤とした人材育成が予測不可能な時代、グローバル社会において強く希求される。

【言語文化学科】

予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史的営為の所産である文化を、言語を通じて根源的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学科である。

グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化、それぞれの言語、文学、文化、社会の視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材として育っていくことが強く求められている。

【文化構想学科】

文化構想学科は、文化を積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高め、文化をもって21世紀型成熟社会における諸課題の解決をはかることのできる人材を育成する。従来の文化研究においては、文化はあくまでも研究対象であり、それを活用するという視点は必ずしも重視されてこなかった。それにたいして本学科では、さまざまな場で活用される文化や文化的コンテンツに関する研究、日本を含めたアジア地域における文化活用の実際についての比較研究、実践的・課題解決的な文化活用の方策についての研究等の観点から、文化や文化的コンテンツの表現そのものから社会的活用に至るまでの一連の過程について、教育、研究を進めていく。

文化の社会的活用について修得した専門人材は、従来の人文系諸分野においては今後の

必要性に比して必ずしも十分に輩出されてきたとは言いがたい。ビジネスの素材や集客のための訴求力として、対外的なソフトパワーとして、共生的社会実現のための土台としてなど、文化が活用される場は多岐にわたる。これらはいずれも現代社会における重要な課題となっているものであり、本学科の教育、研究は、現代社会の課題解決にも大きく寄与するものである。

なお、「学生の確保の見通し等を記載した書類」のとおり、本学部においては、長期的かつ安定的に学生を確保することができる。

イ 人材養成の方針及びディプロマポリシー

(1) 人材養成の方針

文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。

具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。

なお、「学生の確保の見通し等を記載した書類」のとおり、この育成方針は、社会的なニーズにも合致している。

以上のような人材養成の方針に従い、文学部は、所定の単位修得により、以下のようなディプロマポリシーを満たした学生に、学位を授与する。

(2) ディプロマポリシー

全ての学生が、[知識・理解][技能][態度・志向性][統合的な学修経験と創造的思考力]の領域で以下のような学修成果を修めることをめざす。

[知識・理解]

- ・人文科学・行動科学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。
- ・人文科学・行動科学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。
- ・人文科学・行動科学の方法や考え方を通して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。

[技能]

- ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、人文科学・行動科学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。

- ・情報通信技術（ICT）などを用い人文科学・行動科学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、人文科学・行動科学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。
- ・人文科学・行動科学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。

[態度・志向性]

- ・人文科学・行動科学の方法や考え方に基づいて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。
- ・人文科学・行動科学の方法や考え方に基づいて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。
- ・人文科学・行動科学の方法や考え方に基づいて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。
- ・人文科学・行動科学の方法や考え方に基づいて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。

[統合的な学修経験と創造的思考力]

- ・人文科学・行動科学の方法や考え方に基づいて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。

また、文学部では、卒業論文を通しての学修を重視しており、全ての学生が次の学修成果を修めることをめざす。

- ・明確に課題を設定し、しっかりとした研究方法をもちいて論証することができる。
- ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。
- ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。
- ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。
- ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。
- ・適切に典拠を示しながら論述することができる。
- ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができる。
- ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができる。

【哲学歴史学科】

人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる人材を養成する。

[知識・理解]

- ・哲学・歴史学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めるこ

とができる。

- ・哲学・歴史学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。
- ・哲学・歴史学の方法や考え方を通して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。

[技能]

- ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、哲学・歴史学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。
- ・情報通信技術（ICT）などを用い哲学・歴史学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、哲学・歴史学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。
- ・哲学・歴史学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。

[態度・志向性]

- ・哲学・歴史学の方法や考え方に基づいて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。
- ・哲学・歴史学の方法や考え方に基づいて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。
- ・哲学・歴史学の方法や考え方に基づいて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。
- ・哲学・歴史学の方法や考え方に基づいて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。

[統合的な学修経験と創造的思考力]

- ・哲学・歴史学の方法や考え方に基づいて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。

また、哲学歴史学科では、哲学・歴史学の分野における卒業論文を通しての学修を重視しており、全ての学生が哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修めることをめざす。

- ・明確に課題を設定し、しっかりとした研究方法をもちいて論証することができる。
- ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。
- ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。
- ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。
- ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。

- ・適切に典拠を示しながら論述することができる。
- ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができる。
- ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができる。

【人間行動学科】

人間や社会を理解するための科学的方法を身につけ、人間行動や人間を取りまく事象を様々な視点から考えることができる人材を養成する。

[知識・理解]

- ・人間行動学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。
- ・人間行動学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。
- ・人間行動学の方法や考え方を通して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。

[技能]

- ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、人間行動学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。
- ・情報通信技術（ICT）などを用い人間行動学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、人間行動学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。
- ・人間行動学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。

[態度・志向性]

- ・人間行動学の方法や考え方に基づいて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。
- ・人間行動学の方法や考え方に基づいて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。
- ・人間行動学の方法や考え方に基づいて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。
- ・人間行動学の方法や考え方に基づいて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。

[統合的な学修経験と創造的思考力]

- ・人間行動学の方法や考え方に基づいて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。

きる。

また、人間行動学科では、人間行動学の分野における卒業論文を通しての学修を重視しており、全ての学生が人間行動学の分野における次の学修成果を修めることをめざす。

- ・明確に課題を設定し、しっかりとした研究方法をもちいて論証することができる。
- ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。
- ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。
- ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。
- ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。
- ・適切に典拠を示しながら論述することができる。
- ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができる。
- ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができる。

【言語文化学科】

人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる人材を養成する。

[知識・理解]

- ・言語文化学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。
- ・言語文化学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。
- ・言語文化学の方法や考え方を通して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。

[技能]

- ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、言語文化学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。
- ・情報通信技術（ICT）などを用い言語文化学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、言語文化学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。
- ・言語文化学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。

[態度・志向性]

- ・言語文化学の方法や考え方に基づいて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。
- ・言語文化学の方法や考え方に基づいて、他者と協調して行動でき、また、必要に応

- じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。
- ・言語文化学の方法や考え方に基づいて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。
 - ・言語文化学の方法や考え方に基づいて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。

[統合的な学修経験と創造的思考力]

- ・言語文化学の方法や考え方に基づいて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。

また、言語文化学科では、言語文化学の分野における卒業論文を通しての学修を重視しており、全ての学生が言語文化学の分野における次の学修成果を修めることをめざす。

- ・明確に課題を設定し、しっかりとした研究方法をもちいて論証することができる。
- ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。
- ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。
- ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。
- ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。
- ・適切に典拠を示しながら論述することができる。
- ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができる。
- ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができる。

【文化構想学科】

文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる人材を養成する。

[知識・理解]

- ・文化構想学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。
- ・文化構想学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。
- ・文化構想学の方法や考え方を通して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。

[技能]

- ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、文化構想学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。
- ・情報通信技術（ICT）などを文化構想学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、文化構想学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。

- ・文化構想学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・読解・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。

[態度・志向性]

- ・文化構想学の方法や考え方に基づいて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。
- ・文化構想学の方法や考え方に基づいて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。
- ・文化構想学の方法や考え方に基づいて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。
- ・文化構想学の方法や考え方に基づいて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。

[統合的な学修経験と創造的思考力]

- ・文化構想学の方法や考え方に基づいて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。

また、文化構想学科では、文化構想学の分野における卒業論文を通しての学修を重視しており、全ての学生が文化構想学の分野における次の学修成果を修めることをめざす。

- ・明確に課題を設定し、しっかりとした研究方法をもちいて論証することができる。
- ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。
- ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。
- ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。
- ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。
- ・適切に典拠を示しながら論述することができる。
- ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができる。
- ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができる。

ウ 研究対象とする中心的な学問分野

【哲学歴史学科】

本学科は、広く世界と人間に関わる一切の問題について、自由な理性的探究を行う「哲学」、日本の過去の人間のいとなみを対象とし、ある事件や現象、政治・経済・社会・文化の仕組みは、前段階のどのような状況のなかから生まれ、そのためにどのような本質をもち、つぎの段階にどのように影響するのかを、史料によって明らかにする「日本史学」、および、世界の過去の人間のいとなみを対象として、同様に考究する「世界史学」の3つの学問分野を柱とする。

細分化すれば、西洋哲学史、論理学、存在論、認識論、科学哲学、心の哲学、言語哲学、理論的倫理学、応用倫理学、宗教学、美学、分析哲学など（以上、哲学）、日本の古代、中

世、近世、近現代における政治史・制度史、社会史・都市史、文化史・思想史、および考古学（以上、日本史）、中国近世史、中国近代史、オスマン帝国史、ロシア史、ビザンツ史、ヨーロッパ中世史、ヨーロッパ近現代史など（以上、世界史）から構成される。

【人間行動学科】

本学科は、社会現象をつねに人間・社会関係・集団のあり方や行為として解釈していく「社会学」、多様で複雑な人間や動物の行動を、心のはたらきという視点から解明する「心理学」、人間の学びとそれを促進する働きかけのあり方を考究する「教育学」、人間の生活する地球表面の「空間」や「景観」の形態、構造、過程を研究する「地理学」の4つの学問分野を柱とする。

細分化すれば、社会学史、文化社会学、映像社会学、メディア文化論、生活世界社会学、地域社会学、都市・社会政策社会学、比較社会学、家族社会学、老年社会学、ジェンダー論、都市社会学、アート社会学、歴史社会学など（以上、社会学）、社会心理学、認知心理学、生理心理学、行動分析学など（以上、心理学）、教育哲学、教育思想研究、教育方法学、教育実践学、教育工学、教育経営学、教育行政学、教育社会学、教師教育学、教育史、比較・国際教育学など（以上、教育学）、経済・都市地理学、景観・文化地理学、社会・政治地理学、地理情報システム論など（以上、地理学）から構成される。

【言語文化学科】

本学科は、長い歴史を有する日本語、中国語、英語、ドイツ語、フランス語と、これらの言語によって形成される文学作品や文化事象を研究することを目的とし、「国語国文学」「中国語中国文学」「英米言語文化学」「ドイツ語圏言語文化学」「フランス語圏言語文化学」の5つの学問分野を柱とする。

細分化すれば、平安文学、中世文学、近世文学、近代文学、国語学など（以上、国語国文学）、中国文学、中国語学、中国文化論など（以上、中国語中国文学）、近世イギリス文学、近現代イギリス文学、アメリカ文学、英米文化論、英語学など（以上、英米言語文化学）、20世紀ドイツ語圏文学、18・19世紀ドイツ語圏文学、18・19世紀ドイツ語圏文化論、ドイツ語学、および、言語教育・学習研究など（以上、ドイツ語圏言語文化学）、19世紀フランス語圏文学、19世紀フランス語圏文化論、20世紀フランス語圏文学、20世紀フランス語圏文化論、フランス言語学、および、言語教育・学習研究など（以上、フランス語圏言語文化学）から構成される。

【文化構想学科】

本学科は、現代の多様な文化現象の理論的分析と新たな文化表現の創出を考究する「表現文化」、アジア地域における文化活用実践の比較研究をもとに地域、社会に適合的な文化活用の方策を考察する「アジア文化」、課題解決的な文化活用の実践や文化による社会貢献、地域連携の手法を検討する「文化資源」という三つの専門分野から編成される。それぞれの専門分野が現代社会におけるさまざまな課題に対応できるような教育、研究を目指していることから必然的に学際的な性格が強くなり、伝統的な学問分野で研究対象を規定することは難しい。しかしあえてまとめれば、テキスト文化論、表象文化論、ポピュラー文化論、

比較表現論（以上、表現文化）、地域文化論、文化人類学、比較文化論（以上、アジア文化）、演劇論、芸術学、観光学、音楽学（以上、文化資源）となる。

エ 教育研究上の数量的・具体的な到達目標等

該当なし

2 学部・学科等の特色

文学部の特色

大阪公立大学は、高等教育機関が果たすべき役割のなかでも、世界的研究・教育拠点および高度専門職業人養成としての機能を有する。文学部の学士課程も、大学院博士前期課程、博士後期課程という 2 つの課程と連携させることで、本学の機能を共有し、学部生が大学院生と教員と共に研究していく環境を提供する。

文学部は、精神的文化的側面と物質的経済的側面の調和のとれた社会を実現し、他者の文化(歴史・宗教・風俗習慣等を広く含む。)を理解・尊重して他者とコミュニケーションをとることのできる力を持った個人を創造するという高等教育の責務のうち、精神的文化的側面、他者の文化の理解・尊重、他者とのコミュニケーションの能力を育成する機能をもつ。また、学士課程の果たすべき機能のうち、学生の人格形成機能や生涯にわたる学習の基礎を培う機能を、卒業論文研究を中心とした探究活動を通して実現することを目指す。そこで、文学部では、各学問分野における第一線の研究者の指導のもと、学部生に学問をすることを経験させ、その集大成として質の高い卒業論文を完成させることを重視する。

「哲学歴史学科」「人間行動学科」「言語文化学科」「文化構想学科」の 4 学科が多彩な科目を提供するが、履修指導や研究指導にあたっては、15 の履修コースモデルを設け、1 コースモデルあたり 3～5 名の教員に対し、1 学年、数名から十数名の学生という徹底した少人数編成を採用する。

【哲学歴史学科】の特色

世界的研究・教育拠点および高度専門職業人養成の機能を果たす使命をもつ本大学において、卒業論文研究を中心とした探究活動を通して、他者の文化(歴史・宗教・風俗習慣等を広く含む。)を理解・尊重して他者とコミュニケーションをとることのできる力を持った個人を創造することによって実現しようとする文学部の機能を、哲学歴史学の学問分野を基盤として果たそうとするのが哲学歴史学科である。

本学科の 2 つの柱をなす哲学と歴史学（日本史と世界史）は、人間と文化への根本的反省を目指す学問として、これまで互いに影響を及ぼしあってきた。しかし、両者を教育・研究上の組織として統合した学科は他に例を見ない。これが本学科の第 1 の特徴である。第 2 に、哲学と歴史学の研究の主要な部分は、原典・資料の理解を第一歩とする。そこで必要とされるのは、古今東西の文献を広く読解する能力であり、それを通じて、人間文化を理解するための批判的能力を養成することである。本学科の第 2 の特色は、哲学と歴史学が協力

しあって、批判的かつ創造的な能力の養成に努める点にある。他方、多くの学生の人間文化に関する幅広い関心に応えることも本学科の重要な責務である。本学科の第 3 の特色は、人間と文化を根底から問い直そうとするすべての学生に、哲学と歴史学を開かれた学問とすることにある。このような観点から、本学科は、美術史、考古学、民俗学、科学史などの諸領域の成果も積極的に取り入れ、諸学の協力と対話という本学科の理念を一層推進しようとするものである。

こうした教育を通じて本学科は、哲学および歴史学の専門的素養に支えられながら、学校教育、文化行政、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材の育成を目指す。なお、卒業後の学生の進路としては、大学院進学、卸売業・小売業（百貨店、自動車販売、雑貨販売等）、情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、金融業（銀行等）、公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、サービス業（人材派遣等）、中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）などが考えられる。

【人間行動学科】の特色

世界的研究・教育拠点および高度専門職業人養成の機能を果たす使命をもつ本大学において、卒業論文研究を中心とした探究活動を通して、他者の文化(歴史・宗教・風俗習慣等を広く含む。)を理解・尊重して他者とコミュニケーションをとることのできる力を持った個人を創造することによって実現しようとする文学部の機能を、人間行動学の学問分野を基盤として果たそうとするのが人間行動学科である。

本学科は、人間の多彩な行動について深く考え、現代社会が直面する諸問題に対して能動的に働きかける力を養う。そのために、人間の営みについての主体的な関心を育てることを重視するとともに、問題を科学的に解明する能力を養う。また、高度知識基盤社会、グローバル社会にふさわしい新知識と技術を習得させ、国際的に通用する知性と能力を培う。

このような観点から、本学科は次のことに力点をおいて教育を行う。

第 1 に、人間行動に関する学際的な科目を設置し、それを共通の核としながら、多様な科目を提供する。

第 2 に、専門科目においては、人間行動を研究するための方法論を学ばせ、実習などを通して観察・調査・実験・フィールドワークを中心とした科学的手法に習熟させる。

第 3 に、各専門領域における訓練を基礎として、学生の個別の関心に応じた、専門領域を越えた幅広い科目履修を奨励する。

こうした教育を通じて本学科は、社会学、心理学、教育学、地理学の専門的素養に支えられながら、学校教育、市民サービス、国際交流などの人間に関わる分野において幅広く活躍できる人材の育成を目指す。なお、卒業後の学生の進路としては、大学院進学、公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、学校事務（大学、教育委員会）、情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、金融・保険（銀行、信用金庫、証券、保険等）、製造業（電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等）、卸売業・小売業（百貨店、自動車販売、雑貨販売等）、中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）などが考えられる。

【言語文化学科】の特色

世界的研究・教育拠点および高度専門職業人養成の機能を果たす使命をもつ本大学において、卒業論文研究を中心とした探究活動を通して、他者の文化(歴史・宗教・風俗習慣等を広く含む。)を理解・尊重して他者とコミュニケーションをとることのできる力を持った個人を創造することによって実現しようとする文学部の機能を、言語文化学の学問分野を基盤として果たそうとするのが言語文化学科である。

本学科は、言語によって表現される、あるいは言語を通じて分析されるあらゆる文化現象、つまり言語を媒介とする精神文化のあらゆる領域を研究の対象とする。そのため、従来の文献学的研究を基礎とした研究の方向と精神を一段と創造的に発展させ、専門教育を提供する組織としての責務を果たすとともに、内外諸地域における言語文化の相互関係を普遍的、現代的な視点から総合的に研究することを目指す。

また、国語、中国語、英米語、ドイツ語、フランス語をそれぞれ、文学、言語学、文化学の側面から融合的に研究することを特色とする。

こうした教育を通じて本学科は、文学、言語学、文化学の専門的素養に支えられながら、学校教育、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材の育成を目指す。なお、卒業後の学生の進路としては、大学院進学、情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、販売業（百貨店、商社等）、製造業（電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等）、金融・保険（銀行、信用金庫、証券、保険等）、公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、中学・高等学校教員（国語、外国語）などが考えられる。

【文化構想学科】の特色

世界的研究・教育拠点および高度専門職業人養成の機能を果たす使命をもつ本大学において、卒業論文研究を中心とした探究活動を通して、他者の文化(歴史・宗教・風俗習慣等を広く含む。)を理解・尊重して他者とコミュニケーションをとることのできる力を持った個人を創造することによって実現しようとする文学部の機能を、文化構想学の学問分野を基盤として果たそうとするのが文化構想学科である。

教育、研究における学際性、応用性の蓄積、文化を通じた社会貢献の実践というおおよそ20年にわたる文学部・文学研究科の取り組みを、文化の活用という現代社会からの要望に応えるべく形にしたのが、2019年度に新設された文化構想学科である。本学科は、文学部が取り組んできた現代的ニーズに応えられる新しい人文学を担う学科として、これまでの文学部における知の蓄積を発展、展開させていく。さまざまな文化や文化的事象のあり方を学際的・理論的・実践的に考究することで、社会的実践の場における文化の積極的な活用のあり方を探るとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化表現・文化実践を主導的に構想する教育研究を目論むものである。

こうした教育を通じて本学科は、表現文化学、アジア文化学、文化資源学の専門的素養に支えられながら、学校教育、文化施設、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材の育成を目指す。なお、卒業後の学生の進路としては、大学院進学、博物館・美術館学芸員、サービス業（人材派遣、観光業等）、広告代理店、コンサルティング、情報通信業（マスコミ、シ

ステムエンジニアリング等)、卸売業・小売業(百貨店、自動車販売、雑貨販売等)、製造業(電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等)、公務員(国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等)などが考えられる。

3 学部・学科等の名称及び学位の名称

ア 学部・学科等の名称及び当該名称とする理由

[学部・学科の名称]

学部名称	文学部
学科名称	哲学歴史学科
	人間行動学科
	言語文化学科
	文化構想学科

(1) 学部の名称を当該名称とする理由

哲学、日本史学、世界史学、社会学、心理学、教育学、地理学、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化学、ドイツ語圏言語文化学、フランス語圏言語文化学、表現文化学、アジア文化学、文化資源学を包括する学部の名称として、わが国では伝統的に「文学部」という名称が用いられてきているので、この名称を選んだ。

(2) 学科の名称を当該名称とする理由

【哲学歴史学科】

世界的研究・教育拠点および高度専門職業人養成の機能を果たす使命をもつ本大学において、卒業論文研究を中心とした探究活動を通して、他者の文化(歴史・宗教・風俗習慣等を広く含む。)を理解・尊重して他者とコミュニケーションをとることのできる力を持った個人を創造することによって実現しようとする文学部の機能を、哲学、日本史学、世界史学の学問分野を基盤として果たそうとするのが哲学歴史学科である。哲学、日本史学、世界史学を包括する名称として、哲学歴史学科とした。

【人間行動学科】

世界的研究・教育拠点および高度専門職業人養成の機能を果たす使命をもつ本大学において、卒業論文研究を中心とした探究活動を通して、他者の文化(歴史・宗教・風俗習慣等を広く含む。)を理解・尊重して他者とコミュニケーションをとることのできる力を持った個人を創造することによって実現しようとする文学部の機能を、社会学、心理学、教育学、地理学の学問分野を基盤として果たそうとするのが人間行動学科である。社会学、心理学、教育学、地理学といった、広く人間行動を研究対象とする学科の名称として、人間行動学科とした。

【言語文化学科】

世界的研究・教育拠点および高度専門職業人養成の機能を果たす使命をもつ本大学にお

いて、卒業論文研究を中心とした探究活動を通して、他者の文化(歴史・宗教・風俗習慣等を広く含む。)を理解・尊重して他者とコミュニケーションをとることのできる力を持った個人を創造することによって実現しようとする文学部の機能を、国語、中国語、英米語、ドイツ語、フランス語に関わる言語学、文学、文化学の学問分野を基盤として果たそうとするのが言語文化学科である。国語、中国語、英米語、ドイツ語、フランス語それぞれの言語に関わる言語学、文学、文化学、すなわち言語文化を対象として研究する学科の名称として、言語文化学科とした。

【文化構想学科】

世界的研究・教育拠点および高度専門職業人養成の機能を果たす使命をもつ本大学において、卒業論文研究を中心とした探究活動を通して、他者の文化(歴史・宗教・風俗習慣等を広く含む。)を理解・尊重して他者とコミュニケーションをとることのできる力を持った個人を創造することによって実現しようとする文学部の機能を、表現文化学、アジア文化学、文化資源学の学問分野を基盤として果たそうとするのが文化構想学科である。

本学科は、さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想することを目的とする。そのなかで文化的コンテンツにたいする専門的見識と文化的多様性への深い理解とを併せ持ちながら、文化を応用的、実践的に活用しつつ、新たな文化を構想することが出来る人材の育成をはかるものである。

本学科のこのような目的と人材育成の特色をひと言で言い表すならば、「文化を構想する」ということになろう。このような意味での「文化構想学」という学科を設置する。人文学における新たな、かつ社会的必要性のある学問領域として、「文化構想学科」という名称を付す。上述のような学問・実践領域に近いものとして「アーツ・マネジメント」がある。これは、社会のなかでの芸術の活用を図り、同時に新たな芸術の可能性を追求するものである。本学科は、狭い意味での芸術にとどまらず、文化についてこれを実現していこうとするものである。ただし、日本語においては「マネジメント」という語には経営学的、産業管理的ニュアンスが強く伴っているため、「文化構想」という名称を選択した。一方その英訳については、文化研究の分野においても「arts management」という語が広く定着していることを鑑み、「Cultural Management」という名称をあてた。

イ 学位の名称及び当該名称とする理由

〔学位の名称〕

学士(文学)

〔当該名称とする理由〕

文学部の学士課程を通して取得できる学位は、学士(文学)がもっとも一般的であるため、この名称を妥当とした。

ウ 学部・学科等及び学位の英訳名称

学部及び学科名	英訳名称
文学部	School of Literature and Human Sciences
哲学歴史学科	Department of Philosophy and History
人間行動学科	Department of Human Behavioral Sciences
言語文化学科	Department of Language and Culture
文化構想学科	Department of Cultural Management

学位名称	英訳名称
学士（文学）	Bachelor of Arts

4 教育課程の編成の考え方及び特色

ア 教育課程の編制方針（カリキュラムポリシー）

文学部では、人文科学・行動科学の方法や考え方を通して、[知識・理解] [技能] [態度・志向性] [統合的な学修経験と創造的思考力] の領域で学修成果を修めることができる多種多様な授業科目を用意し、人文科学・行動科学の基礎となる原典、史料、文献などを調査・読解する能力を鍛え、批判的、創造的に問題に取り組む能力を培う。その際、少人数教育を通して時間と空間を共有することを活かした学修環境を提供し、とくにきめこまかな卒業論文の指導を通して、学士にふさわしい人材を育成するために、哲学歴史学科、人間行動学科、言語文化学科、文化構想学科の4つの学科による教育課程を編成する。

なお、講義や演習等として行われる個々の授業科目の内容および、定期試験・レポート・平常点による評価方法の詳細については、シラバスに記載する。

【哲学歴史学科】

人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。

[知識・理解]

- ・哲学・歴史学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。
- ・哲学・歴史学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。
- ・哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。

[技能]

- ・日本語とひとつまたは複数外国語を用いて、哲学・歴史学の研究に求められる水準

で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基幹教育科目の英語科目および初修外国語科目を配置する。専門科目にて中国古典語、ギリシア語、ラテン語の科目を配置する。

- ・情報通信技術（ICT）などを用い哲学・歴史学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。
- ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、哲学・歴史学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。
- ・哲学・歴史学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするため、多様な演習科目を配置し、卒業論文研究につなげる。

[態度・志向性]

- ・哲学・歴史学の方法や考え方に基づいて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目や1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。
- ・哲学・歴史学の方法や考え方に基づいて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外の活動を通してきめ細かに指導する。
- ・哲学・歴史学の方法や考え方に基づいて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸問題を通して具体的に指導する。
- ・哲学・歴史学の方法や考え方に基づいて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。

[統合的な学修経験と創造的思考力]

- ・哲学・歴史学の方法や考え方に基づいて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。

このように、哲学歴史学科では、哲学・歴史学の分野における卒業論文を通しての学修を重視しており、全ての学生が哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修めることをめざす。

- ・明確に課題を設定し、しっかりとした研究方法をもちいて論証することができるようにする。
- ・図書館の機能を十分に使いこなすことができるようにする。
- ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができるようにする。
- ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができるようにする。
- ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができるようにする。
- ・適切に典拠を示しながら論述することができるようにする。
- ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができるようにする。
- ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができるようにする。

【人間行動学科】

人間や社会を理解するための科学的方法を身につけ、人間行動や人間を取りまく事象を様々な視点から考えることができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。

[知識・理解]

- ・人間行動学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。
- ・人間行動学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。
- ・社会学、心理学、教育学、地理学の4つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。

[技能]

- ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、人間行動学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基幹教育科目の英語科目および初修外国語科目を配置する。専門科目にて中国古典語、ギリシア語、ラテン語の科目を配置する。
- ・情報通信技術（ICT）などを用い人間行動学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。
- ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、人間行動学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、社会学、心理学、教育学、地理学の4つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。
- ・人間行動学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身

につけることができるようにするため、多様な演習科目や実験科目を配置し、卒業論文研究につなげる。

[態度・志向性]

- ・人間行動学の方法や考え方に基づいて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目や1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。
- ・人間行動学の方法や考え方に基づいて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外の活動を通してきめ細かに指導する。
- ・人間行動学の方法や考え方に基づいて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、社会学、心理学、教育学、地理学の4つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸問題を通して具体的に指導する。
- ・人間行動学の方法や考え方に基づいて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、社会学、心理学、教育学、地理学の4つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。

[統合的な学修経験と創造的思考力]

- ・人間行動学の方法や考え方に基づいて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができるようにするために、社会学、心理学、教育学、地理学の4つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。

このように、人間行動学科では、人間行動学の分野における卒業論文を通しての学修を重視しており、全ての学生が人間行動学の分野における次の学修成果を修めることをめざす。

- ・明確に課題を設定し、しっかりとした研究方法をもちいて論証することができるようにする。
- ・図書館の機能を十分に使いこなすことができるようにする。
- ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができるようにする。
- ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができるようにする。
- ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができるようにする。
- ・適切に典拠を示しながら論述することができるようにする。
- ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができるようにする。
- ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができるようにする。

【言語文化学科】

人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる人材を養成するために、以下のとおり教育

課程を編成する。

[知識・理解]

- ・言語文化学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。
- ・言語文化学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。
- ・国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。

[技能]

- ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、言語文化学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基幹教育科目の英語科目および初修外国語科目を配置する。専門科目にて、中国語・ドイツ語・フランス語などのコミュニケーション科目、中国古典語、ギリシア語、ラテン語の科目を配置する。
- ・情報通信技術（ICT）などを用い言語文化学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。
- ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、言語文化学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。
- ・言語文化学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするために、多様な演習科目を配置し、卒業論文研究につなげる。

[態度・志向性]

- ・言語文化学の方法や考え方に基づいて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目や1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。
- ・言語文化学の方法や考え方に基づいて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外の活動を通してきめ細かに指導する。

- ・言語文化学の方法や考え方に基づいて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸問題を通して具体的に指導する。
- ・言語文化学の方法や考え方に基づいて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。

[統合的な学修経験と創造的思考力]

- ・言語文化学の方法や考え方に基づいて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができるようにするために、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。

このように、言語文化学科では、言語文化学分野における卒業論文を通しての学修を重視しており、全ての学生が言語文化学分野における次の学修成果を修めることをめざす。

- ・明確に課題を設定し、しっかりとした研究方法をもちいて論証することができるようにする。
- ・図書館の機能を十分に使いこなすことができるようにする。
- ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができるようにする。
- ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができるようにする。
- ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができるようにする。
- ・適切に典拠を示しながら論述することができるようにする。
- ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができるようにする。
- ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができるようにする。

【文化構想学科】

文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。

[知識・理解]

- ・文化構想学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。
- ・文化構想学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～

2年次に学科必修科目を配置する。

- ・表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。

[技能]

- ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、文化構想学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基幹教育科目の英語科目および初修外国語科目を配置する。専門科目にて中国古典語、ギリシア語、ラテン語の科目を配置する。
- ・情報通信技術（ICT）などを用い文化構想学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。
- ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、文化構想学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。
- ・文化構想学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするため、多様な演習科目や実験科目を配置し、卒業論文研究につなげる。

[態度・志向性]

- ・文化構想学の方法や考え方に基づいて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目や1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。
- ・文化構想学の方法や考え方に基づいて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外の活動を通してきめ細かに指導する。
- ・文化構想学の方法や考え方に基づいて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸問題を通して具体的に指導する。
- ・文化構想学の方法や考え方に基づいて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。

[統合的な学修経験と創造的思考力]

- ・文化構想学の方法や考え方に基づいて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することがで

きるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。

このように、文化構想学科では、文化構想学の分野における卒業論文を通しての学修を重視しており、全ての学生が文化構想学の分野における次の学修成果を修めることをめざす。

- ・明確に課題を設定し、しっかりとした研究方法をもちいて論証することができるようにする。
- ・図書館の機能を十分に使いこなすことができるようにする。
- ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができるようにする。
- ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができるようにする。
- ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができるようにする。
- ・適切に典拠を示しながら論述することができるようにする。
- ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができるようにする。
- ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができるようにする。

イ 教育課程の概要及び特色

文学部では、学士課程4年間一貫教育を保障するため、1年次から4年次の学生が同一キャンパスで学修することとし、1年次には、基幹教育科目のみならず、専門科目を少しずつ履修し始め、学年が上がるごとに、専門科目の占める割合を高めていく。基本的な教養と学際的な視点を身につけるために、基幹教育科目を4年間にわたって履修することを可能にしている。また、国際的な視野を獲得し、活躍する人材を養成するため、英語・初修外国語の学修を重視する。

専門科目では、人文科学・行動科学の基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義等の科目を編成する。

専門教育科目は、必修科目、選択必修科目、自由選択科目、自由科目に分類される。

1年次または2年次に配当される必修科目には、各学科の諸分野を概観する概論科目、各学科の基礎となる知識を身に付ける基礎論科目、各学科の研究技能を身に付けるデータ解析科目や基礎演習科目がある。

具体的には、哲学歴史学科では、「人間文化基礎論1」「人間文化基礎論2」「人間文化概論A」「人間文化概論B」（いずれも1年次）が必修科目である。人間行動学科では、「人間行動学概論A」「人間行動学概論B」（以上1年次）、「人間行動学データ解析法1」「人間行動学データ解析法2」（以上2年次）が必修科目である。言語文化学科では、「言語文化概論A」「言語文化概論B」「言語文化基礎論A」「言語文化基礎論B」（いずれも1年次または2年次）が必修科目である。文化構想学科では、「文化構想学概論A」「文化構想学概論B」（以上1年次）、「文化構想学基礎演習A」「文化構想学基礎演習B」（以上2年次）が必修科目である。

また、4年次には、「哲学歴史学研究演習1」「哲学歴史学研究演習2」、「人間行動学研究

演習 1」「人間行動学研究演習 2」、「言語文化学研究演習 1」「言語文化学研究演習 2」、「文化構想学研究演習 1」「文化構想学研究演習 2」といった、それぞれの学科に対応した研究演習科目を必修科目とし、4年間の研究を集大成させて、文学部が重視している卒業論文の研究につなげる。「卒業論文」(10単位)も必修科目であり、必修科目は合計 22 単位となる。

選択必修科目は学科ごとに提供され、学生は所属する学科の選択必修科目を 30 単位履修しなければならない。ひとつの学科内で提供される選択必修科目は多岐に亘っているため、各学科内に 3~5 の履修コースモデル科目群を設定し、いずれかの履修コースモデル科目群を選択してそれに従って選択必修科目を履修すれば、系統的な学修が担保され、学問的基盤を必要とする卒業論文を通しての学修につながるようにしている。

選択必修科目として、概論的な科目、各論的な科目、演習科目、実習科目を設置し、系統的に学修を蓄積できるように配当年次を工夫している。

自由選択科目は、学科にかかわらず自由に選択できる科目で 40 単位以上修得する必要がある。自由選択科目には、各履修コースモデルとして履修することが望ましいとされる科目がある。また、学部共通科目として提供されている科目も自由選択科目である。さらに、所定の単位 (30 単位) を超えて修得した選択必修科目、他学科の専門科目、他学部・他領域の専門科目、基礎教育科目のうち指定する科目も自由選択科目として算入できる。

なお、自由科目は、該当する資格に必要な科目であるが、その単位は卒業に必要な単位として算入できない。

文学部では、上記「1 設置の趣旨及び必要性」「イ 人材養成の方針及びディプロマポリシー」「(2) ディプロマポリシー」でも詳述したように、卒業論文による学修指導を非常に重視しており、それをカリキュラムポリシーにも直結させる。2 年次や 3 年次に行う卒業論文ガイダンスや卒業論文構想発表会等において、卒業論文のテーマ選びの指導をする際には、学生ひとりひとりに、これまでに自分が履修してきた授業科目における学修の振り返りを行わせ、それらの学修と関連付けながら卒業論文のテーマを深めていく指導を行う。このように、ディプロマポリシーを具現化している卒業論文に関連させながら、2 年次、3 年次のカリキュラム履修指導を行う。

5 教員組織の編成の考え方及び特色

ア 教員組織編成の考え方

本学部は、「哲学歴史学科」、「人間行動学科」、「言語文化学科」「文化構想学科」の 4 学科で構成され、各学科には、標準的には 6~11 名程度の教授を含む 12 名~18 名程度の教員 (教授・准教授・講師) を配置する。

教授、准教授、講師は学部教授会の構成員として、文学部の教育課程の編成・履修方法、学生の入学・卒業・留学・退学・編入・課程の修了、学位の授与、学生の学修環境、研究、など、重要事項について審議する。教授、准教授、講師は文学部の教育にあたるが、教授、准教授、講師の順に担当科目数を多く担当し、また、重要科目を担当することとする。教授、

准教授、講師は、学部の管理運営に参画するが、将来構想委員長、教務委員長、庶務委員長など重要な役職は教授が担当することを原則とする。文学部の将来を左右する重要事項を審議する将来構想委員会、文学部の教務関係を審議する教務委員会など、教授会の元に置かれる主要な委員会に、それぞれの内規を設け、定期的に会議を開催し議事録を残すこととする。教授会、将来構想委員会、教務委員会は原則として1月1回開催する。

また、本学部では、履修指導をきめ細かに行うために、各学科に3～5のコースモデル群を設定しているが、そのコースモデル群ごとに、3～7名の教員を配置する。コース担当の教員は、それぞれ教室会議を構成し、内規に基づいて原則として1月に1回会議を開催し、コースの教務事項や学生事項に関わる審議を行い、議事録を残すこととする。

精神的文化的側面と物質的経済的側面の調和のとれた社会を実現し、他者の文化(歴史・宗教・風俗習慣等を広く含む。)を理解・尊重して他者とコミュニケーションをとることのできる力を持った個人を創造するという高等教育の責務のうち、精神的文化的側面、他者の文化の理解・尊重、他者とのコミュニケーションの能力を育成する機能をもつ文学部は、必然的に、幅広く多様な学問領域に対応し、それらを融合しながら教育を行う必要がある。そこで、文学部の教員の配置にあたっては、互いの学問領域が重ならないようにすることによって、学部全体の学問の多様性を担保することができる。本学部では、この原則にしたがって教員を採用してきており、引き続き、各教員の多様で専門的な教育研究の成果を有機的に組み合わせることで創発的効果が得られるような組織を編成する。

世界的研究・教育拠点および高度専門職業人養成の機能を果たす使命をもつ本大学において、文学部の学士課程教育は、大学院における高度な研究に基づいて行われる。それゆえ、講師や助教の人数を少なくし、教授、准教授の人数を確保するようにしている。そのことは、博士の学位取得率の高さにも表れている。なお、演習科目や実習科目であっても、それは高度な研究に基づいて行われることから、むしろ、教授や准教授が演習科目や実習科目を積極的に担当する。

また、卒業論文の指導にあたっては、1人の学生に対して複数の教員が指導する体制をとるようにする。

各学科の教員配置は以下のとおりである。

【哲学歴史学科】

本学科の教員構成は、専任教員が16名(内訳は教授9名、准教授7名)である。これらの専任教員が、必修科目のすべてを担当し、選択必修科目のほとんどを担当し、学部共通科目でない自由選択科目の半数以上を担当する。本学科には、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定しており、各コースモデル群に対応した専門領域を担当する教員をそれぞれ4～7名配置する。

【人間行動学科】

本学科の教員構成は、専任教員が18名(内訳は教授11名、准教授7名)である。これらの専任教員が、必修科目のすべてを担当し、選択必修科目のほとんどを担当し、学部共通科目でない自由選択科目の半数以上を担当する。本学科には、社会学、心理学、教育学、地

理学の4つのコースモデル群を設定しており、各コースモデル群に対応した専門領域を担当する教員をそれぞれ4~5名配置する。

【言語文化学科】

本学科の教員構成は、専任教員が17名（内訳は教授10名、准教授5名、講師2名）である。これらの専任教員が、必修科目のすべてを担当し、選択必修科目のほとんどを担当し、学部共通科目でない自由選択科目の半数以上を担当する。本学科には、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群を設定しており、各コースモデル群に対応した専門領域を担当する教員をそれぞれ3~5名配置する。

【文化構想学科】

本学科の教員構成は、専任教員が12名（内訳は教授6名、准教授6名）である。これらの専任教員が、必修科目のすべてを担当し、選択必修科目のほとんどを担当し、学部共通科目でない自由選択科目の半数以上を担当する。本学科には、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定しており、各コースモデル群に対応した専門領域を担当する教員をそれぞれ4名配置する。

イ 教員組織編成の特色

【哲学歴史学科】

哲学歴史学の教育、研究という学科の目的をより効果的に達成するために、教員を専門性に応じて3つの専門分野に割り振る。哲学分野には主として哲学、倫理学、宗教学、美学に重きをおいた研究をおこなっている教員、日本史分野には主として古代から近現代の日本史の研究および考古学の研究をおこなっている教員、世界史分野には主としてアジア史、ヨーロッパ史について研究をおこなっている教員を配置する。

【人間行動学科】

人間行動学の教育、研究という学科の目的をより効果的に達成するために、教員を専門性に応じて4つの専門分野に割り振る。社会分野には主として文化社会学、比較社会学、地域社会学、家族社会学、都市社会学に重きをおいた研究をおこなっている教員、心理学分野には主として社会心理学、認知心理学、生理心理学、行動心理学に重きをおいた研究をおこなっている教員、教育学分野には主として教育方法学、教師教育学、教育経営学、教育史学、比較・国際教育学に重きをおいた研究をおこなっている教員、地理学分野には主として文化地理学、都市地理学、政治地理学、地理情報システム論に重きをおいた研究をおこなっている教員を配置する。

【言語文化学科】

言語文化学の教育、研究という学科の目的をより効果的に達成するために、教員を専門性に応じて5つの専門分野に割り振る。国語国文学分野には主として国語学、国文学に重きをおいた研究をおこなっている教員、中国語中国文学分野には主として中国語学、中国文学、中国文化学に重きをおいた研究をおこなっている教員、英米言語文化学分野には主として

英語学、英米文学、英米文化学に重きをおいた研究をおこなっている教員、ドイツ語圏言語文化学分野には主としてドイツ語学、ドイツ語圏文学、ドイツ語圏文化学に重きをおいた研究をおこなっている教員、フランス語圏言語文化学分野には主としてフランス語学、フランス語圏文学、フランス語圏文化学に重きをおいた研究をおこなっている教員を配置する。

【文化構想学科】

文化の社会的活用と問題解決に関する教育、研究という学科の目的をより効果的に達成するために、教員を専門性に応じて 3 つの専門分野に割り振る。表現文化分野には主として文化表現の理論的分析に重きをおいた研究をおこなっている教員、アジア文化分野には主として地域研究、比較研究の観点からアジア文化の研究をおこなっている教員、文化資源分野には主として文化の実践的活用について研究をおこなっている教員を配置する。

ウ 専任教員の年齢構成

令和 5 年 3 月 31 日に学内規程により定年となる教授が言語文化学科に 1 名、文化構想学科に 1 名いる。また、令和 6 年 3 月 31 日に学内規程により定年になる教授が人間行動学科に 1 名、言語文化学科に 1 名、文化構想学科に 2 名おり、定年になる准教授が言語文化学科に 2 名いる。さらに、令和 6 年 3 月 31 日に学内規程により定年になる教授が哲学歴史学科に 1 名、人間行動学科に 1 名、文化構想学科に 1 名いる。

令和 5 年 3 月 31 日に定年となる言語文化学科の 1 名の教授については、特例を定めた規程により、有期雇用として完成年度まで留任する。それは、その教授が担当する後期博士課程の教育・研究水準を保つために必須であり、また、学士課程を教授として牽引する必要があるためである。学部完成年度の令和 7 年度中に後任人事を起こし、令和 8 年度以降の教育・研究体制を維持する計画である。令和 5 年 3 月 31 日に定年となる文化構想学科の 1 名の教授については、退職後の令和 5 年 4 月 1 日に同じ専門領域の准教授を雇用することが決定している。

令和 6 年 3 月 31 日に定年となる人間行動学科の 1 名の教授については、特例を定めた規程により、有期雇用として完成年度まで留任する。それは、その教授が担当する後期博士課程の教育・研究水準を保つために必須であり、また、学士課程を教授として牽引する必要があるためである。学部完成年度の令和 7 年度中に後任人事を起こし、令和 8 年度以降の教育・研究体制を維持する計画である。

令和 6 年 3 月 31 日に定年となる言語文化学科の 1 名の教授については、特例を定めた規程により、有期雇用として完成年度まで留任する。それは、その教授が担当する後期博士課程の教育・研究水準を保つために必須であり、また、学士課程を教授として牽引する必要があるためである。学部完成年度の令和 7 年度中に後任人事を起こし、令和 8 年度以降の教育・研究体制を維持する計画である。

令和 6 年 3 月 31 日に定年となる文化構想学科の 2 名の教授のうち 1 名については、特例を定めた規程により、有期雇用として完成年度まで留任する。それは、その教授が担当する後期博士課程の教育・研究水準を保つために必須であり、また、学士課程を教授として牽引

する必要があるためである。学部完成年度の令和 7 年度中に後任人事を起し、令和 8 年度以降の教育・研究体制を維持する計画である。令和 6 年 3 月 31 日に定年となる文化構想学科の 2 名の教授のうち 1 名については、退職後の令和 6 年 4 月 1 日に同じ専門領域の准教授を雇用することが決定している。

令和 6 年 3 月 31 日に定年となる言語文化学科の 2 名の准教授の後任については、当該 2 准教授が担当する予定の科目を兼任教員が担当することになっている。

令和 7 年 3 月 31 日に定年となる哲学歴史学科の 1 名の教授については、特例を定めた規程により、有期雇用として完成年度まで留任する。それは、その教授が担当する後期博士課程の教育・研究水準を保つために必須であり、また、学士課程を教授として牽引する必要があるためである。学部完成年度の令和 7 年度中に後任人事を起し、令和 8 年度以降の教育・研究体制を維持する計画である。

令和 7 年 3 月 31 日に定年となる人間行動学科の 1 名の教授については、特例を定めた規程により、有期雇用として完成年度まで留任する。それは、その教授が担当する後期博士課程の教育・研究水準を保つために必須であり、また、学士課程を教授として牽引する必要があるためである。学部完成年度の令和 7 年度中に後任人事を起し、令和 8 年度以降の教育・研究体制を維持する計画である。令和 7 年 3 月 31 日に定年となる文化構想学科の 1 名の教授については、特例を定めた規程により、有期雇用として完成年度まで留任する。それは、その教授が担当する後期博士課程の教育・研究水準を保つために必須であり、また、学士課程を教授として牽引する必要があるためである。学部完成年度の令和 7 年度中に後任人事を起し、令和 8 年度以降の教育・研究体制を維持する計画である。

※資料 1 定年退職する教員を特例として新大学で勤務する教員として雇用する場合の取り扱いについて

完成年度後の令和 8 年度からの文学部における人事方針として、30 代 10%、40 代 35%、50 代 35%、60 代 20%を目標とする。定年退職する教員を特例として完成年度まで有期雇用する教員は、完成年度末の令和 8 年 3 月末に全員退職する予定である。そのための後任人事を令和 7 年度中に行う。特に、言語文化学科及び文化構想学科は各 3 名が退職となるが、後任はいずれも若い准教授の採用を予定している。

教員の採用にあたっては、全国公募にて実施する。これまでの大阪市立大学文学部における教員採用の実績として、ひとつの公募に対して、ほとんどの場合、数十倍の応募があり、優秀な教員が獲得できている。これらのことから、新大学の文学部では上記の人事方針に則り、将来にわたって継続的に教員組織を維持する体制を確立している。

なお、本学部の完成年度における専任教員の構成は以下のとおりである。各学科に 40 歳代の准教授を配置し、教育、研究の次世代への継承も支障なく継続できる教員構成となっている。

完成年度における専任教員の年齢構成【文学部】

【哲学歴史学科】

職位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計
教授	0人	0人	0人	3人	4人	2人	0人	9人
准教授	0人	0人	5人	1人	1人	0人	0人	7人
講師	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
助教	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	0人	0人	5人	4人	5人	2人	0人	16人

【人間行動学科】

職位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計
教授	0人	0人	0人	7人	2人	2人	0人	11人
准教授	0人	0人	6人	1人	0人	0人	0人	7人
講師	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
助教	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	0人	0人	6人	8人	2人	2人	0人	18人

【言語文化学科】

職位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計
教授	0人	0人	0人	5人	2人	3人	0人	10人
准教授	0人	0人	3人	2人	0人	0人	0人	5人
講師	0人	0人	2人	0人	0人	0人	0人	2人
助教	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	0人	0人	5人	7人	2人	3人	0人	17人

【文化構想学科】

職位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計
教授	0人	0人	0人	2人	2人	2人	0人	6人
准教授	0人	0人	3人	3人	0人	0人	0人	6人
講師	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
助教	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	0人	0人	3人	5人	2人	2人	0人	12人

6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

ア 教育方法等

1年間の授業期間は試験期間等を含め35週にわたる。各授業科目は15週にわたる。授業科目内容の多様性を確保したり、研究の最前線で活躍する他大学の教員に非常勤講師として授業を担当していただくなどしたりして、通常の時間割編成では得られない十分な教育効果が得られると認められる場合は、集中講義として授業を提供することがあるが、その際、学生の学修計画や設備環境の保障などを十分に配慮して実施する。集中講義も15回分をもって2単位とする。

国際基幹教育科目は1年次と2年次に多く履修するように指導するとともに、1年次からは文学部の各学科の基礎となるような科目を履修するように指導する。

文学部専門科目は、原則として1科目2単位とし、学生による授業前後の予習、復習の学修を前提として授業を実施する。

文学部学生は、2年次より次の各学科に分属して学修を進める。さらに、各学科内に3～5の履修モデルとしての「コース」を設置し、各コース担当教員が責任をもって学生の学修を指導する体制をとる。各コースの学生数は数人から数十人を想定しており、そのコースの学生をコースあたり3～5名の教員が履修指導や卒業論文などの研究指導を行う。

学生は、このような少人数教育の体制のもとで履修モデルに従って学修を進めることにより、履修モデルを踏まえた卒業論文の作成ができるようになる。

授業科目は、講義、演習、実習の3つに区分される。講義科目においては、知識や理論、方法論などの理解を修得させる。演習科目では、文学部学生にとって必須の文献読解力を養成するとともに、ディスカッションやグループ学習などを通してコミュニケーション力や自律的に問題解決をなす能力を涵養する。実習科目においては、実践的研究を体験させる。

概論的な講義科目に関しては他学科の学生が受講することも考えられ数十名規模の受講

者となることも想定されるが、専門性が増すにつれて受講者は最大で20名程度であると予想している。演習科目、実習科目については学科定員から判断するに最大で10～20名程度である。

各学科の教育課程の概要と各学科における履修モデルとしてのコースは以下のとおりである。

【哲学歴史学科】

人間の思考と社会・文化を根本的・原理的に問う哲学的観点と、それらの本質を時間軸における変化のなかに見出す歴史的観点とを相補的に培う。そして、履修モデルとして、哲学コース、日本史コース、世界史コースを設置する。

【人間行動学科】

人間の行動の諸側面を対象とし、それらを観察・調査・実験・フィールドワークなどの科学的手法に基づき解明する能力を培う。そして、履修モデルとして、社会学コース、心理学コース、教育学コース、地理学コースを設置する。

【言語文化学科】

さまざまな言語・文学・芸術を対象とし、それらを実証的、学際的に考察し、社会・文化事象に対する深い理解力、優れた言語運用能力や豊かな国際性を培う。そして、履修モデルとして、国語国文学コース、中国語中国文学コース、英米言語文化コース、ドイツ語圏言語文化コース、フランス語圏言語文化コースを設置する。

【文化構想学科】

新たな文化表現の創出、共生的文化の構築、文化資源の活用など、人間の文化的営みを社会のなかで実践的に活用できるような能力を培う。そして、履修モデルとして、表現文化コース、アジア文化コース、文化資源コースを設置する。

イ 履修指導方法

学士課程4年間一貫教育を保証するため、1年次から4年次の学生が同一キャンパスで学修することとし、1年次には、基幹教育科目のみならず、専門科目を少しずつ履修し始め、学年が上がるごとに、専門科目の占める割合を高めていくよう指導する。基本的な教養と学際的な視点を身につけるために、基幹教育科目を4年間にわたって履修することを可能にしている。また、国際的な視野を獲得し、活躍する人材を養成するため、英語・初修外国語の学修を推奨する。

専門科目では、人文科学・行動科学の基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義等の科目を編成する。必修科目は各学科共通科目と卒業論文関連科目である。前者の一部は1年次から履修できる。後者は4年次に履修する。

文学部では、卒業論文を通しての学修を重視しており、全ての学生が次の学修成果を修めることができるよう、学士課程の4年間をとおり、専門授業科目における指導のほか、コースごとの卒業論文ガイダンス、卒業論文構想発表会、卒業論文中間発表会など、学生どうしが切磋琢磨できる機会を設け、あわせて、きめこまかな個別指導を行う。

さらに、単位の対象となる授業科目以外の学修機会も重視している。新入生ガイダンス、新入生歓迎キャンプ、コース決定ガイダンス、各コースガイダンス、卒業論文ガイダンスなどのほか、各種調査・研究会、コース単位の研修旅行などである。また、学生（学部生および大学院生）の「学び」を支援する多彩な事業を、学生みずからが企画・立案し、教員と協働して実施する仕組みとして、教育促進支援機構を設置している。教員と学生が対等な立場で運営と意思決定に参加する支援機構は、教員と学生の双方に普段の教室とは異なる仕方で協働する機会を提供することで、文学部・文学研究科の教育活動に創発的な学びの次元を付与している。このような時間と空間を共有することを活かした学修環境を通して、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる力を育成することを補完している。

なお、具体的な科目配置等は下記の通りである。

○1年次履修科目

基幹教育科目のほか、文学部専門科目の、「人間文化基礎論1」「人間文化基礎論2」「人間文化概論A」「人間文化概論B」「人間行動学概論A」「人間行動学概論B」「言語文化概論A」「言語文化概論B」「言語文化基礎論A」「言語文化基礎論B」「文化構想学概論A」「文化構想学概論B」の中から2～6科目を履修する。

2年次に学科が決定した時点で、哲学歴史学科の学生にとって「人間文化基礎論1」「人間文化基礎論2」「人間文化概論A」「人間文化概論B」が、人間行動学科の学生にとって「人間行動学概論A」「人間行動学概論B」が、言語文化学科の学生にとって「言語文化基礎論A」「言語文化基礎論B」が、文化構想学科の学生にとって「文化構想学概論A」「文化構想学概論B」が、必修科目として算入される。また、必修科目として算入されない科目は、それぞれの自由選択科目として算入される。

また、関心に応じて、「哲学史通論1」「哲学史通論2」「日本史基礎講読1」「世界史基礎講読」「国文学史A」「国文学史B」「国文学史C」「国文学史D」「フランス語圏文学史」「ギリシア語1」「ギリシア語2」「ラテン語1」「ラテン語2」「西洋古典学」「上方文化講座」などを2～6科目履修する。これらのうち、「哲学史通論1」「哲学史通論2」「日本史基礎講読1」「世界史基礎講読」は、2年次に哲学歴史学科になった学生にとって、選択必修科目として算入され、それ以外の学生にとっては、自由選択科目として算入される。また、「国文学史A」「国文学史B」「国文学史C」「国文学史D」「フランス語圏文学史」は、2年次に言語文化学科になった学生にとって、選択必修科目として算入され、それ以外の学生にとっては、自由選択科目として算入される。「ギリシア語1」「ギリシア語2」「ラテン語1」「ラテン語2」「西洋古典学」「上方文化講座」などは自由選択科目として算入される。

○2年次以降履修科目

【哲学歴史学科】

必修科目の「人間文化基礎論1」「人間文化基礎論2」「人間文化概論A」「人間文化概論

B)を1年次に履修していなかった場合は、それらを履修する。

哲学歴史学科には、次の3つのコースモデル群がある。

〔哲学コースモデル群〕

2年次または3年次に、選択必修科目の「哲学概論1」「哲学概論2」「哲学史通論1」「哲学史通論2」「倫理学概論1」「倫理学概論2」「宗教学概論1」「宗教学概論2」「美学概論1」「美学概論2」を履修する。

3年次または4年次に、選択必修科目の「哲学演習・講読1」「哲学演習・講読2」「哲学史演習・講読1」「哲学史演習・講読2」「倫理学演習・講読1」「倫理学演習・講読2」「宗教学演習・講読1」「宗教学演習・講読2」を履修する。

加えて、3年次または4年次に、自由選択科目の「哲学特講A」「哲学特講B」「哲学特講C」「哲学特講D」「哲学特講E」を履修することが望ましい。

〔日本史コースモデル群〕

2年次または3年次に、選択必修科目の「史学概論」「日本史基礎講読2」「日本史通論A」「日本史通論B」「考古学通論」「日本史講読A」「日本史講読B」「日本史講読C」「日本史講読D」を履修する。

加えて、2年次または3年次に、自由選択科目の「大阪の地域・文化実践演習」を履修することが望ましい。

3年次または4年次に、選択必修科目の「日本史演習A」「日本史演習B」「日本史演習C」「日本史演習D」「考古学演習」を履修する。

加えて、3年次または4年次に、自由選択科目の「日本史特講A」「日本史特講B」「日本史特講C」「日本史特講D」「考古学実習」を履修することが望ましい。

〔世界史コースモデル群〕

2年次または3年次に、選択必修科目の「東洋史基礎講読」「西洋史基礎講読」「世界史通論」「東洋史通論」「西洋史通論」「世界史講読」「東洋史講読A」「東洋史講読B」「東洋史講読C」「西洋史講読A」「西洋史講読C」を履修する。

3年次または4年次に、選択必修科目の「西洋史講読B」「西洋史講読D」「世界史演習」「東洋史演習A」「東洋史演習B」「東洋史演習C」「西洋史演習A」「西洋史演習B」「西洋史演習C」を履修する。

加えて、3年次または4年次に、自由選択科目の「世界史特講」「東洋史特講A」「東洋史特講B」「西洋史特講A」「西洋史特講B」を履修することが望ましい。

〔哲学歴史学科共通〕

このほか、関心に応じて、学部共通専門教育科目または他学科科目を自由選択科目として履修する。また、資格を取得する場合は該当科目を履修する。

4年次には、必修科目の「哲学歴史学研究演習1」「哲学歴史学研究演習2」を履修し、「卒業論文」の単位を修得する。

【人間行動学科】

必修科目の「人間行動学概論A」「人間行動学概論B」を1年次に履修していなかった場

合は、それらを履修する。

必修科目の「人間行動学データ解析法1」「人間行動学データ解析法2」を履修する。

人間行動学科には、次の4つのコースモデル群がある。

〔社会学コースモデル群〕

2年次に、選択必修科目の「社会学研究法」「社会調査法」「社会学基礎演習」を履修する。

2年次または3年次に、選択必修科目の「社会学概論A」「社会学概論B」「社会学史A」「社会学史B」「社会学演習1」を履修する。

加えて、2年次または3年次に、自由選択科目の「社会学特講A」「社会学特講B」「社会学特講C」「社会学特論A」「社会学特論B」「社会学特論C」「社会学特論D」「社会学特論E」を履修することが望ましい。

3年次に、選択必修科目の「社会学質的研究法」「社会学データ解析法」「社会学実習1」「社会学実習2」を履修する。

3年次または4年次に、選択必修科目の「社会学演習2」「社会学演習3」を履修する。

〔心理学コースモデル群〕

2年次に、選択必修科目の「心理学実験演習1（心理学実験）」「心理学実験演習2（心理学実験）」を履修する。

2年次または3年次に、選択必修科目の「心理学概論1」「心理学概論2」「心理学研究法1」「心理学研究法2」「心理学統計法」を履修する。

加えて、2年次または3年次に、自由選択科目の「神経・生理心理学特論」「知覚・認知心理学特論」「学習・言語心理学特論」「発達心理学特論」「社会・集団・家族心理学特論」「感情・人格心理学特論」「心理的アセスメント特論」を履修することが望ましい。

3年次に、選択必修科目の「心理学研究演習1」「心理学研究演習2」を履修する。

3年次または4年次に、選択必修科目の「人間行動学データ解析法3（心理学統計法）」を履修する。

加えて、3年次または4年次に、自由選択科目の「心理学特講A」「心理学特講B」を履修することが望ましい。

〔教育学コースモデル群〕

2年次に、選択必修科目の「教育学研究法1」「教育学実習」「教育学演習A」「教育学演習C」を履修する。

2年次または3年次に、選択必修科目の「教育学概論A」「教育学概論B」「教育方法学A」を履修する。

加えて、2年次または3年次に、自由選択科目の「教育史」「教育メディア論」を履修することが望ましい。

3年次に、選択必修科目の「教育方法学B」「比較・国際教育学」「教育学研究法2」

「教育学演習B」「教育学演習D」を履修する。

加えて、3年次に、自由選択科目の「教育学演習E」を履修することが望ましい。

加えて、3年次または4年次に、自由選択科目の「教育行政学」「教育学特講A」「教育学特講B」を履修することが望ましい。

〔地理学コースモデル群〕

2年次または3年次に、選択必修科目の「地理学概論A」「地理学概論B」「地理学実験実習1」「地理学実験実習2」「地理学野外調査実習1」を履修する。

加えて、2年次または3年次に、自由選択科目の「地理情報学」を履修することが望ましい。

3年次に、選択必修科目の「地理学講読演習A」「地理学講読演習B」「地理学野外調査実習2」「地理学演習A」「地理学演習B」を履修する。

3年次または4年次に、選択必修科目の「地誌学A」「地誌学B」「人間行動学データ解析法4」を履修する。

加えて、3年次または4年次に、自由選択科目の「地図学」「地理学特講A」「地理学特講B」を履修することが望ましい。

〔人間行動学科共通〕

このほか、関心に応じて、学部共通専門教育科目または他学科科目を自由選択科目として履修する。また、資格を取得する場合は該当科目を履修する。

4年次には、必修科目の「人間行動学研究演習1」「人間行動学研究演習2」を履修し、「卒業論文」の単位を修得する。

【言語文化学科】

必修科目の「言語文化概論A」「言語文化概論B」「言語文化基礎論A」「言語文化基礎論B」を1年次に履修していなかった場合は、それらを履修する。

言語文化学科には、次の5つのコースモデル群がある。

〔国語国文学コースモデル群〕

2年次または3年次に、選択必修科目の「国語学基礎論」「国語国文学講読A1」「国語国文学講読A2」「国語国文学講読B1」「国語国文学講読B2」を履修する。

加えて、2年次または3年次に、自由選択科目の「国語国文学特講A」「国語国文学特講B」「国語国文学特講C」「国語国文学特講D」を履修することが望ましい。

3年次または4年次に、選択必修科目の「国語国文学演習A1」「国語国文学演習A2」「国語国文学演習B1」「国語国文学演習B2」「国語国文学演習C1」「国語国文学演習C2」「国語国文学演習D1」「国語国文学演習D2」を履修する。

〔中国語中国文学コースモデル群〕

2年次または3年次に、選択必修科目の「中国語中国文学概論A」「中国語中国文学概論B」「中国語中国文学概論C」「中国語中国文学概論D」「中国語基礎演習1」「中国語基礎演習2」「中国語コミュニケーション1」「中国語コミュニケーション2」を履修する。

3年次または4年次に、選択必修科目の「中国語学演習A」「中国語学演習B」「中国文学演習1」「中国文学演習2」「中国文化学演習1」「中国文化学演習2」を履修する。

加えて、3年次または4年次に、自由選択科目の「中国語コミュニケーション3」「中国語コミュニケーション4」「中国語中国文学特講A」「中国語中国文学特講B」を履修することが望ましい。

〔英米言語文化コースモデル群〕

2年次または3年次に、選択必修科目の「英米文化概論」「英米文学史A」「英米文学史B」「英米文学史C」「英語学概論A」「英語学概論B」「英米文化演習」「英米文学演習A」「英米文学演習B」「英米文学演習C」「英語学演習」を履修する。

加えて、2年次または3年次に、自由選択科目の「英米文化特講」「英米文学特講」「英語学特講」「英語コミュニケーションA」「英語コミュニケーションB」を履修することが望ましい。

3年次または4年次に、選択必修科目の「英米文学演習D」を履修する。

〔ドイツ語圏言語文化コースモデル群〕

2年次に、選択必修科目の「ドイツ語圏言語文化基礎演習A」「ドイツ語圏言語文化基礎演習B」を履修する。

2年次または3年次に、選択必修科目の「ドイツ語圏言語文化論」「ドイツ語圏文学史」「ドイツ語圏文化論」「ドイツ語学概論」を履修する。

加えて、2年次または3年次に、自由選択科目の「ヨーロッパ言語文化特講」を履修することが望ましい。

3年次に、選択必修科目の「ドイツ語圏言語文化特別演習」を履修する。

3年次または4年次に、選択必修科目の「ドイツ語圏言語文化演習A」「ドイツ語圏言語文化演習B」「ドイツ語圏言語文化演習C」「ドイツ語コミュニケーション1」「ドイツ語コミュニケーション2」「ドイツ語圏ランデスクンデ」を履修する。

〔フランス語圏言語文化コースモデル群〕

2年次に、選択必修科目の「フランス語圏言語文化基礎演習A」「フランス語圏言語文化基礎演習B」「フランス語圏言語文化基礎演習C」を履修する。

2年次または3年次に、選択必修科目の「フランス語圏言語文化論」「フランス語圏文化論」「フランス語学概論」「エチュード・フランコフォーン」を履修する。

3年次に、選択必修科目の「フランス語圏言語文化特別演習」を履修する。

3年次または4年次に、選択必修科目の「フランス語圏言語文化演習A」「フランス語圏言語文化演習B」「フランス語圏言語文化演習C」「フランス語圏言語文化演習D」「フランス語コミュニケーション1」「フランス語コミュニケーション2」を履修する。

加えて、3年次または4年次に、自由選択科目の「インターカルチュラルスタディーズA」「インターカルチュラルスタディーズB」「フランス語コミュニケーション3」「フランス語コミュニケーション4」を履修することが望ましい。

〔言語文化学科共通〕

このほか、関心に応じて、学部共通専門教育科目または他学科科目を自由選択科目として履修する。また、資格を取得する場合は該当科目を履修する。

4年次には、必修科目の「言語文化学研究演習1」「言語文化学研究演習2」を履修し、「卒業論文」の単位を修得する。

【文化構想学科】

必修科目の「文化構想学概論A」「文化構想学概論B」を1年次に履修していなかった場合は、それらを履修する。

文化構想学科には、次の3つのコースモデル群がある。

〔表現文化学コースモデル群〕

2年次に、選択必修科目の「表現文化論基礎演習」を履修する。

2年次または3年次に、選択必修科目の「文化理論」「表象文化論」「ポピュラー文化論」「比較表現論」「テキスト文化論」「表象文化論演習」「ポピュラー文化論演習」「比較表現論演習」「テキスト文化論演習」を履修する。

3年次に、選択必修科目の「文化理論演習」を履修する。

3年次または4年次に、選択必修科目の「表現文化論特殊演習1」「表現文化論特殊演習2」を履修する。

加えて、3年次または4年次に、自由選択科目の「表現文化特論」「表象文化特論」を履修することが望ましい。

〔アジア文化コースモデル群〕

2年次に、選択必修科目の「アジア文化学基礎論」「アジア地域文化概論」「アジア伝統文化概論」「アジア共生文化概論」「アジア比較文化概論」を履修する。

2年次または3年次に、選択必修科目の「アジア地域文化論」「アジア伝統文化論」「アジア共生文化論」「アジア比較文化論」を履修する。

3年次または4年次に、選択必修科目の「アジア地域文化論演習」「アジア伝統文化論演習」「アジア共生文化論演習」「アジア比較文化論演習」を履修する。

加えて、3年次または4年次に、自由選択科目の「文化人類学」「アジア文化特論A」「アジア文化特論B」を履修することが望ましい。

〔文化資源コースモデル群〕

2年次に、選択必修科目の「文化資源基礎論」「観光文化論」「文化デザイン論」「視覚芸術文化論」「舞台芸術文化論」を履修する。

2年次または3年次に、選択必修科目の「視覚文化資源論演習」「地域文化資源論演習」「視覚文化資源論実習」「地域文化資源論実習」を履修する。

加えて、2年次または3年次に、自由選択科目の「文化資源特論A」「文化資源特論B」「文化資源論特別演習」を履修することが望ましい。

3年次または4年次に、選択必修科目の「音楽文化資源論演習」「舞台文化資源論演習」「音楽文化資源論実習」「舞台文化資源論実習」を履修する。

加えて、3年次または4年次に、自由選択科目の「文化資源特論C」を履修することが望ましい。

〔文化構想学科共通〕

このほか、関心に応じて、学部共通専門教育科目または他学科科目を自由選択科目として履修する。また、資格を取得する場合は該当科目を履修する。

4年次には、必修科目の「文化構想学研究演習1」「文化構想学研究演習2」を履修し、「卒業論文」の単位を修得する。

ウ 卒業要件

文学部は、4年以上在学し、別途定める131単位以上を修得するとともに、卒業論文の審査および試験に合格しなければならない。

【卒業するための単位数】

1. 基幹教育科目：39単位以上

- (1)総合教養科目：10単位
- (2)初年次教育科目：2単位
- (3)情報リテラシー科目：2単位
- (4)外国語科目 英語：6単位
- (5)外国語科目 初修外国語：独、仏、中、露、朝、日（留学生のみ）：6単位
- (6)健康・スポーツ科学科目 講義：2単位
- (7)健康・スポーツ科学科目 実習：1単位
- (8)総合教養科目または外国語科目：10単位

2. 専門科目：92単位以上

(1) 必修科目：22単位

学科毎に設定する。1・2年次を標準年次とする科目と、4年次に履修する「卒業論文」「卒業論文〇〇学研究演習1」「卒業論文〇〇学研究演習2」がある（「卒業論文〇〇学研究演習1」などの「〇〇」の部分には、「哲学歴史」「人間行動」「言語文化」「文化構想」といった各学科の名称が入り、各学科ごとに卒業論文の指導が行われる）。

(2) 選択必修科目：30単位

学科毎に設定する。履修モデルとしての科目群をコースとして設定し、それに応じた選択必修科目を提供する。

(3) 自由選択科目：40単位

自由選択科目として、以下に列挙する科目を履修することができる。

- ①各コースの専門科目表に掲げた自由選択科目
- ②規定の単位数を超えて履修した選択必修科目
- ③他学科の専門科目（必修科目・選択必修科目・自由選択科目すべて）
- ④「文学部専門科目表」の学部共通専門教育科目

⑤教職課程科目（但し、以下の科目に限る）

※「教育基礎論」「発達・学習論」「教育制度論」の3科目。

⑥博物館に関する科目（但し、以下の科目に限る）

※「生涯学習概論」「博物館概論」「博物館経営論」「博物館情報・メディア論」「博物館資料論」「博物館展示論」「博物館資料保存論」「博物館教育論」の8科目

⑦他学部提供専門科目

※提供学部が他学部生も履修可としているもの。ただし、卒業までに合計16単位以内に限る。

⑧基幹教育機構から提供される基礎教育科目（但し、以下の科目に限る）

※「基礎数学A」「基礎数学B」「近代物理学」「入門化学」「生物学A」「生物学B」「地球学入門」「プログラミング入門B」

文学部は、精神的文化的側面、他者の文化の理解・尊重、他者とのコミュニケーションの能力を育成する機能、そして、学生的人格形成機能や生涯にわたる学習の基礎を培う機能を、卒業論文を研究を中心とした探究活動を通して実現することを極めて重視している。

卒業論文は、1年次から4年次のすべての教育課程を通じての学修の集大成であるが、それに加えて、4年次では、各学科に対応した「〇〇学研究演習1」「〇〇学研究演習2」（合計4単位）と10単位の「卒業論文」を必修とする。

卒業論文の指導にあたっては、コースモデル群に配置されている教員が少人数教育の利点を活かして入念な個別指導を行い、また、コースモデル群ごとの卒業論文オリエンテーション、卒業論文構想発表会、卒業論文中間発表会、卒業論文発表会を通して指導を行う。さらに、卒業論文審査については、文学部が定める「卒業論文に関する文学部ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがって、コースモデル群ごとに口答試問を実施して合議に基づき評価を行う。

学生は、このような手厚い指導を受けながら、研究の課題を設定し、それぞれの学問分野特有の研究方法を身に付け、図書館の機能を十分に使いこなし、多様な他者と関わりながら、先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味し、一次資料・データを広く収集し、独自の観点から分析し、適切に典拠を示しながら、論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することになっている。これらの学修時間は600時間を超えており、「〇〇学研究演習1」「〇〇学研究演習2」の合計4単位および「卒業論文」の10単位分の学修に十分値する。

卒業論文は、「大阪公立大学学位規程に関する文学部内規」にしたがい、学部教授会において当該学科の教員から主査1名、副査1名以上を審査員として選出した上で審査をおこなう。

卒業論文審査については、文学部が定める「卒業論文に関する文学部ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがって実施する。

評価基準は次のとおりである。

- (1) 卒業論文は、当該学科における一定の研究成果を示すものでなければならない。
- (2) (評価基準) 卒業論文は以下の各項目について、当該学科における十分な水準を満たさなければならない。
 - ・ 明確に課題を設定し、適切な研究方法をもちいて論証している。
 - 1 課題が設定されており、論証しようとしている。
 - 2 明確に課題を設定し、研究方法を意識しながら論証している。
 - 3 明確に課題を設定し、適切な研究方法をもちいて論証している。
 - ・ 図書館の機能を十分に使いこなしている。
 - 1 OPAC や書架を利用して文献を入手している。
 - 2 OPAC や書架を利用しつつ、学術情報データベースを活用して文献を入手している。
 - 3 OPAC や書架、学術情報データベースを利用しつつ、文献複写等の図書館サービスを駆使して、適切かつ必要な文献を入手している。
 - ・ 多様な他者と関わりながら論文を作成している。
 - 1 教員の指導を受けながら論文を作成している。
 - 2 教員のみならず、他の学生と関わりながら論文を作成している。
 - 3 教員、学内学生のみならず、学外を含む多様な他者と関わりながら論文を作成している。
 - ・ 先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味している。
 - 1 先行研究や参考文献を読んでいる。
 - 2 先行研究や参考文献をよく読みこなしている。
 - 3 先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味している。
 - ・ 一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析している。
 - 1 一次資料・データを利用している。
 - 2 一次資料・データを広く収集して利用している。
 - 3 一次資料・データを広く収集し、独自の観点から分析している。
 - ・ 適切に典拠を示しながら論述している。
 - 1 典拠を示そうとしている。
 - 2 適切に論拠を示している。
 - 3 適切に論拠をしめしながら論述している。
 - ・ 具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができている。
 - 1 具体例の吟味または抽象的な考察のどちらかができている。
 - 2 具体例の吟味と抽象的な考察がある。
 - 3 具体例の吟味と抽象的な考察を相互に結びつけながら論証している。
 - ・ 論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証している。
 - 1 ある程度意味が通じる文章で論証している。
 - 2 論理展開を明確にしようとして論証している。
 - 3 論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証している。
- (3) (論文の体裁) 卒業論文は、400 字詰原稿用紙に換算して、原則として 50 枚以上の分量がなければならない。

エ 履修モデル

※資料2 履修モデルは別紙資料の通りである。

オ 多様なメディアの活用

該当なし

カ 履修科目の上限設定

履修科目の単位数に求められる学修時間、自宅学修時間を担保し、4年間を通じた学生の学修効果を高め、学生が無理なく学内及び自宅での学修に取り組むことができるように、すべての学年において、履修できる単位数を、1年間50単位未満、前期25単位以下、後期25単位以下としている。ただし、自由科目（卒業要件以外の教職・資格科目を含む）の単位、集中講義科目の単位、インターンシップ科目の単位、卒業論文の単位は上記の数には算入しない。

キ 他大学における授業科目の履修等

該当なし

7 施設、設備等の整備計画

ア 校地、運動場の整備計画

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

イ 校舎等施設の整備計画

教育研究に使用する施設、設備等

文学部において教育研究を行う施設、設備については、「大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類」に記載のほか、森之宮キャンパスに新たに建設する新校舎の施設により実施することから、学生、教員に対して十分な教育研究環境を提供するものである。

1) 講義室・演習室・研究室等

文学部では、授業の形態に応じて講義室や演習室等の施設を使用し、専任教員には研究室を割り当て、学部教育を実施する。文学部における施設概要は次のとおりである。

【施設概要】

- ・講義室 16室
- ・演習室 22室
- ・研究室 71室
- ・実習室 40室

2) 実験施設・設備等

文学部における実験の授業科目は、30室ある実験室において実施する。

文学部の人間行動学科における実験施設関連・設備等は次のとおりである。

人間行動学科

実験室 30室

(設備等) 心理学汎用実験室 A、心理学汎用実験室 B、心理学汎用実験室 C、心理学汎用実験室 D、心理学汎用実験室 E、心理学汎用実験室 F、心理学汎用実験室 G、心理学汎用実験室 H、認知実験室、行動観察室、モニタ室、心理学音響実験室 1、心理学音響実験室 2、心理検査室、空間実験室、計算機室、行動実験室、動物飼育室、飼育室 A、飼育室 B、洗浄消毒室、器材保管室、生理実験室、工作室、情報処理実験室、実験系共同実験実習室、製図室、地図室、情報処理室、社会調査実験室

ウ 図書等の資料及び図書館の整備計画

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

8 入学者選抜の概要

ア アドミッションポリシー

文学部は、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識し、あらゆる他者を尊重し、多様な人々と協働しながら、豊かで持続可能な社会の創り手となる人材の育成を目ざす。

具体的には、(1)人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることができ、(2) コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備え、また(3) 教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成することを目標とする。

以上の人材育成目標に対応して、文学部では、次のような学生を求める。

- ①自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的に取り組む意欲を持っている人
- ②学修のための基礎的能力を持ち、以下のような学問的関心を有する人
 - ・人間の思考と社会・文化の生成発展について考えてみたい人
 - ・人間行動の原理と社会のしくみについて考えてみたい人
 - ・さまざまな言語や文学・芸術について考えてみたい人
 - ・さまざまな文化的営みを社会のなかで活かす方法を考えてみたい人
 - ・論理的思考を鍛え新しいものの見方を求めようとする人
- ③学部・学科・コースの目的や教育内容を理解し、自らの将来像と関連させて考えている人

- ④入学後に上記の能力や関心を活かして学部・学科・コースの教育・人材育成の目標を深く理解し、創造的に学べる発展可能性を持つ人

イ 入学者選抜の方法と体制

文学部では、以下の一般選抜（前期日程・後期日程）と特別選抜（国際バカロレア・帰国生徒・私費外国人留学生）に区分して入学者選抜を実施し、学修成果や能力・適性を、以下のような教科・科目等で評価する。また、3年次編入学については、編入学・学士入学（3年次）選抜、外国人留学生学士入学（3年次）選抜を別途行う。

一般選抜の定員は、前期日程 125 名、後期日程 30 名とし、特別選抜の定員は、帰国生徒特別選抜は 5 名、国際バカロレア特別選抜・私費外国人留学生特別選抜は、若干名とする。

11 月に実施する国際バカロレア特別選抜については、定員を定めた相対評価ではなく、受験生の適性を絶対評価で確認して入学許可の是非を検討するため、定員は「若干名」としている。

また、大阪市立大学文学部における、ここ数年の国際バカロレア特別選抜の実績は以下のとおりであり、着実に実績を上げている。

【文学部・国際バカロレア特別選抜の入試の状況】

年度	受験者数	合格者数	入学者数
2021 年度	4	2	1
2020 年度	2	1	1
2019 年度	1	1	1

さらに、大阪市立大学文学部では、国際バカロレア課程を持つ高校に、教職員が定期的に訪問して入試説明会を実施してきた。実際に、この説明会に出席した生徒が、大阪市立大学文学部を志望し、入学するという流れができつつある。この傾向を継承することにより、文学部における国際バカロレア特別選抜の学生確保が着実になると考える。

それを実現するには、十分な検証時間が必要であるため、開学時の定員設定は若干名としていることは妥当と考えているが、他方、バカロレア校側からの要請や今後のさらなる定着性に応じて、入学定員についての検討の考えは有している。

【一般選抜（前期日程）】

2 月に実施する本選抜では、大学入学共通テストと個別学力検査を実施し、調査書等も評価対象とするが、2 種類の試験で学力の 3 要素のうち知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価する。また、大学入学共通テストでは、高等学校教育段階においてめざす基礎学力を、個別学力検査では、文学部での学修に十分に対応できる、知識・技能と思考力・判断力・表現力をそれぞれ確認する。さらに、調査書等の内容から主体性・多様性・協働性についても

評価し、以上の各評価を総合して選抜を行う。

【一般選抜（後期日程）】

3月に実施する本選抜では、大学入学共通テストと個別学力検査を実施し、調査書等も評価対象とするが、2種類の試験で学力の3要素のうち知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価する。また、大学入学共通テストでは、高等学校教育段階において目ざす基礎学力を、個別学力検査では、文学部での学修に十分に対応できる、思考力・判断力・表現力をそれぞれ確認する。さらに、調査書等の内容から主体性・多様性・協働性についても評価し、以上の各評価を総合して選抜を行う。

【国際バカロレア特別選抜】

11月に実施する本選抜では、小論文及び口述試験を実施し、成績証明書等の出願書類も評価対象とする。小論文試験では、学力の3要素のうち知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価する。また、口述試験では、学ぶ意欲と文学部での学修に十分に対応できる知識・技能と思考力・判断力・表現力を、それぞれ確認する。さらに、志望理由書等も材料として主体性・多様性・協働性についても評価し、以上の各評価を総合して選抜を行う。

【帰国生徒特別選抜】

11月に実施する本選抜では、小論文・外国語試験及び口述試験を実施し、成績証明書等の出願書類も評価対象とする。小論文・外国語試験では、学力の3要素のうち知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価する。また、口述試験では、学ぶ意欲と文学部での学修に十分に対応できる知識・技能と思考力・判断力・表現力を、それぞれ確認する。さらに、志望理由書等も材料として主体性・多様性・協働性についても評価し、以上の各評価を総合して選抜を行う。

【私費外国人留学生特別選抜】

2月に実施する本選抜では、日本留学試験、個別学力検査（外国語・国語・作文）、口述試験と出願者調査書等の出願書類を評価対象とする。日本留学試験と個別学力検査では、学力の3要素のうち知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価するが、そのうち日本留学試験では日本語能力と基礎学力を評価する。また、口述試験では、学ぶ意欲と文学部での学修に十分に対応できる知識・技能と思考力・判断力・表現力を、それぞれ確認する。さらに、出願者調査書等も材料として主体性・多様性・協働性についても評価し、以上の各評価を総合して選抜を行う。

【編入学・学士入学（3年次）選抜】

11月に実施する編入学・学士入学（3年次）選抜では、小論文・英語試験及び口述試験を実施し、成績証明書等の出願書類も評価対象とする。小論文・英語試験では、学力の3要素のうち知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価する。また、口述試験では、学ぶ意欲と文学部での学修に十分に対応できる知識・技能と思考力・判断力・表現力を、それぞれ確認する。さらに、志望理由書等も材料として主体性・多様性・協働性についても評価し、以上の各評価を総合して選抜を行う。

【外国人留学生学士入学（3年次） 選抜】

11月に実施する外国人留学生学士入学（3年次）選抜では、小論文・外国語（日本語）試験及び口述試験を実施し、成績証明書等の出願書類も評価対象とする。小論文・英語試験では、学力の3要素のうち知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価する。また、口述試験では、学ぶ意欲と文学部での学修に十分に対応できる知識・技能と思考力・判断力・表現力を、それぞれ確認する。さらに、志望理由書等も材料として主体性・多様性・協働性についても評価し、以上の各評価を総合して選抜を行う。

ウ 多様な学生の受入

外国人留学生の受け入れにあたっては、入学者選抜において日本語の基礎能力を多角的・総合的に評価するほか、全学及び文学部が用意する多様な生活上・学修上の支援制度を通じて、スムーズな受け入れが可能となるよう配慮する。また、帰国生徒や国際バカロレア資格取得者の受け入れにあたっては、外国語の能力をはじめとする特長を多角的に評価し、学部での学修を通じて、その能力を活かせるよう配慮する。

「留学」の在留資格を以て本学に在籍する学生の、退学、除籍、所在不明者、長期欠席者（1か月以上）については、毎月、本学国際センターに報告し、国際センターを通じて文部科学省へ報告する。また、入学時には、経費支弁能力を書面にて確認し、在学中には不法就労がないように、1年次においては1年生担当委員が、2年次以降については、コースモデル群の担当教員が指導にあたる。

科目等履修生は、講義科目の中でも基礎的な科目群に限定して、受け入れを行う。3月に口述試験を実施し、受け入れを決定する。受け入れ数は、正規の学生の受講の妨げとならない範囲に限定する。その他、正規の学生以外の者の受け入れについては、学則及び大学院学則に定め、それぞれの規程に準じて受け入れを行う場合がある。

9 取得可能な資格

【文学部各学科における取得可能な資格】

学科	取得可能な資格	受験資格か、指定規則で定める科目の単位を修得すれば取得できる資格の別	資格取得を卒業要件としているか
哲学歴史学科	中学校教諭一種免許状(社会)(国家資格)	卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の教職関連科目の単位を修得すれば取得できる	していない
	高等学校教諭一種免許状(地理歴史)(国)	卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の教職関連科目	していない

	家資格)	の単位を修得すれば取得できる	
	高等学校教諭一種免許状(公民)(国家資格)	卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の教職関連科目の単位を修得すれば取得できる	していない
	学芸員資格(国家資格)	任用資格卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の学芸員関連科目の単位を修得すれば取得できる	していない
人間行動学科	中学校教諭一種免許状(社会)(国家資格)	卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の教職関連科目の単位を修得すれば取得できる	していない
	高等学校教諭一種免許状(地理歴史)(国家資格)	卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の教職関連科目の単位を修得すれば取得できる	していない
	高等学校教諭一種免許状(公民)(国家資格)	卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の教職関連科目の単位を修得すれば取得できる	していない
	学芸員資格(国家資格)	任用資格卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の学芸員関連科目の単位を修得すれば取得できる	していない
	社会調査士(民間資格)	資格取得 卒業要件単位に含まれる科目の単位を修得すれば取得できる ※社会学コースのみ	していない
	公認心理師(国家資格)	受験資格取得 (卒業要件単位に含まれる科目の単位を修得し、加えて卒業後実務経験をもつか大学院で指定科目を履修すれば受験	していない

		資格を取得できる) ※心理学コースのみ	
	認定心理士（民間資格）	受験資格取得 卒業要件単位に含まれる科目の単位を修得すれば受験資格を取得できる ※心理学コースのみ	していない
言語文化学科	中学校教諭一種免許状(国語)(国家資格)	卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の教職関連科目の単位を修得すれば取得できる	していない
	中学校教諭一種免許状(英語)(国家資格)	卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の教職関連科目の単位を修得すれば取得できる	していない
	中学校教諭一種免許状(中国語)(国家資格)	卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の教職関連科目の単位を修得すれば取得できる	していない
	中学校教諭一種免許状(ドイツ語)(国家資格)	卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の教職関連科目の単位を修得すれば取得できる	していない
	中学校教諭一種免許状(フランス語)(国家資格)	卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の教職関連科目の単位を修得すれば取得できる	していない
	高等学校教諭一種免許状(国語)(国家資格)	卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の教職関連科目の単位を修得すれば取得できる	していない
	高等学校教諭一種免許状(英語)(国家資格)	卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の教職関連科目の単位を修得すれば取得できる	していない
	高等学校教諭一種免許状(中国語)(国家資格)	卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の教職関連科目の単位を修得すれば取得できる	していない
	高等学校教諭一種免許状(ドイツ語)(国家資格)	卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の教職関連科目の単位を修得すれば取得できる	していない

	許状（中国語）（国家資格）	のほか、指定の教職関連科目の単位を修得すれば取得できる	
	高等学校教諭一種免許状（ドイツ語）（国家資格）	卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の教職関連科目の単位を修得すれば取得できる	していない
	高等学校教諭一種免許状（フランス語）（国家資格）	卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の教職関連科目の単位を修得すれば取得できる	していない
	学芸員資格（国家資格）	任用資格卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の学芸員関連科目の単位を修得すれば取得できる	していない
文化構想学科	学芸員資格（国家資格）	任用資格卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の学芸員関連科目の単位を修得すれば取得できる	していない

なお、公認心理師については、入学時に全員に配布する『文学部科目履修の手引き』の中に「公認心理師になるために必要な科目の履修方法」という3頁にわたる章を特設し、文学部人間行動学科心理学コースまたは生活科学部人間福祉学科の学生で公認心理師資格取得希望者から選抜された者で、かつ、文学部と生活科学部の両方の学部の所定の単位を学部卒業時まで修得した者が、学部卒業後、対応したカリキュラムを開設する大学院に進学し修了するか、もしくは公認心理師法に定められた実務経験を経てはじめて取得できる資格であることを明記し、ガイダンス等の機会を通して学生に周知する。

10 実習の具体的計画

ア 実習の目的

【教育実習】

本学は1学域、11学部、15研究科からなる総合大学として、大阪府、大阪市をはじめとする関西圏を中心とした、教育現場の発展に寄与する高度な専門性を有する教員の養成を目的とする。

教職課程の集大成にあたる教育実習では、教育現場である学校に実際に身を置くと

いう経験を通して、教師の使命や具体的な職務内容、教師として必要な能力を改めて認識するとともに、各学域・学部での専門的な学びや教職課程での学びを土台に、学習指導や生徒指導等の教育活動に取り組むことを通して、教師としての指導力・実践力を高め、教職への適性を確かめることを目指す。

【博物館実習 2】

博物館の学芸員は文学部の専門教育を生かすことのできる職種であり、文学部のカリキュラムの中で、人文科学・行動科学の基礎となる原典、史料、文献などを調査・読解する能力を鍛え、批判的、創造的に問題に取り組んだことを、社会の中に実装し発信する実習を行うのが本科目である。学外において実施する博物館実習 2 は、学内における必修科目および博物館実習 1 の履修をふまえ、学芸員養成課程の仕上げとして履修する。これは、実際に博物館において従事する学芸員から、施設の使命、資料の保管の実際、取り扱いの具体的な方法、資料を使った展示・解説の実践、普及活動や運営等、博物館の基本的活動を実地において理解し身につけ、また学芸員の業務の実際を体感することで、博物館への就職を導くものである。例年の資格取得者数に鑑みて新大学では 35 名程度を想定し、その数に対して十分な受け入れ先が確保されている。

【心理実習】

文学部人間行動学科では、人間や社会を理解するための科学的方法を身につけ、人間行動や人間を取りまく事象を様々な視点から考えることができる人材の養成を目的とする。具体的には、人間行動学の方法・考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を深め、多様な情報を収集・読解・分析し、それをモラルに則って効果的に活用でき、さらに、情報や知識を複眼的・論理的に分析する批判的思考を発揮することで、人や社会における様々な問題を解決できる人材の養成を目指す。心理学コースでは、心や行動の法則を科学的観点から明らかにする基礎領域の心理学についての知識・技能が主に提供される。

本実習においては、心理専門職として、自己理解と他者理解を深めていこうとする姿勢を培い、他者と協働して心理に関する支援を要する者（要支援者）等に対する支援の方法と実際を理解する。

本実習においては、1. 要支援者へのチームアプローチ 2. 多職種連携及び地域連携 3. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解 について、見学等による実習を行いながら、臨床現場における心理面接や心理検査の実施場面を通じて、心理状態の観察及び分析並びに心理援助行為の基本となる実践姿勢と技能を習得する。なお、本実習は生活科学部人間福祉学科公認心理師養成講座登録生 10 名と文学部人間行動学科心理学コース 公認心理師養成課程登録学生 10 名の合計 20 名を上限として実施する。

イ 実習先の確保の状況

【教育実習】

教育実習の実習先として、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会から実習受け入れの承諾を得ている学校 132 校、高等学校 154 校を確保しており、実習先の確保としては十分な状況にある。

【博物館実習 2】

博物館実習の実習先として、博物館等 7 施設から承諾を得ており、実習先の確保としては十分な状況にある。

【公認心理師】

心理実習の実習先として、病院施設等から承諾を得ており、公認心理士養成課程定員を十分確保できている状況である。

※資料 3-1 実習施設一覧表

※資料 3-2 実習施設受け入れ承諾書

ウ 実習先との契約内容

【教育実習】

大阪府教育委員会、大阪市教育委員会と実習時に順守すべき事項等について事前に協議し、決定する。

【博物館実習 2】

各受け入れ施設担当者との間で契約内容を取り交わす。

【心理実習】

個人情報保護や事故防止に関する取決め実習依頼時に、実習施設の就業規則等の遵守と個人情報の保護に関する誓約書を提出し、守秘義務契約を行うほか、実習期間中の事故については、これまでの事例を踏まえた安全教育指導を事前に行う。実習生は学生教育研究災害傷害保険及び付帯の賠償責任保険に加入し、実習先での不測の事故に備える。

エ 実習水準の確保の方策

【教育実習】

教職課程の各授業科目の履修、教育実習の事前事後指導、学内で実施する教育実習関係の各種オリエンテーション等を適切に実施することや実習担当の教職員が実習先と密に連絡を取り合うこと等を通じて実習水準を確保する。

【博物館実習 2】

各受け入れ施設は、もとより博物館実習にふさわしい施設や規模であり、また博物館実習の実績が十分にある。毎年度、各受け入れ館から、実習メニューの内容とそれぞれ

の担当学芸員の予定表を提出いただき、施設の使命、資料の保管の実際、取り扱いの具体的な方法、資料を使った展示・解説の実際、普及活動や運営等、博物館の基本的活動を実地において理解し身につけ、また学芸員の業務の実際を体感することによって学芸員に求められる知識・技能の習得ができるようになっていくかを確認する。成績評価については、歴史系・考古系・自然史系と性格が異なるが、共通項目を定めた実習レポートを提出させ、それにより実習内容の習得度や留意点などの理解度について判断する。

【心理実習】

以下のA～Cについての知識と技能の習得を目指して以下の実習プログラムを事前・事後指導を含めて合計90時間提供する。

A) 多職種連携および地域連携について見学実習と陪席実習から学ぶ

本学附属病院の院内見学を通じ、本学附属病院における多職種連携と地域連携の実際を学ぶ。また、心理支援専門職が常勤職として勤務する総合病院・単科病院の多職種連携と地域連携について、院内見学および医師・看護師・心理師・ソーシャルワーカーそれぞれの陪席実習より学ぶ。

B) 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解について見学実習および陪席実習から学ぶ

本学附属病院の院内見学を通じ、本学附属病院における職業倫理および法的義務の実際を学ぶ。また、心理支援専門職が常勤職として勤務する総合病院・単科病院の多職種連携と地域連携について、院内見学および医師・看護師・心理師・ソーシャルワーカーそれぞれの陪席実習より学ぶ。

C) 要支援者へのチームアプローチについて実践現場から学ぶ

教育現場における教育相談実践と不登校通所事業実践、および福祉現場における児童発達支援事業実践と、心理検査陪席により、教育領域、福祉領域における心理支援の実際と要支援者へのチームアプローチの実際を学ぶ。

成績評価については 実習期間中の実習に対する姿勢、実習目標の理解度について、上記基本目標の習得状況について実習依頼機関の実習指導者と協議のうえ、評価する。

オ 実習先との連携体制

【教育実習】

実習開始前に、本学の教員及び教職担当の事務担当者を通じて、実習先担当教職員と十分な打ち合わせを行う。また、実習中に随時連絡を取り合える体制を構築する。

【博物館実習2】

実習開始前に、本学の教員及び学芸員課程担当の事務担当者を通じて、実習先担当者との十分な打ち合わせを行う。また、実習中に随時連絡を取り合える体制を構築する。

【心理実習】

大学における実習担当者と実習先実習指導者との事前協議の時間を設け、実習目的、

実習目標について確認を行う。実習実施時の実習担当者と実習指導者の連絡体制のほか、天候や地震などによる緊急災害時の緊急連絡方法、当日の実習実施確認方法や、実習生への連絡方法、事故発生時の手続きなどについて事前に協議する。

カ 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

【教育実習】

学生の健康管理については、本学で全学生対象に年 1 回実施する定期健康診断を受診させ、学生の健康状況を全学的に把握する。また、学生教育研究災害障害保険及び学生教育研究賠償責任保険等の保険加入を義務付ける。さらに、感染予防対策として、事前指導時において予防接種等の確認を行う。また、実習前のオリエンテーション等を通じて実習中に知りえた情報に関する守秘義務の厳守や SNS に実習中の事項を投稿等しないことについて指導する。

【博物館実習 2】

学生の健康管理については、本学で全学生対象に年 1 回実施する定期健康診断を受診させ、学生の健康状況を全学的に把握する。また、学生教育研究災害障害保険及び学生教育研究賠償責任保険等の保険加入を義務付ける。さらに、感染予防対策として、事前指導時において予防接種等の確認を行う。また、実習施設においてインフルエンザの流行などによる実習の計画変更に対しては、実習施設との個別対応によって、実習時期等を変更するよう配慮する。加えて、実習前のオリエンテーション等を通じて実習中に知りえた情報に関する守秘義務の厳守や SNS に実習中の事項を投稿等しないことについて指導する。

【心理実習】

大学が毎年実施する学生の健康診断を必ず受診するよう周知徹底する。事前指導の際、実習実施日の朝の検温と体調チェックについて指導し、検温において 37 度以上の発熱を認める場合は実習に参加しない等、指導を徹底する。体調不良による実習の早退、欠席については必ず大学実習担当教員に連絡し、実習の継続について協議するよう徹底する。また、実習期間中の事故に備え、学生教育研究災害傷害保険及び付帯の賠償責任保険に加入する。

個人情報の保護については、誓約書作成のための指導を行い、実習中に知り得た情報に関する守秘義務や実習中の実習に関する SNS への投稿の禁止など、周知徹底する。

キ 事前・事後における指導計画

【教育実習】

教育実習においては、教育実習事前事後指導の授業内で事前指導、事後指導を行う。事前指導では、教育実践の責任の大きさや奥の深さを認識しつつ実習への総合的な準備をし、実習の一般的な心構えと教育現場の教育活動に必要なとされる知識・態度につい

て理解を深める。事後指導では、教育実習の反省や考察を少人数による討論によって行う。

【博物館実習 2】

博物館実習 2 においては、別途、事前指導・事後指導の日程を設定して行う。事前指導では、博物館実習 2 の重要性を説明し、各受け入れ先から示される留意事項を含め「博物館実習の栞」を作成し、実習メニューを示して十分な準備を促し、心構えと必要とされる知識・態度について理解を深める。事後指導では、提出された実習レポートにもとづき討論し、各館での実習内容を相互に理解し、学んだことや反省点について認識を共有するように努める。

【心理実習】

「心理実習」に関する事前指導は、上記個人情報保護に関する事項や保険加入手続きの確認ほか、実習施設の特性の理解、多職種連携にかかわる職種の理解、実習施設と地域連携の概要、実習を行うにあたっての留意点（時間厳守・実習記録の作成および取り扱いの注意点・実習記録の提出の仕方）などについて行う。事後指導は、実習記録の確認と個別面談による実習目標の達成の確認を行う。見学実習については事前指導 3 時間、事後指導 3 時間 合計 6 時間、陪席実習 実践実習については 事前指導 6 時間 事後指導 6 時間 合計 12 時間行う。

ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

【教育実習】

教育学を専門とする専任教員に加え、教職課程を設置するすべての各学域・学部の専任教員が巡回指導を行う。巡回の回数等は実習校と協議し決定する。

【博物館実習 2】

実習期間中、受け入れ館に赴き、実習状況を確認する。

【心理実習】

「心理実習」担当教員は 専任教員 4 名のほか、実習担当助教 2 名 合計 6 名で対応する。

実習依頼機関 5 か所につき 主担当教員 1 名と講義担当のない巡回担当助教 1 名を配置し、実習先機関と連携調整をはかる。実習先はどれも近隣であり、交通手段は電車を用い、遠方の場合でも片道 1 時間程度である。巡回の頻度は 1 週間に 1 度程度の巡回とする。

ケ 実習施設における指導者の配置計画

【教育実習】

大阪府教育委員会、大阪市教育委員会及び実習校と適切な指導者の配置について、協議する体制を整える。

【博物館実習 2】

副館長や学芸課長クラスの方が実習 2 全体の担当者となっており、各メニューを担当させる適切な学芸員が人選されており、また実習期間中に全体を監督していただいている。大阪歴史博物館への参加者が多いが、過大な人数とならないよう、10 数人ずつの 2 期間で実施する。

【心理実習】

いずれの実習先機関においても、心理専門職として常勤職にある心理師もしくは、心理専門職と連携する精神科・小児科医師や生徒指導を専門とする教員、ソーシャルワーカーが実習指導者として配置されている。学部実習においては上限 20 名の学生が実習生となるが、実習先への配置は、見学実習においても 10 名を上限とし、陪席実習、実践実習の場合は、5 名以下の配置とする。この配置によりいずれの実習機関においても見学実習において実習指導者 1 名について上限 10 名、陪席実習、実践実習において、実習指導者 1 名について 5 名以下となる。

コ 成績評価体制及び単位認定方法

【教育実習】

教育実習における成績評価・単位認定については、実習校からの実習に関する評価を基に、大学の専任教員が総合的な観点から評価し、単位認定を行う。

【博物館実習 2】

博物館実習 2 の成績評価・単位認定については、実習先からいただく評価を基に、大学の専任教員が実習レポートを加味して評価し、単位認定を行う。

【心理実習】

学生の知識・技能の修得状況の評価方法については、1) 実習の事後指導において個別面談を行い、口頭による実習目標の達成状況を確認し、評価する。また、2) 実習記録の提出により、日々の実習態度の評価を行う。3) 実習終了後に実習終了レポートを課し、実習目標の達成状況について最終評価を行う。評価基準については、要支援者の心理状態の観察及び分析並びに心理援助行為の基本となる実践姿勢と技能の基礎的習得を単位取得に必須な基準とみなす。

サ その他特記事項

該当なし

1 1 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

該当なし

1 2 昼夜開講制を実施する場合の具体的計画

該当なし

1 3 編入学定員を設定する場合の具体的計画

ア 既修得単位の認定方法

基幹教育科目の卒業要件単位については出身短期大学等で習得した単位数分を本学の基幹教育科目として認定し、修得したものとみなす。ただし、39 単位を超えないこととする。

専門科目については、修得したものと見なす単位数は、22 単位を超えないものとする。単位認定にあたっては、出身短期大学等のカリキュラムとシラバス、そして、本学部のカリキュラムとシラバスを基礎資料として、当該学生とも相談の上、文学部教務委員会が検討を行い、文学部教授会で審議・承認する。22 単位のうち、8 単位については、1、2 年次生用の必修科目または自由選択科目とする。また、14 単位については、自由選択科目の単位とし、本学の専門科目に相当する既修得単位を選択し個別に認定する。

ただし、編入学前の大学等のカリキュラムの事情などにより、自由選択科目から対応科目を見つけにくい場合は、教務委員会の判断で、選択必修科目を個別認定に含めることができる。

イ 履修指導方法

編入学直後においては、文学部教務委員長が、該当コースの教室代表と連絡をとりながら、既修得単位の認定に関わる相談と共に、編入者用の履修モデルを示しながら個別に履修指導を行う。教授会において既修得単位の認定が審議・承認されれば、「既修得科目の単位認定通知書」を本人に渡し、その後の履修指導を、該当コースの教室代表に引継ぐ。なお、既修得単位の認定において選択必修科目を個別認定に含めた場合は、自身が希望するコースの選択必修科目を最大限取得するように指導する。

※資料4 編入学後の履修モデル

ウ 教育上の配慮等

編入学生にたいしては、文学部教務委員が個別に面談したうえで、既修得単位の認定や履修に関する助言等をおこなう。

1 4 2 以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

該当なし

※資料5 新キャンパス整備に伴う校地（教育実施場所）遷移について

1 5 社会人を対象とした大学教育の一部を校舎以外の場所（サテライトキャンパス）で実施する場合の具体的計画

該当なし

1 6 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学では、平常時の面接による授業の実施を原則とするが、大学設置基準第25条第2項および本学の学則の規定に基づき、多様なメディアを高度に利用し、同時に双方向に行うことができる遠隔授業を実施できることとすることから、カリキュラムの改善等により、多様なメディアを利用した授業が必要となった場合は、文部科学省の告示の要件等に基づき、実施するものとする。

1 7 通信教育を実施する場合の具体的計画

該当なし

1 8 管理運営

文学部の管理運営は、文学研究科が一体的に担う。次期研究院長の推薦は、「大阪公立大学文学研究院次期研究院長候補者推薦内規」にしたがい、文学研究院会議の意見調査を実施したうえで、その結果を参考にして、研究院長が学長に対して行う。学長によって選考され、理事長によって任命される文学研究院長が、文学研究科長と文学部長を兼務し、管理運営の責任を負う。さらに「大阪公立大学大学院学則」にしたがい、文学研究科に文学研究科教授会を設置する。文学研究科教授会は「大阪公立大学大学院文学研究科規程」ならびに「大阪公立大学大学院文学研究科教授会会議規則」によって運営される。文学研究科教授会は、文学研究科所属専任教員によって構成され、以下の事項を所管する。

- (1) 研究科長の推薦に関する事
- (2) 教育研究審議員の選挙に関する事
- (3) 研究及び教授に関する事
- (4) 学位の授与に関する事
- (5) 課程及び専攻に関する事

- (6) 学生の入学、留学、退学、課程の修了その他学生の身分に関する事
- (7) 科目等履修生及び研修生に関する事
- (8) 研究科の内規の制定及び改廃に関する事
- (9) 学校教育法第 93 条第 3 項に基づき、学長及び研究科長に述べる意見に関する事

(10) その他研究科における重要事項

文学研究科教授会は、「大阪公立大学大学院文学研究科各種委員および委員会内規」を定め、原則として 1 月に 1 回開催する。また、同内規により、教務委員会、FD 委員会、将来構想委員会、教育の内部質保証委員会などを設置し、文学研究科、文学研究院、文学部および全学にかかわる恒常的業務に携わる。

たとえば、教務委員会は、「大阪公立大学大学院文学研究科・文学部教務委員会内規」にしたがい、以下に掲げる事項を審議し、重要事項については文学研究科教授会に提案あるいは答申する。

- (1) 履修規程に関する事
- (2) 『科目履修の手引き』に関する事
- (3) 基幹教育科目との連携に関する事
- (4) 教職課程ほか資格養成に関する事
- (5) シラバスおよび時間割の作成に関する事
- (6) 研究生の受け入れに関する事
- (7) 科目等履修生の受け入れに関する事
- (8) 非常勤講師に関する事
- (9) その他教務に関する事

また、将来構想委員会は「大阪公立大学大学院文学研究科・文学部将来構想委員会内規」にしたがい、博士前期課程ならびに博士後期課程および学士課程に関する次の各号に掲げる事項を審議し、重要事項については文学研究科教授会に提案あるいは答申する。

- (1) 文学研究科・文学部の教育・研究全般についての基本方針・将来構想に関する事
- (2) 文学研究科・文学部の教育理念や各ポリシーの構想・制定に関する事
- (3) 文学研究科・文学部の研究・教育についての新制度・事業の設計・企画に関する事
- (4) 入試制度の設計及びその実施・運営に関する事
- (5) 各専攻・教室を超え、あるいはその相互にわたり調整を要する事項に関する事
- (6) その他、研究科長が必要と認めた事項

さらに、教育の内部質保証委員会は、「大阪公立大学大学院文学研究科・文学部教育の内部質保証委員会内規」にしたがい、研究科長、副研究科長、教育研究審議員、庶務・予算委員長、教務委員長、学部担当教務委員、FD 委員長、将来構想委員会委員長をもって構成さ

れ、博士前期課程ならびに博士後期課程および学士課程に関する次の各号に掲げる事項を審議し、重要事項については文学研究科教授会へ答申する。

- (1) 教育の内部質保証に必要な企画・立案に関すること
- (2) 自己評価に関すること
- (3) 文学研究科・文学部の各ポリシーの実質化に向けた取り組みに関すること
- (4) 大学機関別認証評価受審に関すること
- (5) 本委員会の各種取り組みの評価・検証に関すること
- (6) その他教育の内部質保証に関すること

研究科全体のこのような管理運営体制とは別に、文学研究科専任教員は、専修単位で設置される教室会議に所属し、教室員の互選によって選出される教室代表の下、自専修（学部の場合は自コース）所属学生の教育、指導にあたる。

19 自己点検・評価

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

20 情報の公表

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

21 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

文学研究科教授会は、「大阪公立大学大学院文学研究科各種委員および委員会内規」を定め、FD委員会を設置し、FD委員会は、「大阪公立大学大学院文学研究科・文学部FD委員会内規」にしたがい、博士前期課程ならびに博士後期課程および学士課程に関する次の各号に掲げる事項を審議・実施し、重要事項については文学研究科教授会に提案あるいは答申する。

- (1) FD 事業全般に関する企画・立案に関すること
- (2) 大学教育授業実習制度の運営に関すること
- (3) FD 研修会の企画・運営に関すること
- (4) 全学および他研究科のFD・SD 事業との連携に関すること
- (5) 本委員会の各種取組みの評価・検証に関すること
- (6) その他のFD に関すること

FD委員会は、全学で行われるFD活動とは別に、1年に2回、文学研究科・文学部教員

を対象としたFD研修会を企画・運営する。

2.2 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

ア 教育課程内の取組について

文学部では各学科が提供する科目とは別に、学部共通専門教育科目（自由選択科目として卒業要件単位に含まれる）を開設する。その中でとくに以下の科目は、専門知識にとどまらない、社会的・職業的自立の能力の修得に結びついている。

- ・「広報情報論A」「広報情報論B」（それぞれが隔年開講）

広報・PRに関する歴史および諸概念を理解し、この分野に関心をもつ学生が、体系的・学術的に理解を深めることを目的とする。

- ・「マス・コミュニケーション論A」「マス・コミュニケーション論B」（それぞれが隔年開講）

マスメディアの役割について、過去から現在までの新聞報道を中心に考える。そのなかで、報道対象となる時事問題や近現代の歴史について学び、ジャーナリズムのあり方を探る。

以上は、外部講師を起用する科目であり、文学部学生の眼を社会に向けさせる絶好の機会となる。その結果、マスコミ関係、広報関係の進路を選ぶ学生が増えることが期待される。

- ・「上方文化講座」「大阪の地域・文化実践演習」

前者は大阪の伝統芸能を第一線の専門家と文学部教員との共同作業のなかで学んでいく試みであり、後者は大阪の地域文化・地域資源を再発見し、地域の活性化に資することを目的としたものである。いずれも本学が位置する地元・大阪の文化に焦点をあてるものであり、生涯にわたって地域文化についての関心や教養を身につけるための出発点となる。

以上は、文学部で研究する「文化」を社会の中に実装することの意義を文学部生に気づかせ、文学部卒業生としてふさわしいキャリア形成につなげることになる。芸能関係の出版社、地域文化を考える公務員、日本文化に造詣が深い教員などのキャリアにつながる。

- ・「比較文化交流論」「国際都市社会論」（それぞれが隔年開講）

これらの科目を一括して「インターナショナルスクール集中科目」と総称する。招聘研究者の英語による授業と受講生の英語でのディスカッションを通じて、国際的なコミュニケーション能力の向上を図っている。

- ・「日本文化発信のための英語」

日本の文化、伝統、歴史などを英語で表現できることを目指す。講義、リスニング、ディスカッションなどを通して、実践的な英語でのコミュニケーション能力を涵養する。

以上の科目は、文学部で研究した知見を国際的に発信する力を身に付けさせることによ

り、国際的なキャリア形成の基盤となる。商社、金融、など、人文学の素養を活かしながら国際的に活躍できる職業への就職を支援する。

イ 教育課程外の取組について

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

ウ 適切な体制の整備について

学生のキャリア形成のために、就職担当教員を配置する。また全学的な組織として本学キャリア支援部門と協力し、学生の職業的自立を支援する。

大阪公立大学 文学部

設置の趣旨等を記載した書類 添付資料

資料 1	定年退職する教員を特例として新大学で勤務する 教員として雇用する場合の取り扱いについて	P. 2
資料 2-1	文学部哲学歴史学科の履修モデル	P. 3
資料 2-2	文学部人間行動学科の履修モデル	P. 10
資料 2-3	文学部言語文化学科の履修モデル	P. 17
資料 2-4	文学部文化構想学科の履修モデル	P. 28
資料 3-1	実習施設一覧表	P. 36
資料 3-2	実習施設受入承諾書	P. 67
資料 4-1	文学部哲学歴史学科の編入学後の履修モデル	P. 79
資料 4-2	文学部人間行動学科の編入学後の履修モデル	P. 82
資料 4-3	文学部言語文化学科の編入学後の履修モデル	P. 86
資料 4-4	文学部文化構想学科の編入学後の履修モデル	P. 91
資料 5	新キャンパス整備に伴う校地（教育実施場所） 遷移について	P. 94
資料 6	カリキュラム・マップ	P. 95

定年退職する教員を特例として新大学で勤務する教員として 雇用する場合の取り扱いについて

令和 2 年 8 月 26 日 理事長決裁

(趣旨)

- 1 この要項は、特例として、新大学の完成年度までに定年退職する教員を雇用する場合の取り扱いについて定める。

(適用対象)

- 2 この要項の適用対象者（以下「本要項適用者」という。）は、新大学の完成年度までに定年退職する教員で、担当する授業科目の特性等から同一専門分野の後任を直ちに確保することが困難である等理事長が特に必要と認める者とする。

(定年退職後雇用する場合の身分等)

- 3 本要項適用者を雇用する場合の身分は特任教員とし、当該本要項適用者が担当する学部・学域・研究科において教育研究を行う。

(任期)

- 4 本要項適用者の任期は、当該本要項適用者が担当する学部・学域・研究科の完成年度までとする。

(その他)

- 5 本要項適用者の任期以外の事項については、本要項の適用を受けない特任教員と同様とする。

附 則

この要項は、令和 2 年 8 月 26 日から施行する。

履修モデル（哲学歴史学科 哲学コース（標準））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	人間文化基礎論1	2					卒業論文	10
		人間文化基礎論2	2					哲学歴史学研究演習1	2
		人間文化概論A	2					哲学歴史学研究演習2	2
		人間文化概論B	2						
	選択必修科目			哲学史通論1	2	哲学概論1	2		
				倫理学概論1	2	哲学演習・講読1	2		
				倫理学演習・講読1	2	哲学史演習・講読1	2		
				宗教学概論1	2	哲学演習・講読2	2		
				西洋史通論	2	宗教学演習・講読1	2		
				哲学概論2	2	宗教学演習・講読2	2		
		哲学史通論2	2						
		倫理学概論2	2						
		倫理学演習・講読2	2						
		宗教学概論2	2						
		世界史通論	2						
		美学概論1	2						
		美学概論2	2						
自由選択科目	人間行動学概論A	2	言語文化基礎論B	2	社会学概論A	2			
			国文学史B	2	社会学特講B	2			
			比較文化交流論	2	心理学概論1	2			
			博物館展示論	2	心理学概論2	2			
			政治学概論	2	知覚・認知心理学特論	2			
					発達心理学特論	2			
				哲学特講B	2				
				哲学特講C	2				
				哲学特講D	2				
				教育方法学A	2				
自由科目									
	小計	10	小計	36	小計	32	小計	14	92
合計		41		44		32		14	131

履修モデル（哲学歴史学科 哲学コース（高校公民免許取得））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	人間文化基礎論1	2				卒業論文	10	
		人間文化基礎論2	2				哲学歴史学研究演習1	2	
		人間文化概論A	2				哲学歴史学研究演習2	2	
		人間文化概論B	2						
	選択必修科目			哲学史通論1	2	哲学概論1	2		
				倫理学概論1	2	哲学演習・講読1	2		
				倫理学演習・講読1	2	哲学史演習・講読1	2		
				宗教学概論1	2	哲学演習・講読2	2		
				西洋史通論	2	宗教学演習・講読1	2		
				哲学概論2	2	宗教学演習・講読2	2		
				哲学史通論2	2				
				倫理学概論2	2				
				倫理学演習・講読2	2				
				宗教学概論2	2				
				世界史通論	2				
				美学概論1	2				
				美学概論2	2				
		自由選択科目	人間行動学概論A	2	言語文化基礎論B	2	社会学概論A	2	
				国文学史B	2	社会学特講B	2		
				比較文化交流論	2	心理学概論1	2		
				博物館展示論	2	心理学概論2	2		
				政治学概論	2	知覚・認知心理学特論	2		
				教育基礎論	2	発達心理学特論	2		
				発達・学習論	2	哲学特講B	2		
				教育制度論	2	教育方法学A	2		
				国際法	4	哲学特講C	2		
						哲学特講D	2		
	自由科目	教職概論	2	特別活動論	2	教育メディア論	2	教育実習(2単位)	2
				生徒・進路指導論	2			教育実習事前事後指導(中・高)	1
				教育相談論	2			教職実践演習(中・高)	2
				教育課程論	2				
				特別支援教育論	2				
				総合的な探究の指導論	2				
				教育方法論	2				
				社会科・公民科教育法1A	2				
			社会科・公民科教育法2A	2					
	小計	12	小計	64	小計	34	小計	19	129
合計		43		72		34		19	168

履修モデル（哲学歴史学科 日本史コース（標準））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	人間文化概論A	2	人間文化基礎論1	2			卒業論文	10
		人間文化概論B	2	人間文化基礎論2	2			哲学歴史学研究演習1	2
							哲学歴史学研究演習2	2	
	選択必修科目	日本史基礎講読1	2	日本史基礎講読2	2	日本史演習A	2		
			日本史講読A	2	日本史演習B	2			
			日本史講読B	2	日本史演習C	2			
			日本史講読C	2	日本史演習D	2			
			日本史講読D	2	考古学演習	2			
			日本史通論A	2	日本史通論B	2			
			史学概論	2	考古学通論	2			
自由選択科目	世界史基礎講読	2	大阪の歴史演習	2	日本史特講A	2			
	上方文化講座	2	東洋史基礎講読	2	日本史特講B	2			
			世界史通論	2	日本史特講C	2			
			世界史講読	2	日本史特講D	2			
			東洋史講読A	2	考古学実習	2			
			大阪の地域・文化実践演習	2	東洋史通論	2			
			民俗学	2	東洋史講読B	2			
					世界史演習	2			
					世界史特講	2			
					東洋史特講A	2			
					文化人類学	2			
	小計	10	小計	32	小計	36	小計	14	92
合計		41		40		36		14	131

履修モデル（哲学歴史学科 日本史コース（学芸員取得））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
基幹教育科目	初年次教育科目	2								
	情報リテラシー科目	2								
	英語科目	4	英語科目	2						
	初修外国語	6								
	健康スポーツ科学	3								
	総合教養科目	14	総合教養科目	6						
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39	
専門科目	必修科目	人間文化概論A	2					卒業論文	10	
		人間文化概論B	2					哲学歴史学研究演習1	2	
		人間文化基礎論1	2					哲学歴史学研究演習2	2	
		人間文化基礎論2	2							
	選択必修科目	日本史基礎講読1	2	日本史基礎講読2	2	日本史演習A	2			
				日本史講読A	2	日本史演習B	2			
				日本史講読B	2	日本史演習C	2			
				日本史講読C	2	日本史演習D	2			
				日本史講読D	2	考古学演習	2			
				日本史通論A	2	日本史通論B	2			
自由選択科目			史学概論	2	考古学通論	2				
			大阪の歴史演習	2	日本史特講A	2				
			世界史通論	2	日本史特講B	2				
			世界史講読	2	日本史特講C	2				
			大阪の地域・文化実践演習	2	日本史特講D	2				
			民俗学	2	考古学実習	2				
			生涯学習概論	2	世界史演習	2				
			博物館概論	2	文化人類学	2				
			世界史基礎講読	2	博物館経営論	2				
			上方文化講座	2	博物館資料論	2				
					博物館資料保存論	2				
					博物館展示論	2				
					博物館教育論	2				
					博物館情報・メディア論	2				
自由科目							博物館実習1	2		
							博物館実習2	1		
	小計	10	小計	32	小計	40	小計	17	99	
合計		41		40		40		17	138	

履修モデル（哲学歴史学科 世界史コース（標準））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	人間文化基礎論 1	2					卒業論文	10
		人間文化基礎論 2	2					哲学歴史学研究演習 1	2
		人間文化概論 A	2					哲学歴史学研究演習 2	2
		人間文化概論 B	2						
	選択必修科目	世界史基礎講読	2	世界史通論	2	東洋史講読 A	2		
				東洋史講読 B	2	東洋史講読 C	2		
				東洋史基礎講読	2	東洋史演習 A	2		
				東洋史通論	2	世界史演習	2		
				史学概論	2	西洋史講読 B	2		
				世界史講読	2	西洋史演習 A	2		
		西洋史講読 A	2	宗教学概論 1	2				
		哲学史通論 1	2	西洋史演習 B	2				
				西洋史演習 C	2				
				宗教学概論 2	2				
				倫理学概論 1	2				
自由選択科目	西洋古典学	民俗学	2	西洋史特講 B	2				
		文化構想学概論 A	2	東洋史特講 A	2				
		教育基礎論	2	社会学史 A	2				
		発達・学習論	2	マス・コミュニケーション論 A	2				
		文化構想学概論 B	2	社会学概論 A	2				
		社会学史 B	2	ドイツ語学概論	2				
		ギリシャ語 1	2						
		ラテン語 1	2						
自由科目									
	小計	12	小計	32	小計	34	小計	14	92
合計		43		40		34		14	131

履修モデル（哲学歴史学科 世界史コース（中学社会・高校地歴免許取得））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
必修科目	人間文化基礎論 1	2					卒業論文	10	
	人間文化基礎論 2	2					哲学歴史学研究演習1	2	
	人間文化概論A	2					哲学歴史学研究演習2	2	
	人間文化概論B	2							
選択必修科目	世界史基礎講読	2	世界史通論	2	東洋史講読A	2			
			東洋史講読B	2	東洋史講読C	2			
			東洋史基礎講読	2	東洋史演習A	2			
			東洋史通論	2	世界史演習	2			
			史学概論	2	西洋史講読B	2			
			世界史講読	2	西洋史演習A	2			
			西洋史講読A	2	宗教学概論 1	2			
			哲学史通論 1	2	西洋史演習B	2			
					西洋史演習C	2			
					宗教学概論 2	2			
				倫理学概論 1	2				
専門科目	西洋古典学	2	民俗学	2	西洋史特講B	2			
			教育基礎論	2	東洋史特講A	2			
			発達・学習論	2	社会学史A	2			
			社会学史B	2	マス・コミュニケーション論A	2			
			教育制度論	2	社会学概論A	2			
			政治学概論	2	ドイツ語学概論	2			
			国際法	4	地理学概論A	2			
					自然地理学概論	2			
					地誌学A	2			
自由科目	教職概論	2	特別支援教育論	2			教育実習（4単位）	4	
			教育相談論	2			教育実習事前事後指導（中・高）	1	
			教育課程論	2			教職実践演習（中・高）	2	
			道德教育論	2					
			総合的な探究の指導論	2					
			特別活動論	2					
			教育方法論	2					
			生徒・進路指導論	2					
			社会科・地理歴史科教育法1A	2					
			社会科・地理歴史科教育法2A	2					
社会科・公民科教育法1A	2								
社会科・公民科教育法2A	2								
	小計	14	小計	56	小計	40	小計	21	131
合計		45		64		40		21	170

履修モデル（哲学歴史学科 世界史コース（学芸員資格取得））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	人間文化基礎論1	2					卒業論文	10
		人間文化基礎論2	2					哲学歴史学研究演習1	2
		人間文化概論A	2					哲学歴史学研究演習2	2
		人間文化概論B	2						
	選択必修科目	世界史基礎講読	2	世界史通論	2	東洋史講読A	2		
				東洋史講読B	2	東洋史講読C	2		
				東洋史基礎講読	2	東洋史演習A	2		
				東洋史通論	2	世界史演習	2		
				史学概論	2	西洋史講読B	2		
				世界史講読	2	西洋史演習A	2		
		西洋史講読A	2	宗教学概論1	2				
		哲学史通論1	2	西洋史演習B	2				
				西洋史演習C	2				
				宗教学概論2	2				
				倫理学概論1	2				
自由選択科目	西洋古典学	民俗学	2	西洋史特講B	2				
		文化構想学概論A	2	東洋史特講A	2				
		博物館概論	2	社会学史A	2				
		ドイツ語圏文学史	2	ドイツ語圏言語文化特別演習	2				
		文化構想学概論B	2	博物館経営論	2				
		社会学史B	2	ドイツ語圏文化論	2				
		ギリシャ語1	2	博物館情報・メディア論	2				
		ギリシャ語2	2	博物館資料保存論	2				
		生涯学習概論	2	博物館展示論	2				
		美術史通論A	2	博物館資料論	2				
		社会学概論A	2	博物館教育論	2				
				マス・コミュニケーション論A	2				
				ドイツ語学概論	2				
自由科目							博物館実習1	2	
							博物館実習2	1	
	小計	12	小計	38	小計	48	小計	17	115
合計		43		46		48		17	154

履修モデル（人間行動学科 社会学コース（標準））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	人間行動学概論A	2	人間行動学データ解析法1	2			卒業論文	10
		人間行動学概論B	2	人間行動学データ解析法2	2			人間行動学研究演習1	2
							人間行動学研究演習2	2	
	選択必修科目			社会学概論A	2	社会学実習1	2		
			社会学研究法	2	社会学実習2	2			
			社会学基礎演習	2	社会学演習2	2			
			社会学史A	2	社会学演習3	2			
			社会調査法	2	社会学質的研究法	2			
			社会学演習1	2	社会学データ解析法	2			
			心理学概論1	2	比較・国際教育学	2			
			地理学概論A	2	地誌学A	2			
			教育学概論A	2					
自由選択科目				社会学特論A	2	社会学特論D	2		
			社会学特論B	2	社会学特論E	2			
			社会学特論C	2	社会学特講B	2			
			哲学史通論1	2	社会学特講C	2			
			民俗学	2	マス・コミュニケーション論A	2			
			フランス語圏文化論	2	文化人類学	2			
			表象文化論	2	社会・集団・家族心理学特論	2			
			言語文化基礎論A	2	広報情報論B	2			
			ポピュラー文化論	2	心理学特講A	2			
自由科目									
	小計	4	小計	40	小計	34	小計	14	92
合計		35		48		34		14	131

履修モデル（人間行動学科 心理学コース（標準））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	人間行動学概論A	2	人間行動学データ解析法1	2			卒業論文	10
		人間行動学概論B	2	人間行動学データ解析法2	2			人間行動学研究演習1	2
							人間行動学研究演習2	2	
	選択必修科目			心理学概論1	2	心理学研究演習1	2		
			心理学概論2	2	心理学研究演習2	2			
			心理学実験演習1（心理学実験）	2	地理学概論A	2			
			心理学実験演習2（心理学実験）	2	人間行動学データ解析法3（心理学統計法）	2			
			教育学概論A	2	人間行動学データ解析法4	2			
			心理学研究法1	2	社会学概論A	2			
			心理学研究法2	2	社会学概論B	2			
			心理学統計法	2	地理学概論B	2			
			教育学概論B	2	教育方法学A	2			
			教育学研究法1	2					
自由選択科目			神経・生心理学特論	2	心理学的アセスメント特論	2	心理学特講B	2	
			感情・人格心理学特論	2	心理学特講A	2			
			学習・言語心理学特論	2	発達心理学特論	2			
			知覚・認知心理学特論	2	社会学特講A	2			
			社会・集団・家族心理学特論	2	哲学特講A	2			
			自然地理学概論	2	教育史	2			
					地理情報学	2			
					英語コミュニケーションA	2			
					英語コミュニケーションB	2			
	小計	4	小計	36	小計	36	小計	16	92
合計		35		44		36		16	131

履修モデル（人間行動学科 心理学コース（公認心理師資格取得））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	人間行動学概論A	2	人間行動学データ解析法1	2		卒業論文	10	
		人間行動学概論B	2	人間行動学データ解析法2	2		人間行動学研究演習1	2	
						人間行動学研究演習2	2		
	選択必修科目			心理学概論1	2	心理学研究演習1	2		
			心理学概論2	2	心理学研究演習2	2			
			心理学実験演習1(心理学実験)	2	地理学概論A	2			
			心理学実験演習2(心理学実験)	2	人間行動学データ解析法3(心理学統計法)	2			
			教育学概論A	2	人間行動学データ解析法4	2			
			心理学研究法1	2	社会学概論A	2			
			心理学研究法2	2	社会学概論B	2			
			心理学統計法	2					
自由選択科目			神経・生理心理学特論	2	発達心理学特論	2	心理学特講B	2	
			感情・人格心理学特論	2	心理学特講A	2			
			心理的アセスメント特論	2	教育・学校心理学(生)	2			
			教育学概論B	2	福祉心理学(生)	2			
			学習・言語心理学特論	2	心理学的支援法1(生)	2			
			知覚・認知心理学特論	2	健康・医療心理学(生)	2			
			社会・集団・家族心理学特論	2	障害者・障害児心理学(生)	2			
			臨床心理学概論(生)	2	司法・犯罪心理学(生)	2			
			福祉システム学2(精神疾患とその治療)(生)	2					
					心理演習1(生)	2	心理実習(生)	2	
自由科目					公認心理師の職責(生)	2	関係行政論(生)	2	
					医学知識(人体の構造と機能及び疾病)(通年)(生)	4			
					心理演習2(生)	2			
					産業・組織心理学(生)	2			
	小計	4	小計	38	小計	42	小計	20	104
合計		35		46		42		20	143

履修モデル（人間行動学科 教育学コース（標準））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹 教育 科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専 門 科 目	必修 科目	人間行動学概論A	2	人間行動学データ解析法1	2			卒業論文	10
		人間行動学概論B	2	人間行動学データ解析法2	2			人間行動学研究演習1	2
								人間行動学研究演習2	2
	選択 必修 科目		教育学概論A	2	教育方法学B	2			
		教育学概論B	2	比較・国際教育学	2				
		教育方法学A	2	教育学演習D	2				
		教育学研究法1	2	心理学概論1	2				
		教育学演習C	2	地理学概論A	2				
		社会学概論A	2	地理学概論B	2				
		教育学実習	2	教育学研究法1	2				
		教育学演習A	2	教育学演習B	2				
				心理学概論2	2				
	自由 選択 科目	文学部基礎演習	2	教育史	2				
		人間文化基礎論1	2	日本史通論B	2	教育学特講B	2		
				道徳教育論	2	教育行政学	2		
				教育相談論	2	生徒・進路指導論	2		
				教育メディア論	2	特別支援教育論	2		
				特別活動論	2	教育方法論	2		
				教育基礎論	2	総合的な探究の指導論	2		
				発達・学習論	2				
				教育制度論	2				
				教育課程論	2				
	自由 科目								
	小計	8	小計	40	小計	30	小計	14	92
合計		39		48		30		14	131

履修モデル（人間行動学科 教育学コース（中学社会・高校地歴・高校公民免許取得））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹 教育 科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専 門 科 目	必修 科目	人間行動学概論A	2	人間行動学データ解析法1	2			卒業論文	10
		人間行動学概論B	2	人間行動学データ解析法2	2			人間行動学研究演習1	2
							人間行動学研究演習2	2	
	選択 必修 科目			教育学概論A	2	教育方法学B	2		
			教育学概論B	2	比較・国際教育学	2			
			教育方法学A	2	教育演習D	2			
			教育学研究法1	2	心理学概論1	2			
			教育学演習C	2	地理学概論A	2			
			社会学概論A	2	地理学概論B	2			
			教育学実習	2	教育学研究法1	2			
			教育学演習A	2	教育学演習B	2			
					心理学概論2	2			
					地誌学A	2			
自由 選択 科目	文学部基礎演習	2	教育史	2	発達心理学特論	2			
	人間文化基礎論1	2	日本史通論B	2	教育学特講B	2			
	教職概論	2	道徳教育論	2	教育行政学	2			
			教育相談論	2	世界史通論	2			
			教育メディア論	2	西洋史通論	2			
			特別活動論	2	地図学	2			
			日本史通論A	2					
			東洋史通論	2					
			自然地理学概論	2					
			教育基礎論	2					
			発達・学習論	2					
			教育制度論	2					
			教育課程論	2					
			生徒・進路指導論	2					
			特別支援教育論	2					
			教育方法論	2					
			総合的な探究の指導論	2					
			哲学史通論1	2					
			政治学概論	2					
		国際法	4						
自由 科目	教職ボランティア実習1	2	教職ボランティア実習2	2	教職ボランティア実習3	2	教育実習（4単位）	4	
			社会科・地理歴史科教育法1A	2			教育実習事前事後指導（中・高）	1	
			社会科・公民科教育法1A	2			教職実践演習（中・高）	2	
			社会科・地理歴史科教育法2A	2			教職ボランティア実習4	2	
			社会科・公民科教育法2A	2					
	小計	12	小計	72	小計	34	小計	23	141
合計		43		80		34		23	180

履修モデル（人間行動学科 地理学コース（標準））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	人間行動学概論A	2	人間行動学データ解析法1	2		卒業論文	10	
		人間行動学概論B	2	人間行動学データ解析法2	2		人間行動学研究演習1	2	
							人間行動学研究演習2	2	
	選択必修科目			地理学概論A	2	地理学演習A	2		
			地理学概論B	2	地理学演習B	2			
			地理学実験実習1	2	地理学野外調査実習2	2			
			地理学実験実習2	2	地誌学A	2			
			地理学野外調査実習1	2	地誌学B	2			
			心理学概論1	2	地理学講読演習A	2			
			心理学概論2	2	地理学講読演習B	2			
			社会学研究法	2	人間行動学データ解析法4	2			
自由選択科目	言語文化概論A	2	地理情報学	2	地図学	2			
	言語文化概論B	2	哲学概論1	2	地理学特講A	2			
			哲学概論2	2	ドイツ語圏文化論	2			
			観光文化論	2	英米文化演習	2			
			フランス語学概論	2	フランス語圏言語文化演習A	2			
			言語文化基礎論A	2	心理学特講B	2			
			言語文化基礎論B	2	公共経済学	2			
			経済政策入門	2	産業経済論	2			
			日本史通論B	2					
	小計	8	小計	38	小計	32	小計	14	92
合計		39		46		32		14	131

注)「経済政策入門」、「産業経済論」、「公共経済学」は経済学部専門科目

履修モデル（人間行動学科 地理学コース（中学校社会・高校地歴免許取得））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	人間行動学概論A	2	人間行動学データ解析法1	2			卒業論文	10
		人間行動学概論B	2	人間行動学データ解析法2	2			人間行動学研究演習1	2
							人間行動学研究演習2	2	
	選択必修科目			地理学概論A	2	地理学演習A	2		
			地理学概論B	2	地理学演習B	2			
			地理学実験実習1	2	地理学野外調査実習2	2			
			地理学実験実習2	2	地誌学A	2			
			地理学野外調査実習1	2	地誌学B	2			
			心理学概論1	2	地理学講読演習A	2			
			心理学概論2	2	地理学講読演習B	2			
			社会学研究法	2	人間行動学データ解析法4	2			
			社会学概論A	2					
自由選択科目	言語文化概論A	2	地理情報学	2	地図学	2	教職実践演習（中・高）	2	
	言語文化概論B	2	哲学概論1	2	地理学特講A	2			
			哲学概論2	2	ドイツ語圏文化論	2			
			観光文化論	2	英米文化演習	2			
			フランス語学概論	2	フランス語圏言語文化演習A	2			
			言語文化基礎論A	2	心理学特講B	2			
			言語文化基礎論B	2	日本史通論A	2			
			日本史通論B	2	世界史通論	2			
			教育基礎論	2	自然地理学概論	2			
			発達・学習論	2					
			教育制度論	2					
			政治学概論	2					
			国際法	4					
	自由科目	教職概論	2	社会科・地理歴史科教育法1A	2			教育実習（4単位）	4
			社会科・地理歴史科教育法2A	2			教育実習事前事後指導（中・高）	1	
			社会科・公民科教育法1A	2			教職実践演習（中・高）	2	
			社会科・公民科教育法2A	2					
			教育方法論	2					
			教育課程論	2					
			特別支援教育論	2					
			総合的な探究の指導論	2					
			特別活動論	2					
			道徳教育論	2					
			教育相談論	2					
			生徒・進路指導論	2					
		小計	10	小計	74	小計	34	小計	23
合計		41		82		34		23	180

履修モデル（言語文化学科 国語国文学コース（標準））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
基幹教育科目	初年次教育科目	2	英語科目	2						
	情報リテラシー科目	2	総合教養科目	6						
	英語科目	4								
	初修外国語	6								
	健康スポーツ科学	3								
	総合教養科目	14								
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39	
専門科目	必修科目	言語文化基礎論A	2					卒業論文	10	
		言語文化基礎論B	2					言語文化学研究演習1	2	
		言語文化概論A	2					言語文化学研究演習2	2	
		言語文化概論B	2							
	選択必修科目	国文学史B	2	国文学史A	2	国語国文学演習A1	2			
				国語学基礎論	2	国語国文学演習B1	2			
				国語国文学講読A1	2	国語国文学演習C1	2			
				国語国文学講読B1	2	国語国文学演習D1	2			
				英米文化演習	2	フランス語圏言語文化論	2			
				国文学史D	2	国語国文学演習A2	2			
			国語国文学講読A2	2	国語国文学演習B2	2				
			国語国文学講読B2	2	国語国文学演習C2	2				
	英米文化概論	2	国語国文学演習D2	2						
	ドイツ語圏言語文化論	2								
	ドイツ語圏文化論	2								
自由選択科目	教職概論	2	民俗学	2	国語国文学特講A	2				
			日本史通論A	2	美術史通論A	2				
			日本史通論B	2	地図学	2				
			観光文化論	2	哲学概論1	2				
			英語コミュニケーションA	2	心理学概論1	2				
			英語コミュニケーションB	2	国語国文学特講D	2				
			比較文化交流論	2						
自由科目										
	小計	12	小計	36	小計	30	小計	14	92	
合計		43		44		30		14	131	

履修モデル（言語文化学科 国語国文学コース（中・高 国語免許取得））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
必修科目	言語文化基礎論A	2					卒業論文	10	
	言語文化基礎論B	2					言語文化学研究演習1	2	
	言語文化概論A	2					言語文化学研究演習2	2	
	言語文化概論B	2							
選択必修科目	国文学史A	2	国文学史B	2	国語国文学演習A1	2			
			国語学基礎論	2	国語国文学演習B1	2			
			国語国文学講読A1	2	国語国文学演習C1	2			
			国語国文学講読B1	2	国語国文学演習D1	2			
			国文学史C	2	国語国文学演習A2	2			
			国語国文学講読A2	2	国語国文学演習B2	2			
			国語国文学講読B2	2	国語国文学演習C2	2			
					国語国文学演習D2	2			
					中国語中国文学概論B	2			
自由選択科目			国語国文学特講A	2	国語国文学特講B	2			
			中国古典語1	2	民俗学	2			
			発達・学習論	2	考古学通論	2			
			中国古典語2	2	心理学概論1	2			
			教育基礎論	2	比較文化交流論	2			
			教育制度論	2	国語国文学特講C	2			
					人間文化概論B	2			
					東洋史通論	2			
					心理学概論2	2			
					地理学特講B	2			
自由科目	教職概論	2	書道	2	国語科教育法2A	2	教育実習(4単位)	4	
	教職ボランティア実習1	2	道德教育論	2	国語科教育法2B	2	教育実習事前事後指導(中・高)	1	
			生徒・進路指導論	2			教職実践演習(中・高)	2	
			教育相談論	2					
			特別支援教育論	2					
			総合的な探究の指導論	2					
			教育課程論	2					
			特別活動論	2					
			教育方法論	2					
			国語科教育法1A	2					
		国語科教育法1B	2						
	小計	14	小計	48	小計	42	小計	21	125
合計		45		56		42		21	164

履修モデル（言語文化学科 中国語中国文学コース（標準））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	言語文化基礎論A	2	言語文化基礎論B	2			卒業論文	10
		言語文化概論A	2	言語文化概論B	2			言語文化学研究演習1	2
								言語文化学研究演習2	2
	選択必修科目			中国語中国文学概論A	2	中国文学演習1	2	中国語学演習A	2
				中国語中国文学概論B	2	中国語中国文学概論A	2		
				中国語中国文学概論C	2	中国語中国文学概論B	2		
				中国語中国文学概論D	2	中国語中国文学概論C	2		
				中国語基礎演習1	2	中国語中国文学概論D	2		
				中国語基礎演習2	2	中国語基礎演習1	2		
				中国語コミュニケーション1	2	中国語基礎演習2	2		
			中国語コミュニケーション2	2	中国語コミュニケーション1	2			
自由選択科目			美学概論1	2	中国語中国文学特講A	2			
			東洋史通論	2	中国語中国文学特講B	2			
			世界史通論	2	東洋史演習B	2			
			東洋史講読A	2	東洋史演習C	2			
			東洋史講読B	2	東洋史基礎講読	2			
			英語学概論A	2	教育史	2			
			比較文化交流論	2	英語学概論B	2			
					アジア地域文化概論	2			
自由科目			中国語海外語学研修	2	外国語科教育法(中国語)1A	2			
					外国語科教育法(中国語)2A	2			
	小計	4	小計	36	小計	36	小計	16	92
合計		35		44		36		16	131

履修モデル（言語文化学科 中国語中国文学コース（学芸員資格取得））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	言語文化基礎論A	2					卒業論文	10
		言語文化基礎論B	2					言語文化学研究演習1	2
		言語文化概論A	2					言語文化学研究演習2	2
		言語文化概論B	2						
	選択必修科目		中国語中国文学概論A	2	中国文学演習1	2	中国語学演習A	2	
			中国語中国文学概論B	2	中国語中国文学概論A	2			
			中国語中国文学概論C	2	中国語中国文学概論B	2			
			中国語中国文学概論D	2	中国語中国文学概論C	2			
			中国語基礎演習1	2	中国語中国文学概論D	2			
			中国語基礎演習2	2	中国語基礎演習1	2			
		中国語コミュニケーション1	2	中国語基礎演習2	2				
		中国語コミュニケーション2	2	中国語コミュニケーション1	2				
			中国語コミュニケーション2	2					
自由選択科目		美学概論1	2	中国語中国文学特講A	2				
		心理学研究法1	2	中国語中国文学特講B	2				
		民俗学	2	博物館経営論	2				
		生涯学習論	2	博物館情報・メディア論	2				
		博物館概論	2	博物館資料保存論	2				
		比較表現論	2	博物館教育論	2				
		博物館資料論	2	地誌学A	2				
		博物館展示論	2	哲学史通論2	2				
		西洋古典学	2	日本史通論A	2				
				社会学史B	2				
自由科目			中国語海外語学研修	2	外国語科教育法(中国語)1A	2			
					外国語科教育法(中国語)2A	2			
					博物館実習1	2			
				博物館実習2	1				
	小計	8	小計	36	小計	43	小計	16	103
合計		39		44		43		16	142

履修モデル（言語文化学科 英米言語文化コース（標準））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2	英語科目	2					
	情報リテラシー科目	2	総合教養科目	6					
	英語科目	4							
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14							
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	言語文化基礎論A	2	言語文化概論B	2	言語文化基礎論B	2	卒業論文	10
		言語文化概論A	2				言語文化学研究演習1	2	
							言語文化学研究演習2	2	
	選択必修科目			英米文学史A	2	英語学概論A	2		
			英米文化演習	2	フランス語圏言語文化論	2			
			国語学基礎論	2	フランス語圏文化論	2			
			比較表現論	2	フランス語圏言語文化演習A	2			
			英米文化概論	2	英語学概論B	2			
			国文学史B	2	英米文学演習D	2			
			フランス語学概論	2	英米文学史C	2			
			英米文学史B	2	英語学特講	2			
			英語学演習	2					
自由選択科目		人間行動学概論A	2	英語コミュニケーションA	2	インターカルチュラルスタディーズA	2		
	人間行動学概論B		2	民俗学	2	社会学概論A	2		
			人間行動学データ解析法1	2	教育方法学B	2			
			社会学研究法	2	心理学概論2	2			
			観光文化論	2	教育行政学	2			
			発達・学習論	2	表現文化特論	2			
			英語コミュニケーションB	2	博物館資料論	2			
			哲学史通論1	2					
			教育制度論	2					
	小計	8	小計	38	小計	32	小計	14	92
合計		39		46		32		14	131

履修モデル（言語文化学科 英米言語文化コース（中・高 英語免許取得））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹 教育 科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専 門 科 目	必修 科目	言語文化概論A	2	言語文化基礎論A	2			卒業論文	10
		言語文化概論B	2	言語文化基礎論B	2			言語文化学研究演習1	2
							言語文化学研究演習2	2	
	選択 必修 科目			英語学概論A	2	英米文学史A	2		
			英語学概論B	2	英米文学演習A	2			
			英米文化演習	2	英米文学演習C	2			
			英米文化演習B	2	英米文学演習D	2			
			英米文化概論	2	英米文学史B	2			
			フランス語圏文学史	2	英米文学史C	2			
			ドイツ語学概論	2	フランス語学概論	2			
			国語学基礎論	2	ドイツ語圏文化論	2			
					フランス語圏文化論	2			
					宗教学概論2	2			
自由 選択 科目	人間行動学概論A	2	英語コミュニケーションA	2	西洋史特講A	2			
	人間行動学概論B	2	英語コミュニケーションB	2	博物館教育論	2			
			発達・学習論	2	表現文化特論	2			
			教育基礎論	2	史学概論	2			
			教育制度論	2	社会学特論B	2			
			ラテン語1	2	自然地理学概論	2			
			ラテン語2	2					
自由 科目	教職概論	2	外国語科教育法（英語）1B	2	外国語科教育法（英語）2A	2	教育実習（4単位）	4	
			外国語科教育法（英語）1A	2	外国語科教育法（英語）2B	2	教育実習事前事後指導（中・高）	1	
			特別活動論	2			教職実践演習（中・高）	2	
			教育相談論	2					
			教育方法論	2					
			生徒・進路指導論	2					
			道德教育論	2					
			特別支援教育論	2					
			教育課程論	2					
			総合的な探究の指導論	2					
合計	41	62	36	21	121				

履修モデル（言語文化学科 ドイツ語圏言語文化コース（標準））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2	ドイツ語特修A	1	ドイツ語特修E	1			
	情報リテラシー科目	2	ドイツ語特修B	1	ドイツ語特修F	1			
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6	総合教養科目	6					
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14							
	小計	31	小計	10	小計	2	小計	0	43
専門科目	必修科目	言語文化基礎論A	2					卒業論文	10
		言語文化基礎論B	2					言語文化学研究演習1	2
		言語文化概論A	2					言語文化学研究演習2	2
		言語文化概論B	2						
選択必修科目	フランス語圏文学史	2	ドイツ語圏言語文化論	2	ドイツ語圏言語文化演習A	2			
	国文学史A	2	ドイツ語文学史	2	ドイツ語コミュニケーション1	2			
	国文学史B	2	ドイツ語圏言語文化基礎演習A	2	ドイツ語圏言語文化特別演習	2			
			ドイツ語圏文化論	2	ドイツ語圏言語文化演習B	2			
			ドイツ語圏言語文化基礎演習B	2	ドイツ語圏言語文化演習C	2			
			ドイツ語学概論	2	ドイツ語コミュニケーション2	2			
			フランス語圏言語文化論	2	ドイツ語圏ランデスクンデ	2			
			英語学概論A	2	英米文学史A	2			
			国文学史C	2	フランス語圏文化論	2			
			国文学史D	2	フランス語学概論	2			
	自由選択科目			西洋古典学	2	美術史通論A	2		
			ギリシア語1	2	美術史通論B	2			
			ギリシア語2	2	英米文学特講	2			
			英米文化概論	2	比較文化交流論	2			
			教育基礎論	2	博物館情報・メディア論	2			
			発達・学習論	2	ヨーロッパ言語文化特講	2			
自由科目									
	小計	14	小計	32	小計	32	小計	14	92
合計		45		42		34		14	135

履修モデル（言語文化学科 ドイツ語圏言語文化コース（中・高 ドイツ語免許取得））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
基幹教育科目	初年次教育科目	2	英語科目	2						
	情報リテラシー科目	2	総合教養科目	6						
	英語科目	4								
	初修外国語	6								
	健康スポーツ科学	3								
	総合教養科目	14								
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39	
専門科目	必修科目	言語文化基礎論A	2					卒業論文	10	
		言語文化基礎論B	2					言語文化学研究演習1	2	
		言語文化概論A	2					言語文化学研究演習2	2	
		言語文化概論B	2							
	選択必修科目	フランス語圏文学史	2	ドイツ語圏言語文化論	2	ドイツ語圏言語文化演習A	2			
		国文学史A	2	ドイツ語圏文学史	2	ドイツ語コミュニケーション1	2			
		国文学史B	2	ドイツ語圏言語文化基礎演習A	2	ドイツ語圏言語文化特別演習	2			
				ドイツ語圏文化論	2	ドイツ語圏言語文化演習B	2			
				ドイツ語圏言語文化基礎演習B	2	ドイツ語圏言語文化演習C	2			
				ドイツ語学概論	2	ドイツ語コミュニケーション2	2			
				フランス語圏言語文化論	2	ドイツ語圏ランデスクンデ	2			
				国文学史C	2	英米文学史A	2			
				国文学史D	2	英米文学史B	2			
				英語学概論A	2	フランス語圏文化論	2			
				英語学概論B	2	フランス語学概論	2			
		自由選択科目			西洋古典学	2	美術史通論A	2		
			ギリシア語1	2	美術史通論B	2				
			ギリシア語2	2	比較文化交流論	2				
			教育制度論	2	博物館情報・メディア論	2				
			教育基礎論	2	ヨーロッパ言語文化特講	2				
			発達・学習論	2	英米文学特講	2				
自由科目	教職概論	2	外国語科教育法(独語)1A	2	外国語科教育法(独語)2A	2	教育実習(4単位)	4		
	教職ボランティア実習1	2	外国語科教育法(独語)1B	2	外国語科教育法(独語)2B	2	教育実習事前事後指導(中・高)	1		
			道徳教育論	2	教職ボランティア実習3	2	教職実践演習(中・高)	2		
			特別支援教育論	2						
			総合的な探究の指導論	2						
			教育方法論	2						
			教育課程論	2						
			特別活動論	2						
			生徒・進路指導論	2						
			教育相談論	2						
			教職ボランティア実習2	2						
	小計	18	小計	56	小計	40	小計	21	135	
合計		49		64		40		21	174	

履修モデル（言語文化学科 ドイツ語圏言語文化コース（学芸員取得））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹 教育 科目	初年次教育科目	2	ドイツ語特修A	1	ドイツ語特修C	1			
	情報リテラシー科目	2	ドイツ語特修B	1	ドイツ語特修D	1			
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6	総合教養科目	6					
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14							
	小計	31	小計	10	小計	2	小計	0	43
専 門 科 目	必修 科目	言語文化基礎論A	2				卒業論文	10	
		言語文化基礎論B	2				言語文化学研究演習1	2	
		言語文化概論A	2				言語文化学研究演習2	2	
		言語文化概論B	2						
選 択 必 修 科 目	フランス語圏文学史	ドイツ語圏言語文化論	2	ドイツ語圏言語文化演習A	2	ドイツ語圏言語文化演習A	2		
		ドイツ語圏言語文化基礎演習A	2	ドイツ語コミュニケーション1	2				
		ドイツ語圏言語文化基礎演習B	2	ドイツ語圏言語文化特別演習	2				
		ドイツ語圏文化論	2	ドイツ語圏言語文化演習B	2				
		ドイツ語文学史	2	ドイツ語圏言語文化演習C	2				
		ドイツ語学概論	2	ドイツ語コミュニケーション2	2				
				ドイツ語圏ランデスクンデ	2				
				フランス語圏文化論	2				
自 由 選 択 科 目		博物館概論	2	博物館経営論	2				
		生涯学習概論	2	博物館情報・メディア論	2				
		発達・学習論	2	博物館資料保存論	2				
		民俗学	2	博物館展示論	2				
		自然地理学概論	2	博物館資料論	2				
		美術史通論A	2	博物館教育論	2				
		美術史通論B	2	文化人類学	2				
		西洋古典学	2	ヨーロッパ言語文化特講	2				
		ラテン語1	2	日本文化発信のための英語	2				
		ラテン語2	2						
自 由 科 目						博物館実習1	2		
						博物館実習2	1		
	小計	10	小計	32	小計	34	小計	17	93
合計		41		42		36		17	136

履修モデル（言語文化学科 フランス語圏言語文化コース（標準））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2	英語科目	2					
	情報リテラシー科目	2	フランス語特修A	1					
	英語科目	4	フランス語特修H	1					
	初修外国語	6	総合教養科目	6					
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14							
	小計	31	小計	10	小計	0	小計	0	41
専門科目	必修科目	言語文化基礎論A	2					卒業論文	10
		言語文化基礎論B	2					言語文化学研究演習1	2
		言語文化概論A	2					言語文化学研究演習2	2
		言語文化概論B	2						
	選択必修科目	フランス語圏文学史	2	ドイツ語圏言語文化論	2	フランス語圏言語文化演習A	2		
				フランス語圏言語文化基礎演習A	2	フランス語圏言語文化演習B	2		
				フランス語学概論	2	フランス語圏言語文化演習D	2		
				フランス語圏文化論	2	フランス語コミュニケーション1	2		
				ドイツ語圏文学史	2	フランス語圏言語文化論	2		
				フランス語圏言語文化基礎演習B	2	フランス語圏言語文化演習C	2		
		フランス語圏言語文化基礎演習C	2	フランス語圏言語文化特別演習	2				
		エチュード・フランコフォーンズ	2	フランス語コミュニケーション2	2				
		ドイツ語圏文化論	2						
自由選択科目	人間文化概論A	2	西洋古典学	2	インターカルチュラルスタディーズA	2	フランス語コミュニケーション3	2	
	人間行動学概論A	2	ラテン語1	2	インターカルチュラルスタディーズB	2	フランス語コミュニケーション4	2	
	文化構想学概論A	2	上方文化講座	2	美術史通論A	2			
	人間文化基礎論2	2	視覚芸術文化論	2	ヨーロッパ言語文化特講	2			
	文化構想学概論B	2	発達・学習論	2	西洋史講読C	2			
自由科目									
	小計	20	小計	28	小計	26	小計	18	92
合計		51		38		26		18	133

履修モデル（言語文化学科 フランス語圏言語文化コース（中・高 フランス語免許取得））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2	英語科目	2					
	情報リテラシー科目	2	総合教養科目	6					
	英語科目	4							
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14							
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	言語文化基礎論A	2					卒業論文	10
		言語文化基礎論B	2					言語文化学研究演習1	2
		言語文化概論A	2					言語文化学研究演習2	2
		言語文化概論B	2						
	選択必修科目	フランス語圏文学史	2	ドイツ語圏言語文化論	2	フランス語圏言語文化演習A	2		
				フランス語圏言語文化基礎演習A	2	フランス語圏言語文化演習B	2		
				フランス語学概論	2	フランス語圏言語文化演習D	2		
				フランス語圏文化論	2	フランス語圏言語文化論	2		
				英米文学史A	2	フランス語圏言語文化演習C	2		
				英米文学史C	2	フランス語圏言語文化特別演習	2		
				英語学概論A	2	英語コミュニケーションA	2		
				フランス語圏言語文化基礎演習B	2	英語コミュニケーションB	2		
				フランス語圏言語文化基礎演習C	2	英語学特講	2		
			エチュード・フランコフォーン	2	英米文化特講	2			
			英米文化概論	2	フランス語コミュニケーション1	2			
			英米文学史B	2	フランス語コミュニケーション2	2			
		英語学概論B	2						
自由選択科目	人間文化概論A	2	教育基礎論	2	インターカルチュラルスタディーズA	2	フランス語コミュニケーション3	2	
	人間行動学概論A	2	教育制度論	2	インターカルチュラルスタディーズB	2	フランス語コミュニケーション4	2	
	文化構想学概論A	2	発達・学習論	2					
	人間文化基礎論2	2							
	文化構想学概論B	2							
自由科目	教育ボランティア実習1	2	外国語科教育法(仏語)1A	2	外国語科教育法(仏語)2A	2	教育実習(4単位)	4	
	教職概論	2	外国語科教育法(仏語)1B	2	外国語科教育法(仏語)2B	2	教育実習事前事後指導(中・高)	1	
			道德教育論	2			教職実践演習(中・高)	2	
			特別支援教育論	2					
			総合的な探究の指導論	2					
			教育方法論	2					
			教育課程論	2					
			特別活動論	2					
			生徒・進路指導論	2					
			教育相談論	2					
	小計	24	小計	52	小計	32	小計	25	
合計		55		60		32		25	
								133	
								172	

履修モデル（文化構想学科 表現文化コース（標準））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2	英語科目	2					
	情報リテラシー科目	2	総合教養科目	6					
	英語科目	4							
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14							
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	文化構想学概論A	2	文化構想学基礎演習A	2			卒業論文	10
		文化構想学概論B	2	文化構想学基礎演習B	2			文化構想学研究演習1	2
							文化構想学研究演習2	2	
	選択必修科目			文化理論	2	文化理論演習	2		
			表象文化論	2	比較文化交流論	2			
			ポピュラー文化論	2	テキスト文化論	2			
			表現文化論基礎演習	2	表現文化論特殊演習1	2			
			表象文化論演習	2	比較表現論演習	2			
			ポピュラー文化論演習	2	テキスト文化論演習	2			
			舞台芸術文化論	2	表現文化論特殊演習2	2			
			文化デザイン論	2					
自由選択科目	言語文化概論A	2	社会学概論A	2	文化資源特論A	2	表現文化特論	2	
	言語文化概論B	2	国文学史A	2	アジア文化特論A	2	文化資源特論C	2	
	上方文化講座	2	ドイツ語圏言語文化論	2	民俗学	2			
			社会学概論B	2	美学概論1	2			
			美術史通論A	2	マス・コミュニケーション論A	2			
					文化資源特論B	2			
					アジア文化特論B	2			
					美術史通論B	2			
					美学概論2	2			
					表象文化特論	2			
	小計	10	小計	30	小計	34	小計	18	92
合計		41		38		34		18	131

履修モデル（文化構想学科 表現文化コース（学芸員資格取得））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	文化構想学概論A	2	文化構想学基礎演習A	2		卒業論文	10	
		文化構想学概論B	2	文化構想学基礎演習B	2		文化構想学研究演習1	2	
	選択必修科目		文化理論	2	文化理論演習	2			
			表象文化論	2	比較文化交流論	2			
			ポピュラー文化論	2	テキスト文化論	2			
			表現文化論基礎演習	2	表現文化論特殊演習1	2			
			表象文化論演習	2	地域文化資源論演習	2			
			ポピュラー文化論演習	2	比較表現論演習	2			
			舞台芸術文化論	2	テキスト文化論演習	2			
			視覚芸術文化論	2	表現文化論特殊演習2	2			
					アジア伝統文化論	2			
専門科目	自由選択科目	言語文化基礎論A	2	国文学史A	2	文化資源特論A	2	表現文化特論	2
		言語文化基礎論B	2	日本史通論A	2	文化資源特論B	2	表象文化特論	2
		言語文化概論A	2	日本史通論B	2	文化資源特論C	2		
		言語文化概論B	2	美術史通論A	2	アジア文化特論A	2		
		上方文化講座	2	国文学史C	2	アジア文化特論B	2		
			考古学通論	2	美術史通論B	2			
			美学概論1	2	マス・コミュニケーションA	2			
			美学概論2	2	民俗学	2			
			博物館概論	2	博物館資料保存論	2			
			生涯学習概論	2	博物館経営論	2			
					博物館情報・メディア論	2			
					博物館資料論	2			
					博物館教育論	2			
					博物館展示論	2			
	自由科目				博物館実習1	2			
					博物館実習2	1			
	小計	14	小計	40	小計	49	小計	18	121
合計		45		48		49		18	160

履修モデル（文化構想学科 アジア文化コース（標準））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	文化構想学概論A	2	文化構想学基礎演習A	2			卒業論文	10
		文化構想学概論B	2	文化構想学基礎演習B	2			文化構想学研究演習1	2
								文化構想学研究演習2	2
	選択必修科目			アジア文化学基礎論	2	アジア地域文化論	2	アジア共生文化論演習	2
				アジア地域文化概論	2	アジア共生文化論	2	アジア比較文化論演習	2
				アジア伝統文化概論	2	アジア比較文化論	2		
				アジア共生文化概論	2	アジア伝統文化論	2		
				アジア比較文化概論	2	アジア地域文化論演習	2		
				文化理論	2	アジア伝統文化論演習	2		
				観光文化論	2	文化理論演習	2		
			表象文化論	2					
			ポピュラー文化論	2					
			比較表現論	2					
自由選択科目			大阪の地域・文化実践演習	2	アジア文化特論A	2	国際都市社会論	2	
			史学概論	2	アジア文化特論B	2			
			社会調査法	2	文化人類学	2			
			上方文化講座	2	地域文化資源論演習	2			
					民俗学	2			
					比較文化交流論	2			
					地理学概論B	2			
					表象文化特論	2			
					地理学概論A	2			
	小計	4	小計	36	小計	32	小計	20	92
合計		35		44		32		20	131

履修モデル（文化構想学科 アジア文化コース（学芸員資格取得））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	文化構想学概論A	2	文化構想学基礎演習A	2		卒業論文	10	
		文化構想学概論B	2	文化構想学基礎演習B	2		文化構想学研究演習1	2	
	選択必修科目		アジア文化学基礎論	2	アジア地域文化論	2	アジア共生文化論演習	2	
			アジア地域文化概論	2	アジア共生文化論	2	アジア比較文化論演習	2	
			アジア伝統文化概論	2	アジア比較文化論	2			
			アジア共生文化概論	2	アジア伝統文化論	2			
			アジア比較文化概論	2	アジア地域文化論演習	2			
			文化理論	2	アジア伝統文化論演習	2			
			観光文化論	2	文化理論演習	2			
			表象文化論	2					
			ポピュラー文化論	2					
			比較文化交流論	2					
			文化資源基礎論	2					
			舞台芸術文化論	2					
	自由選択科目	上方文化講座	2	生涯学習論	2	博物館経営論	2	アジア文化特論A	2
			博物館概論	2	博物館資料論	2	アジア文化特論B	2	
			大阪の地域・文化実践演習	2	博物館資料保存論	2			
			社会調査法	2	博物館展示論	2			
			民俗学	2	博物館教育論	2			
			美術史通論A	2	博物館情報・メディア論	2			
			美術史通論B	2	文化人類学	2			
					広報情報論A	2			
					広報情報論B	2			
					日本文化発信のための英語	2			
	自由科目				博物館実習1	2			
						博物館実習2	1		
		小計	6	小計	42	小計	37	小計	22
合計			37		50		37		22
									146

履修モデル（文化構想学科 アジア文化コース（アジア研究者志望タイプ））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	文化構想学概論A	2	文化構想学基礎演習A	2		卒業論文	10	
		文化構想学概論B	2	文化構想学基礎演習B	2		文化構想学研究演習1	2	
						文化構想学研究演習2	2		
	選択必修科目			アジア文化学基礎論	2	アジア地域文化論	2	アジア共生文化論演習	2
			アジア地域文化概論	2	アジア共生文化論	2	アジア比較文化論演習	2	
			アジア共生文化概論	2	アジア比較文化論	2			
			アジア比較文化概論	2	アジア伝統文化論	2			
			アジア伝統文化概論	2	アジア地域文化論演習	2			
			文化理論	2	アジア伝統文化論演習	2			
			テキスト文化論	2	比較文化交流論	2			
			表象文化論	2					
			舞台芸術文化論	2					
自由選択科目			中国語基礎演習1	2	アジア文化特論A	2	国際都市社会論	2	
			中国語基礎演習2	2	アジア文化特論B	2			
			中国語コミュニケーション1	2	文化人類学	2			
			中国語コミュニケーション2	2	中国文学演習1	2			
			東洋史通論	2	中国語中国文学特講A	2			
			東洋史基礎講読	2	中国文化学演習1	2			
			美術史通論A	2	中国古典語1	2			
			上方文化講座	2	中国古典語2	2			
	小計	4	小計	38	小計	30	小計	20	92
合計		35		46		30		20	131

履修モデル（文化構想学科 文化資源コース（標準））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	文化構想学概論A	2	文化構想学基礎演習A	2			卒業論文	10
		文化構想学概論B	2	文化構想学基礎演習B	2			文化構想学研究演習1	2
							文化構想学研究演習2	2	
	選択必修科目			視覚文化資源論演習	2	音楽文化資源論演習	2		
			地域文化資源論演習	2	舞台文化資源論演習	2			
			文化資源基礎論	2	表象文化論	2			
			観光文化論	2	音楽文化資源論実習	2			
			文化理論	2	舞台文化資源論実習	2			
			文化デザイン論	2	視覚文化資源論実習	2			
			舞台芸術文化論	2	地域文化資源論実習	2			
			視覚芸術文化論	2					
自由選択科目	上方文化講座	2	文化資源特論A	2	文化資源特論B	2			
	人間行動学概論A	2	社会学研究法	2	文化資源特論C	2			
	人間行動学概論B	2	社会調査法	2	文化資源論特別演習	2			
			大阪の地域・文化実践演習	2	世界史通論	2			
			博物館展示論	2	広報情報論B	2			
			広報情報論A	2	社会学質的研究法	2			
					地図学	2			
					大阪の歴史演習	2			
					美術史通論B	2			
					日本文化発信のための英語	2			
					総合文化実践演習	2			
	小計	10	小計	32	小計	36	小計	14	92
合計		41		40		36		14	131

履修モデル（文化構想学科 文化資源コース（公務員志望））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	文化構想学概論A	2	文化構想学基礎演習A	2			卒業論文	10
		文化構想学概論B	2	文化構想学基礎演習B	2			文化構想学研究演習1	2
							文化構想学研究演習2	2	
	選択必修科目			視覚文化資源論演習	2	音楽文化資源論演習	2		
			地域文化資源論演習	2	表象文化論	2			
			文化資源基礎論	2	音楽文化資源論実習	2			
			観光文化論	2	アジア地域文化論演習	2			
			視覚文化資源論実習	2	アジア共生文化論演習	2			
			文化デザイン論	2	アジア比較文化論	2			
			アジア地域文化概論	2	地域文化資源論実習	2			
			アジア共生文化概論	2					
自由選択科目	上方文化講座	2	文化資源特論A	2	文化資源特論B	2			
	人間行動学概論A	2	社会学研究法	2	文化資源特論C	2			
	人間行動学概論B	2	社会調査法	2	文化資源論特別演習	2			
			社会・集団・家族心理学特論	2	社会学データ解析法	2			
			大阪の地域・文化実践演習	2	社会学質的研究法	2			
					教育行政学	2			
					地理情報学	2			
					倫理学概論1	2			
					倫理学概論2	2			
					博物館経営論	2			
					国際都市社会論	2			
				広報情報論B	2				
	小計	10	小計	30	小計	38	小計	14	92
合計		41		38		38		14	131

履修モデル（文化構想学科 文化資源コース（学芸員資格取得））

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	英語科目	4	英語科目	2					
	初修外国語	6							
	健康スポーツ科学	3							
	総合教養科目	14	総合教養科目	6					
	小計	31	小計	8	小計	0	小計	0	39
専門科目	必修科目	文化構想学概論A	2	文化構想学基礎演習A	2			卒業論文	10
		文化構想学概論B	2	文化構想学基礎演習B	2			文化構想学研究演習1	2
							文化構想学研究演習2	2	
	選択必修科目			視覚文化資源論演習	2	音楽文化資源論演習	2		
			地域文化資源論演習	2	舞台文化資源論演習	2			
			文化資源基礎論	2	表象文化論	2			
			観光文化論	2	ポピュラー文化論	2			
			視覚文化資源論実習	2	音楽文化資源論実習	2			
			地域文化資源論実習	2	舞台文化資源論実習	2			
			視覚芸術文化論	2					
			文化デザイン論	2					
			舞台芸術文化論	2					
自由選択科目			文化資源特論A	2	文化資源特論B	2			
			社会調査法	2	文化資源特論C	2			
			地理学概論A	2	文化資源論特別演習	2			
			世界史通論	2	考古学通論	2			
			民俗学	2	文化人類学	2			
			大阪の歴史演習	2	博物館教育論	2			
			博物館概論	2	博物館情報メディア論	2			
			生涯学習概論	2	博物館資料論	2			
					博物館資料保存論	2			
					博物館展示論	2			
					博物館経営論	2			
					博物館展示論	2			
自由科目					博物館実習 1	2			
					博物館実習 2	1			
	小計	4	小計	38	小計	39	小計	14	95
合計		35		46		39		14	134

大阪府立中学校一覧

No.	学校名	所在地	受け入れ可能人数
1	大阪府立富田林中学校	富田林市谷川町4-30	2名

大阪府立高校一覧

No.	学校名	所在地	受け入れ可能人数
1	大阪府立芥川高等学校	高槻市浦堂1-12-1	2名
2	大阪府立旭高等学校	大阪市旭区高殿5-6-41	2名
3	大阪府立芦間高等学校	守口市外島町1-43	2名
4	大阪府立阿武野高等学校	高槻市氷室町3-38-1	2名
5	大阪府立阿倍野高等学校	大阪市阿倍野区阪南町1-30-34	2名
6	大阪府立生野高等学校	松原市新堂1-552	2名
7	大阪府立池田高等学校	池田市旭丘2-2-1	2名
8	大阪府立大正白稜高等学校	大阪市大正区泉尾3-19-50	2名
9	大阪府立和泉高等学校	岸和田市土生町1-2-1	2名
10	大阪府立泉大津高等学校	泉大津市北豊中町1-1-1	2名
11	大阪府立和泉総合高等学校	和泉市富秋町1-14-4	2名
12	大阪府立泉鳥取高等学校	阪南市緑ヶ丘1-1-10	2名
13	大阪府立市岡高等学校	大阪市港区市岡元町2-12-12	2名
14	大阪府立茨木高等学校	茨木市新庄町12-1	2名
15	大阪府立茨木工科高等学校	茨木市春日5-6-41	2名
16	大阪府立茨木西高等学校	茨木市紫明園10-68	2名
17	大阪府立今宮高等学校	大阪市浪速区戎本町2-7-39	2名
18	大阪府立今宮工科高等学校	大阪市西成区出城1-1-6	2名
19	大阪府立園芸高等学校	池田市八王寺2-5-1	2名
20	大阪府立大冠高等学校	高槻市大塚町4-50-1	2名
21	大阪府教育センター附属高等学校	大阪市住吉区荻田4-1-72	2名
22	大阪府立大塚高等学校	松原市西大塚2-1005	2名
23	大阪府立大手前高等学校	大阪府中央区大手前2-1-11	2名
24	大阪府立鳳高等学校	堺市西区原田150	2名
25	大阪府立貝塚高等学校	貝塚市壘中1-1-1	2名
26	大阪府立貝塚南高等学校	貝塚市橋本620	2名
27	大阪府立懐風館高等学校	羽曳野市大黒776	2名
28	大阪府立春日丘高等学校	茨木市春日2-1-2	2名
29	大阪府立交野高等学校	交野市寺南野10-1	2名
30	大阪府立門真なみはや高等学校	門真市島頭4-9-1	2名
31	大阪府立門真西高等学校	門真市柳田町29-1	2名
32	大阪府立金岡高等学校	堺市北区金岡町2651	2名
33	大阪府立河南高等学校	富田林市錦ヶ丘町1-15	2名
34	大阪府立かわち野高等学校	東大阪市新庄4-11-95	2名
35	大阪府立岸和田高等学校	岸和田市岸城町10-1	2名
36	大阪府立北かわち轟が丘高等学校	寝屋川市寝屋北町1-1	2名
37	大阪府立北千里高等学校	吹田市藤白台5-6-1	2名
38	大阪府立北野高等学校	大阪市淀川区新北野2-5-13	2名
39	大阪府立淀川清流高等学校	大阪市東淀川区豊里2-11-35	2名
40	大阪府立柴島高等学校	大阪市東淀川区柴島1-7-106	2名
41	大阪府立久米田高等学校	岸和田市額原町1100	2名
42	大阪府立高津高等学校	大阪市天王寺区餌差町10-47	2名
43	大阪府立港南造形高等学校	大阪市住之江区南港東2-5-72	2名
44	大阪府立香里丘高等学校	枚方市東中振2-18-1	2名
45	大阪府立金剛高等学校	富田林市藤沢台2-1-1	2名
46	大阪府立堺上高等学校	堺市西区上61	2名
47	大阪府立堺工科高等学校	堺市堺区大仙中町12-1	2名
48	大阪府立堺西高等学校	堺市南区桃山台4-16	2名
49	大阪府立堺東高等学校	堺市南区晴美台1-1-2	2名
50	大阪府立桜塚高等学校	豊中市中桜塚4-1-1	2名
51	大阪府立佐野高等学校	泉佐野市市場東2-398	2名
52	大阪府立佐野工科高等学校	泉佐野市高松東1-3-50	2名
53	大阪府立狭山高等学校	大阪狭山市半田4-1510	2名
54	大阪府立四條畷高等学校	四條畷市雁屋北町1-1	2名
55	大阪府立信太高等学校	和泉市葛の葉町3-6-8	2名
56	大阪府立渋谷高等学校	池田市畑4-1-1	2名
57	大阪府立島本高等学校	三島郡島本町桜井台15-1	2名
58	大阪府立清水谷高等学校	大阪市天王寺区清水谷町2-44	2名
59	大阪府立城東工科高等学校	東大阪市西鴻池町2-5-33	2名
60	大阪府立吹田高等学校	吹田市原町4-24-14	2名
61	大阪府立吹田東高等学校	吹田市青葉丘南16-1	2名
62	大阪府立住吉高等学校	大阪市阿倍野区北畠2-4-1	2名

63	大阪府立成城高等学校	大阪市城東区諏訪3-11-41	2名
64	大阪府立成美高等学校	堺市南城区山台4-1-1	2名
65	大阪府立摂津高等学校	摂津市学園町1-5-1	2名
66	大阪府立泉北高等学校	堺市南区若松台3-2-2	2名
67	大阪府立泉陽高等学校	堺市堺区重之町3-2-1	2名
68	大阪府立千里高等学校	吹田市高野台2-17-1	2名
69	大阪府立千里青雲高等学校	豊中市新千里南町1-5-1	2名
70	大阪府立高石高等学校	高石市千代田6-12-1	2名
71	大阪府立高槻北高等学校	高槻市別所本町36-3	2名
72	大阪府立槻の木高等学校	高槻市城内町2-13	2名
73	大阪府立豊島高等学校	豊中市北緑丘3-2-1	2名
74	大阪府立天王寺高等学校	大阪市阿倍野区三明町2-4-23	2名
75	大阪府立刀根山高等学校	豊中市刀根山6-9-1	2名
76	大阪府立登美丘高等学校	堺市東区西野51	2名
77	大阪府立豊中高等学校	豊中市上野西2-5-12	2名
78	大阪府立富田林高等学校	富田林市谷川町4-30	2名
79	大阪府立長尾高等学校	枚方市長尾家具町5-1-1	2名
80	大阪府立長野高等学校	河内長野市原町2-1-1	2名
81	大阪府立長吉高等学校	大阪市平野区長吉長原西3-11-33	2名
82	大阪府立西成高等学校	大阪市西成区津守1-13-10	2名
83	大阪府立西寝屋川高等学校	寝屋川市葛原2-19-1	2名
84	大阪府立西野田工科高等学校	大阪市福島区大關2-17-62	2名
85	大阪府立寝屋川高等学校	寝屋川市本町15-64	2名
86	大阪府立農芸高等学校	堺市美原区北余部595-1	2名
87	大阪府立野崎高等学校	大東市寺川1-2-1	2名
88	大阪府立豊中高等学校能勢分校	豊能郡能勢町上田尻580	2名
89	大阪府立伯太高等学校	和泉市伯太町2-4-11	2名
90	大阪府立花園高等学校	東大阪市花園東町3-1-25	2名
91	大阪府立阪南高等学校	大阪市住吉区庭井2-18-81	2名
92	大阪府立東住吉高等学校	大阪市平野区平野西2-3-77	2名
93	大阪府立東住吉総合高等学校	大阪市平野区喜連西2-11-66	2名
94	大阪府立東百舌鳥高等学校	堺市中区土塔町2377-5	2名
95	大阪府立東淀川高等学校	大阪市淀川区宮原4-4-5	2名
96	大阪府立日根野高等学校	泉佐野市日根野2372-1	2名
97	大阪府立枚岡樟風高等学校	東大阪市鷹殿町18-1	2名
98	大阪府立枚方高等学校	枚方市大垣内町3-16-1	2名
99	大阪府立枚方津田高等学校	枚方市津田北町2-50-1	2名
100	大阪府立枚方なぎさ高等学校	枚方市磯島元町20-1	2名
101	大阪府立平野高等学校	大阪市平野区長吉川辺4-2-11	2名
102	大阪府立福井高等学校	茨木市西福井3-33-11	2名
103	大阪府立福泉高等学校	堺市西区太平寺323	2名
104	大阪府立藤井寺高等学校	藤井寺市津堂3-516	2名
105	大阪府立藤井寺工科高等学校	藤井寺市御舟町10-1	2名
106	大阪府立布施高等学校	東大阪市下小阪3-14-21	2名
107	大阪府立布施北高等学校	東大阪市荒本西1-2-72	2名
108	大阪府立布施工科高等学校	東大阪市宝持3-7-5	2名
109	大阪府立北摂つばさ高等学校	茨木市玉島台2-15	2名
110	大阪府立牧野高等学校	枚方市南船橋1-11-1	2名
111	大阪府立茨田高等学校	大阪市鶴見区安田1-5-49	2名
112	大阪府立松原高等学校	松原市三宅東3-4-1	2名
113	大阪府立三国丘高等学校	堺市堺区南三国ヶ丘町2-2-36	2名
114	大阪府立岬高等学校	泉南郡岬町淡輪3246	2名
115	大阪府立三島高等学校	高槻市今城町27-1	2名
116	大阪府立みどり清朋高等学校	東大阪市池島町6-3-9	2名
117	大阪府立港高等学校	大阪市港区波除2-3-1	2名
118	大阪府立箕面高等学校	箕面市牧落4-8-66	2名
119	大阪府立箕面東高等学校	箕面市粟生外院5-4-63	2名
120	大阪府立美原高等学校	堺市美原区平尾234-1	2名
121	大阪府立守口東高等学校	守口市八雲中町2-1-32	2名
122	大阪府立八尾高等学校	八尾市高町1-74	2名
123	大阪府立八尾北高等学校	八尾市萱振町7-42	2名
124	大阪府立八尾翠翔高等学校	八尾市神宮寺3-107	2名
125	大阪府立山田高等学校	吹田市山田東3-28-1	2名
126	大阪府立山本高等学校	八尾市山本町北1-1-44	2名

127	大阪府立夕陽丘高等学校	大阪市天王寺区北山町10-10	2名
128	大阪府立淀川工科高等学校	大阪市旭区太子橋3-1-32	2名
129	大阪府立緑風冠高等学校	大東市深野4-12-1	2名
130	大阪府立りんくう翔南高等学校	泉南市樽井2-35-54	2名
131	大阪府立勝山高等学校	大阪市生野区巽東3-10-75	2名
132	大阪府立わかば高等学校	大阪市生野区巽東3-10-75	2名
133	大阪府立桃谷高等学校	大阪市生野区勝山南3-1-4	2名
134	大阪府立柏原東高等学校	柏原市高井田1015	2名
135	大阪府立長野北高等学校	河内長野市木戸東町3-1	2名

大阪市立小学校一覧

No.	学校名	所在地	受け入れ可能人数
1	滝川小学校	大阪市北区天満1-24-15	1名
2	堀川小学校	大阪市北区東天満2-10-7	1名
3	西天満小学校	大阪市北区西天満3-12-21	1名
4	菅北小学校	大阪市北区菅栄町9-5	1名
5	豊崎東小学校	大阪市北区長柄中2-3-30	1名
6	豊崎本庄小学校	大阪市北区本庄西2-1-16	1名
7	中津小学校	大阪市北区中津3-34-18	1名
8	大淀小学校	大阪市北区大淀中4-10-33	1名
9	豊仁小学校	大阪市北区長柄西2-6-20	1名
10	豊崎小学校	大阪市北区豊崎4-5-9	1名
11	扇町小学校	大阪市北区扇町2-7-24	1名
12	弘済小学校	吹田市古江台6-2-2	1名
13	弘済小学校分校	高槻市奈佐原956	1名
14	桜宮小学校	大阪市都島区東野田町1-10-19	1名
15	中野小学校	大阪市都島区中野町3-10-5	1名
16	高倉小学校	大阪市都島区高倉町3-3-10	1名
17	淀川小学校	大阪市都島区毛馬町3-5-39	1名
18	都島小学校	大阪市都島区都島本通3-10-3	1名
19	内代小学校	大阪市都島区内代町3-4-6	1名
20	東都島小学校	大阪市都島区都島本通4-24-20	1名
21	大東小学校	大阪市都島区毛馬町2-11-111	1名
22	友渕小学校	大阪市都島区友渕町1-3-123	1名
23	友渕小学校分校	大阪市都島区友渕町1-3-187	1名
24	福島小学校	大阪市福島区福島4-5-6	1名
25	玉川小学校	大阪市福島区玉川2-13-16	1名
26	野田小学校	大阪市福島区野田5-13-22	1名
27	吉野小学校	大阪市福島区吉野3-10-5	1名
28	大開小学校	大阪市福島区大開2-10-28	1名
29	鷺洲小学校	大阪市福島区鷺洲5-6-8	1名
30	海老江東小学校	大阪市福島区海老江1-6-19	1名
31	海老江西小学校	大阪市福島区海老江8-1-10	1名
32	上福島小学校	大阪市福島区福島7-4-33	1名
33	西九条小学校	大阪市此花区西九条4-3-41	1名
34	四貫島小学校	大阪市此花区四貫島2-16-29	1名
35	島屋小学校	大阪市此花区島屋2-9-36	1名
36	伝法小学校	大阪市此花区伝法3-13-10	1名
37	梅香小学校	大阪市此花区梅香3-17-29	1名
38	高見小学校	大阪市此花区高見1-3-35	1名
39	酉島小学校	大阪市此花区酉島2-5-12	1名
40	春日出小学校	大阪市此花区春日出中1-13-23	1名
41	玉造小学校	大阪市中央区玉造2-3-43	1名
42	南大江小学校	大阪市中央区農人橋1-3-3	1名
43	中大江小学校	大阪市中央区糸屋町2-3-14	1名
44	高津小学校	大阪市中央区高津3-4-21	1名
45	南小学校	大阪市中央区東心斎橋1-14-29	1名
46	開平小学校	大阪市中央区今橋1-5-7	1名
47	中央小学校	大阪市中央区瓦屋町2-8-4	1名
48	西船場小学校	大阪市西区江戸堀1-21-28	1名
49	日吉小学校	大阪市西区南堀江4-9-19	1名
50	九条南小学校	大阪市西区九条南2-13-17	1名
51	九条東小学校	大阪市西区九条2-6-2	1名
52	九条北小学校	大阪市西区九条南4-7-38	1名
53	本田小学校	大阪市西区川口1-5-19	1名
54	堀江小学校	大阪市西区北堀江3-2-16	1名
55	明治小学校	大阪市西区阿波座2-3-35	1名
56	明治小学校(分校)	大阪市西区立売堀4-10-18	1名
57	市岡小学校	大阪市港区市岡3-2-24	1名
58	磯路小学校	大阪市港区磯路3-7-7	1名
59	三先小学校	大阪市港区三先2-6-32	1名

60	田中小学校	大阪市港区田中2-10-34	1名
61	八幡屋小学校	大阪市港区八幡屋3-3-5	1名
62	波除小学校	大阪市港区波除3-6-8	1名
63	築港小学校	大阪市港区築港1-10-38	1名
64	南市岡小学校	大阪市港区南市岡2-6-35	1名
65	港晴小学校	大阪市港区港晴1-3-12	1名
66	弁天小学校	大阪市港区弁天2-9-35	1名
67	池島小学校	大阪市港区池島2-5-47	1名
68	三軒家西小学校	大阪市大正区三軒家西1-20-26	1名
69	泉尾東小学校	大阪市大正区千島1-16-16	1名
70	中泉尾小学校	大阪市大正区泉尾3-23-34	1名
71	北恩加島小学校	大阪市大正区泉尾5-17-31	1名
72	南恩加島小学校	大阪市大正区南恩加島3-6-11	1名
73	鶴町小学校	大阪市大正区鶴町2-6-24	1名
74	泉尾北小学校	大阪市大正区泉尾2-21-24	1名
75	平尾小学校	大阪市大正区平尾2-21-28	1名
76	三軒家東小学校	大阪市大正区三軒家東2-12-59	1名
77	小林小学校	大阪市大正区小林東2-4-45	1名
78	真田山小学校	大阪市天王寺区玉造本町14-41	1名
79	味原小学校	大阪市天王寺区味原町8-19	1名
80	桃陽小学校	大阪市天王寺区堂ヶ芝1-2-23	1名
81	五条小学校	大阪市天王寺区小宮町9-28	1名
82	聖和小学校	大阪市天王寺区寺田町1-6-37	1名
83	大江小学校	大阪市天王寺区四天王寺1-9-18	1名
84	生魂小学校	大阪市天王寺区上汐4-1-25	1名
85	天王寺小学校	大阪市天王寺区大道1-4-49	1名
86	栄小学校	大阪市浪速区浪速東1-1-61	1名
87	難波元町小学校	大阪市浪速区元町1-5-30	1名
88	大国小学校	大阪市浪速区大国1-9-3	1名
89	浪速小学校	大阪市浪速区日本橋西1-7-6	1名
90	敷津小学校	大阪市浪速区敷津東3-9-32	1名
91	塩草立葉小学校	大阪市浪速区塩草1-4-31	1名
92	柏里小学校	大阪市西淀川区柏里2-13-33	1名
93	野里小学校	大阪市西淀川区野里2-21-13	1名
94	姫里小学校	大阪市西淀川区姫里2-8-24	1名
95	姫島小学校	大阪市西淀川区姫島1-10-4	1名
96	福小学校	大阪市西淀川区福町2-5-23	1名
97	大和田小学校	大阪市西淀川区大和田4-3-24	1名
98	川北小学校	大阪市西淀川区中島1-11-20	1名
99	佃小学校	大阪市西淀川区佃1-21-12	1名
100	香籬小学校	大阪市西淀川区御幣島6-5-25	1名
101	歌島小学校	大阪市西淀川区歌島2-5-18	1名
102	出来島小学校	大阪市西淀川区出来島2-2-24	1名
103	佃西小学校	大阪市西淀川区佃2-15-30	1名
104	御幣島小学校	大阪市西淀川区御幣島3-5-5	1名
105	神津小学校	大阪市淀川区十三元今里2-3-12	1名
106	田川小学校	大阪市淀川区田川2-9-37	1名
107	加島小学校	大阪市淀川区加島1-60-28	1名
108	三津屋小学校	大阪市淀川区三津屋中1-4-14	1名
109	新高小学校	大阪市淀川区新高1-15-53	1名
110	野中小学校	大阪市淀川区野中北1-11-26	1名
111	十三小学校	大阪市淀川区十三東4-3-6	1名
112	木川小学校	大阪市淀川区木川東3-7-32	1名
113	三国小学校	大阪市淀川区三国本町3-9-18	1名
114	北中島小学校	大阪市淀川区宮原5-3-4	1名
115	西中島小学校	大阪市淀川区西中島7-14-25	1名
116	塚本小学校	大阪市淀川区塚本3-5-6	1名
117	木川南小学校	大阪市淀川区木川東1-2-36	1名
118	東三国小学校	大阪市淀川区東三国6-3-24	1名
119	西三国小学校	大阪市淀川区西三国1-21-28	1名
120	新東三国小学校	大阪市淀川区東三国3-9-10	1名

121	宮原小学校	大阪市淀川区三国本町1-16-44	1名
122	東淡路小学校	大阪市東淀川区東淡路3-3-32	1名
123	西淡路小学校	大阪市東淀川区西淡路5-5-32	1名
124	菅原小学校	大阪市東淀川区菅原6-3-25	1名
125	新庄小学校	大阪市東淀川区上新庄2-20-5	1名
126	大隅東小学校	大阪市東淀川区瑞光5-8-19	1名
127	豊里小学校	大阪市東淀川区豊里5-14-60	1名
128	啓発小学校	大阪市東淀川区東中島4-8-38	1名
129	小松小学校	大阪市東淀川区小松3-18-15	1名
130	下新庄小学校	大阪市東淀川区下新庄5-2-9	1名
131	井高野小学校	大阪市東淀川区井高野1-28-17	1名
132	大桐小学校	大阪市東淀川区大桐4-1-15	1名
133	豊新小学校	大阪市東淀川区豊新4-17-26	1名
134	東井高野小学校	大阪市東淀川区井高野2-8-28	1名
135	大隅西小学校	大阪市東淀川区大隅2-3-18	1名
136	豊里南小学校	大阪市東淀川区豊里5-12-41	1名
137	大道南小学校	大阪市東淀川区大道南1-23-6	1名
138	東小橋小学校	大阪市東成区東小橋3-10-37	1名
139	大成小学校	大阪市東成区大今里西3-2-62	1名
140	中道小学校	大阪市東成区玉津1-7-39	1名
141	北中道小学校	大阪市東成区中道2-9-20	1名
142	中本小学校	大阪市東成区中本4-2-32	1名
143	東中本小学校	大阪市東成区東中本2-9-3	1名
144	今里小学校	大阪市東成区大今里1-35-29	1名
145	片江小学校	大阪市東成区大今里南2-13-2	1名
146	神路小学校	大阪市東成区大今里4-6-19	1名
147	深江小学校	大阪市東成区深江南1-4-6	1名
148	宝栄小学校	大阪市東成区神路1-15-48	1名
149	北鶴橋小学校	大阪市生野区鶴橋3-4-50	1名
150	御幸森小学校	大阪市生野区桃谷5-5-37	1名
151	鶴橋小学校	大阪市生野区桃谷2-20-32	1名
152	東桃谷小学校	大阪市生野区勝山北3-7-21	1名
153	勝山小学校	大阪市生野区勝山南1-3-5	1名
154	林寺小学校	大阪市生野区林寺2-14-3	1名
155	生野小学校	大阪市生野区舍利寺3-1-39	1名
156	中川小学校	大阪市生野区中川3-4-3	1名
157	東中川小学校	大阪市生野区新今里7-14-37	1名
158	小路小学校	大阪市生野区小路2-24-40	1名
159	東小路小学校	大阪市生野区小路東3-8-15	1名
160	田島小学校	大阪市生野区田島3-7-38	1名
161	舍利寺小学校	大阪市生野区勝山南4-15-25	1名
162	生野南小学校	大阪市生野区林寺6-6-7	1名
163	巽小学校	大阪市生野区巽中3-12-5	1名
164	北巽小学校	大阪市生野区巽北1-30-29	1名
165	西生野小学校	大阪市生野区生野西3-5-7	1名
166	巽南小学校	大阪市生野区巽南2-10-7	1名
167	巽東小学校	大阪市生野区巽東3-8-13	1名
168	清水小学校	大阪市旭区清水5-1-12	1名
169	古市小学校	大阪市旭区森小路2-10-35	1名
170	大宮小学校	大阪市旭区大宮4-9-16	1名
171	高殿小学校	大阪市旭区高殿6-9-10	1名
172	大宮西小学校	大阪市旭区中宮1-8-14	1名
173	生江小学校	大阪市旭区生江1-10-21	1名
174	城北小学校	大阪市旭区赤川3-13-47	1名
175	新森小路小学校	大阪市旭区新森6-3-13	1名
176	太子橋小学校	大阪市旭区太子橋1-12-15	1名
177	高殿南小学校	大阪市旭区高殿3-10-30	1名
178	榎並小学校	大阪市城東区野江4-1-28	1名
179	関目小学校	大阪市城東区関目6-5-5	1名
180	鯉江小学校	大阪市城東区今福西3-9-27	1名
181	今福小学校	大阪市城東区今福南2-1-53	1名

182	聖賢小学校	大阪市城東区新喜多2-4-35	1名
183	鷗野小学校	大阪市城東区鷗野西4-11-48	1名
184	中浜小学校	大阪市城東区中浜2-12-35	1名
185	城東小学校	大阪市城東区鷗野東3-16-41	1名
186	諏訪小学校	大阪市城東区永田2-15-5	1名
187	成育小学校	大阪市城東区成育1-5-19	1名
188	すみれ小学校	大阪市城東区古市2-6-38	1名
189	東中浜小学校	大阪市城東区東中浜5-4-5	1名
190	放出小学校	大阪市城東区放出西2-2-18	1名
191	関目東小学校	大阪市城東区関目4-12-15	1名
192	森之宮小学校	大阪市城東区森之宮1-6-64	1名
193	鯉江東小学校	大阪市城東区今福東1-3-26	1名
194	榎本小学校	大阪市鶴見区今津北1-5-35	1名
195	茨田南小学校	大阪市鶴見区諸口1-3-71	1名
196	茨田北小学校	大阪市鶴見区浜3-8-66	1名
197	鶴見小学校	大阪市鶴見区鶴見4-14-10	1名
198	今津小学校	大阪市鶴見区今津中4-1-48	1名
199	茨田東小学校	大阪市鶴見区茨田大宮3-7-61	1名
200	茨田西小学校	大阪市鶴見区横堤5-13-61	1名
201	横堤小学校	大阪市鶴見区横堤1-11-83	1名
202	みどり小学校	大阪市鶴見区緑2-4-45	1名
203	鶴見南小学校	大阪市鶴見区鶴見2-17-22	1名
204	茨田小学校	大阪市鶴見区安田2-1-8	1名
205	烧野小学校	大阪市鶴見区烧野1-3-44	1名
206	高松小学校	大阪市阿倍野区天王寺町北3-17-19	1名
207	常盤小学校	大阪市阿倍野区松崎町3-11-12	1名
208	常盤小学校分校	大阪市阿倍野区松崎町3-2-9	1名
209	金塚小学校	大阪市阿倍野区旭町3-4-46	1名
210	丸山小学校	大阪市阿倍野区丸山通1-4-43	1名
211	晴明丘小学校	大阪市阿倍野区晴明通10-34	1名
212	阿倍野小学校	大阪市阿倍野区阪南町2-17-21	1名
213	阪南小学校	大阪市阿倍野区阪南町5-7-40	1名
214	長池小学校	大阪市阿倍野区长池町20-26	1名
215	苗代小学校	大阪市阿倍野区阪南町1-26-30	1名
216	晴明丘南小学校	大阪市阿倍野区帝塚山1-23-8	1名
217	粉浜小学校	大阪市住之江区粉浜2-6-6	1名
218	安立小学校	大阪市住之江区住之江1-4-29	1名
219	敷津浦小学校	大阪市住之江区北島2-9-22	1名
220	加賀屋小学校	大阪市住之江区北加賀屋2-5-26	1名
221	住吉川小学校	大阪市住之江区西加賀屋4-1-4	1名
222	北粉浜小学校	大阪市住之江区粉浜1-5-48	1名
223	住之江小学校	大阪市住之江区御崎4-6-43	1名
224	平林小学校	大阪市住之江区平林南2-6-48	1名
225	加賀屋東小学校	大阪市住之江区東加賀屋1-6-25	1名
226	新北島小学校	大阪市住之江区新北島6-2-56	1名
227	南港光小学校	大阪市住之江区南港中4-4-22	1名
228	南港桜小学校	大阪市住之江区南港中5-2-48	1名
229	南港みなみ小学校	大阪市住之江区南港中3-5-14	1名
230	清江小学校	大阪市住之江区御崎5-7-18	1名
231	東粉浜小学校	大阪市住吉区東粉浜2-3-26	1名
232	住吉小学校	大阪市住吉区帝塚山西4-1-35	1名
233	長居小学校	大阪市住吉区长居東3-3-40	1名
234	依羅小学校	大阪市住吉区我孫子4-11-48	1名
235	墨江小学校	大阪市住吉区墨江2-3-46	1名
236	遠里小野小学校	大阪市住吉区遠里小野6-6-27	1名
237	清水丘小学校	大阪市住吉区清水丘2-9-41	1名
238	南住吉小学校	大阪市住吉区南住吉3-5-1	1名
239	大領小学校	大阪市住吉区大領3-3-5	1名
240	荻田小学校	大阪市住吉区荻田3-5-34	1名
241	山之内小学校	大阪市住吉区山之内2-17-39	1名
242	荻田南小学校	大阪市住吉区荻田10-1-35	1名

243	苅田北小学校	大阪市住吉区苅田1-11-39	1名
244	大空小学校	大阪市住吉区我孫子西1-6-12	1名
245	桑津小学校	大阪市東住吉区桑津5-13-13	1名
246	北田辺小学校	大阪市東住吉区北田辺3-11-14	1名
247	田辺小学校	大阪市東住吉区田辺2-3-34	1名
248	東田辺小学校	大阪市東住吉区東田辺2-14-6	1名
249	南田辺小学校	大阪市東住吉区南田辺4-3-4	1名
250	南百済小学校	大阪市東住吉区湯里1-15-40	1名
251	育和小学校	大阪市東住吉区杭全4-10-12	1名
252	鷹合小学校	大阪市東住吉区鷹合3-12-38	1名
253	今川小学校	大阪市東住吉区今川4-24-4	1名
254	矢田小学校	大阪市東住吉区矢田3-4-27	1名
255	矢田東小学校	大阪市東住吉区住道矢田2-7-43	1名
256	矢田西小学校	大阪市東住吉区公園南矢田2-15-43	1名
257	矢田北小学校	大阪市東住吉区照ヶ丘矢田2-1-55	1名
258	湯里小学校	大阪市東住吉区湯里6-8-3	1名
259	長谷川小学校	柏原市円明町3-15	1名
260	喜連小学校	大阪市平野区喜連7-6-4	1名
261	平野西小学校	大阪市平野区背戸口4-1-31	1名
262	平野小学校	大阪市平野区平野宮町1-9-29	1名
263	長吉小学校	大阪市平野区長吉長原2-6-55	1名
264	瓜破小学校	大阪市平野区瓜破5-3-11	1名
265	加美小学校	大阪市平野区加美正覚寺3-13-35	1名
266	加美南部小学校	大阪市平野区加美南1-9-17	1名
267	平野南小学校	大阪市平野区平野南2-3-8	1名
268	長吉東小学校	大阪市平野区長吉出戸8-8-41	1名
269	喜連西小学校	大阪市平野区喜連西3-17-61	1名
270	長吉南小学校	大阪市平野区長吉六反3-2-17	1名
271	瓜破北小学校	大阪市平野区瓜破1-8-33	1名
272	長原小学校	大阪市平野区長吉長原東3-10-9	1名
273	喜連東小学校	大阪市平野区喜連東2-2-17	1名
274	瓜破東小学校	大阪市平野区瓜破東2-5-78	1名
275	加美北小学校	大阪市平野区加美北7-4-10	1名
276	長吉出戸小学校	大阪市平野区長吉出戸3-1-43	1名
277	瓜破西小学校	大阪市平野区瓜破西2-1-43	1名
278	喜連北小学校	大阪市平野区喜連1-7-4	1名
279	加美東小学校	大阪市平野区加美東5-9-25	1名
280	川辺小学校	大阪市平野区長吉川辺1-4-9	1名
281	新平野西小学校	大阪市平野区背戸口1-5-22	1名
282	天下茶屋小学校	大阪市西成区聖天下1-11-35	1名
283	岸里小学校	大阪市西成区千本中1-8-22	1名
284	玉出小学校	大阪市西成区玉出中2-13-48	1名
285	千本小学校	大阪市西成区千本中2-8-8	1名
286	橘小学校	大阪市西成区橘2-1-29	1名
287	梅南津守小学校	大阪市西成区梅南3-2-25	1名
288	松之宮小学校	大阪市西成区旭3-5-39	1名
289	長橋小学校	大阪市西成区長橋2-3-21	1名
290	北津守小学校	大阪市西成区北津守3-3-40	1名
291	南津守小学校	大阪市西成区南津守6-1-14	1名
292	新今宮小学校	大阪市西成区花園北1-8-32	1名

大阪市立中学校一覽

No.	学校名	所在地	受け入れ可能人数
1	天満中学校	大阪市北区神山町12-9	2名
2	北稜中学校	大阪市北区天満橋1-1-58	2名
3	大淀中学校	大阪市北区大淀中2-1-11	2名
4	豊崎中学校	大阪市北区本庄東3-4-8	2名
5	新豊崎中学校	大阪市北区長柄東2-2-30	2名
6	弘済中学校	吹田市古江台6-2-2	2名
7	弘済中学校分校	高槻市奈佐原956	2名
8	高倉中学校	大阪市都島区御幸町1-1-10	2名
9	桜宮中学校	大阪市都島区東野田町5-16-10	2名
10	都島中学校	大阪市都島区中野町3-9-33	2名
11	淀川中学校	大阪市都島区毛馬町3-5-12	2名
12	友淵中学校	大阪市都島区友淵町1-5-151	2名
13	八阪中学校	大阪市福島区鷺洲6-1-13	2名
14	下福島中学校	大阪市福島区玉川1-4-11	2名
15	野田中学校	大阪市福島区吉野5-9-4	2名
16	春日出中学校	大阪市此花区春日出南1-2-8	2名
17	梅香中学校	大阪市此花区春日出北3-12-24	2名
18	此花中学校	大阪市此花区高見2-14-31	2名
19	咲くやこの花中学校	大阪市此花区西九条6-1-44	2名
20	東中学校	大阪市中央区大手前4-1-5	2名
21	南中学校	大阪市中央区島之内1-10-23	2名
22	上町中学校	大阪市中央区上本町西3-2-30	2名
23	西中学校	大阪市西区千代崎3-1-43	2名
24	花乃井中学校	大阪市西区江戸堀2-8-29	2名
25	堀江中学校	大阪市西区南堀江3-5-7	2名
26	市岡中学校	大阪市港区磯路1-5-21	2名
27	港中学校	大阪市港区池島1-5-35	2名
28	港南中学校	大阪市港区三先1-5-28	2名
29	市岡東中学校	大阪市港区市岡元町3-2-18	2名
30	築港中学校	大阪市港区築港1-2-41	2名
31	大正東中学校	大阪市大正区三軒家東4-4-30	2名
32	大正中央中学校	大阪市大正区小林東3-23-5	2名
33	大正西中学校	大阪市大正区南恩加島6-14-37	2名
34	大正北中学校	大阪市大正区北村3-1-1	2名
35	天王寺中学校	大阪市天王寺区北河堀町6-20	2名
36	夕陽丘中学校	大阪市天王寺区小宮町6-28	2名
37	高津中学校	大阪市天王寺区城南寺町1-31	2名
38	難波中学校	大阪市浪速区塩草1-1-59	2名
39	日本橋中学校	大阪市浪速区日本橋西1-7-6	2名
40	木津中学校	大阪市浪速区戎本町1-3-46	2名
41	淀中学校	大阪市西淀川区大和田6-13-6	2名
42	西淀中学校	大阪市西淀川区姫島6-10-5	2名
43	歌島中学校	大阪市西淀川区歌島2-11-9	2名
44	佃中学校	大阪市西淀川区佃2-15-93	2名
45	十三中学校	大阪市淀川区十三東5-1-27	2名
46	新北野中学校	大阪市淀川区新北野2-13-37	2名
47	三国中学校	大阪市淀川区西三国2-5-24	2名
48	美津島中学校	大阪市淀川区加島1-54-41	2名
49	東三国中学校	大阪市淀川区東三国6-3-68	2名
50	宮原中学校	大阪市淀川区西宮原3-3-2	2名
51	淡路中学校	大阪市東淀川区西淡路4-25-53	2名
52	柴島中学校	大阪市東淀川区柴島2-8-36	2名
53	瑞光中学校	大阪市東淀川区瑞光4-9-37	2名
54	中島中学校	大阪市東淀川区東中島4-8-38	2名
55	東淀中学校	大阪市東淀川区豊里6-25-19	2名
56	井高野中学校	大阪市東淀川区井高野2-8-13	2名
57	新東淀中学校	大阪市東淀川区豊里1-10-32	2名

58	大桐中学校	大阪市東淀川区大桐4-5-8	2名
59	東陽中学校	大阪市東成区深江北2-5-7	2名
60	本庄中学校	大阪市東成区東中本3-14-2	2名
61	玉津中学校	大阪市東成区玉津1-12-36	2名
62	相生中学校	大阪市東成区神路2-8-16	2名
63	大池中学校	大阪市生野区中川6-3-6	2名
64	桃谷中学校	大阪市生野区勝山北3-13-44	2名
65	生野中学校	大阪市生野区生野西3-5-40	2名
66	東生野中学校	大阪市生野区新今里7-9-25	2名
67	田島中学校	大阪市生野区田島5-23-7	2名
68	巽中学校	大阪市生野区巽中3-17-20	2名
69	新生野中学校	大阪市生野区巽東3-3-12	2名
70	新巽中学校	大阪市生野区巽南4-2-53	2名
71	旭陽中学校	大阪市旭区高殿5-9-31	2名
72	大宮中学校	大阪市旭区中宮4-7-11	2名
73	旭東中学校	大阪市旭区新森6-7-25	2名
74	今市中学校	大阪市旭区大宮5-13-40	2名
75	放出中学校	大阪市城東区放出西3-12-10	2名
76	蒲生中学校	大阪市城東区中央3-9-24	2名
77	城陽中学校	大阪市城東区嶋野西3-3-64	2名
78	藪中学校	大阪市城東区古市1-18-4	2名
79	城東中学校	大阪市城東区永田3-3-58	2名
80	鯉江中学校	大阪市城東区今福西4-7-20	2名
81	茨田中学校	大阪市鶴見区諸口3-4-44	2名
82	緑中学校	大阪市鶴見区鶴見6-6-11	2名
83	茨田北中学校	大阪市鶴見区茨田大宮1-1-31	2名
84	今津中学校	大阪市鶴見区今津中1-3-55	2名
85	横堤中学校	大阪市鶴見区横堤1-11-27	2名
86	昭和中学校	大阪市阿倍野区桃ヶ池町2-3-17	2名
87	文の里中学校	大阪市阿倍野区美章園1-5-52	2名
88	阪南中学校	大阪市阿倍野区北畠1-16-24	2名
89	松虫中学校	大阪市阿倍野区松虫通3-4-45	2名
90	阿倍野中学校	大阪市阿倍野区昭和町3-2-4	2名
91	住吉第一中学校	大阪市住之江区粉浜西1-5-11	2名
92	加賀屋中学校	大阪市住之江区西加賀屋2-9-20	2名
93	住之江中学校	大阪市住之江区御崎8-1-6	2名
94	新北島中学校	大阪市住之江区新北島8-2-46	2名
95	南港北中学校	大阪市住之江区南港中4-3-39	2名
96	南港南中学校	大阪市住之江区南港中3-5-14	2名
97	真住中学校	大阪市住之江区御崎2-2-32	2名
98	水都国際中学校	大阪市住之江区南港中3-7-13	2名
99	三稜中学校	大阪市住吉区干鉢1-5-22	2名
100	我孫子中学校	大阪市住吉区我孫子東1-4-32	2名
101	住吉中学校	大阪市住吉区帝塚山西3-5-6	2名
102	大和川中学校	大阪市住吉区遠里小野2-11-4	2名
103	東我孫子中学校	大阪市住吉区苅田1-16-2	2名
104	墨江丘中学校	大阪市住吉区墨江4-15-34	2名
105	大領中学校	大阪市住吉区大領4-3-25	2名
106	我孫子南中学校	大阪市住吉区浅香1-8-55	2名
107	田辺中学校	大阪市東住吉区南田辺4-7-24	2名
108	東住吉中学校	大阪市東住吉区桑津5-17-25	2名
109	中野中学校	大阪市東住吉区中野4-4-25	2名
110	矢田中学校	大阪市東住吉区住道矢田9-7-55	2名
111	白鷺中学校	大阪市東住吉区今川1-2-21	2名
112	矢田南中学校	大阪市東住吉区矢田3-4-27	2名
113	矢田西中学校	大阪市東住吉区公園南矢田2-12-47	2名
114	長谷川中学校	柏原市円明町3-15	2名
115	摂陽中学校	大阪市平野区平野西3-4-7	2名
116	平野中学校	大阪市平野区背戸口1-16-26	2名

117	長吉中学校	大阪市平野区長吉長原東1-6-15	2名
118	瓜破中学校	大阪市平野区瓜破2-5-31	2名
119	加美中学校	大阪市平野区加美正覺寺3-13-46	2名
120	長吉西中学校	大阪市平野区長吉長原西3-8-21	2名
121	喜連中学校	大阪市平野区喜連西6-2-11	2名
122	長吉六反中学校	大阪市平野区長吉六反4-9-61	2名
123	瓜破西中学校	大阪市平野区瓜破西2-12-22	2名
124	加美南中学校	大阪市平野区加美南1-10-15	2名
125	平野北中学校	大阪市平野区平野宮町1-8-55	2名
126	天下茶屋中学校	大阪市西成区橘1-8-2	2名
127	今宮中学校	大阪市西成区花園北1-8-32	2名
128	成南中学校	大阪市西成区千本中1-17-10	2名
129	鶴見橋中学校	大阪市西成区長橋3-9-23	2名
130	玉出中学校	大阪市西成区玉出西1-15-37	2名
131	梅南中学校	大阪市西成区梅南3-3-17	2名

大阪市立高校一覧

No.	学校名	所在地	受け入れ可能人数
1	大阪市立桜宮高等学校	大阪市都島区毛馬町5-22-28	2名
2	大阪市立東高等学校	大阪市都島区東野田町4-15-14	2名
3	大阪市立南高等学校	大阪市中央区谷町6-17-32	2名
4	大阪市立西高等学校	大阪市西区北堀江4-7-1	2名
5	大阪市立汎愛高等学校	大阪市鶴見区今津中2-1-52	2名
6	大阪市立高等学校	枚方市北中振2-8-1	2名
7	大阪市立淀商業高等学校	大阪市西淀川区野里3-3-15	2名
8	大阪市立鶴見商業高等学校	大阪市鶴見区緑2-10-9	2名
9	大阪市立住吉商業高等学校	大阪市住之江区御崎7-12-55	2名
10	大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校	大阪市天王寺区烏ヶ辻2-9-26	2名
11	大阪市立水都国際高等学校	大阪市住之江区南港中3-7-13	2名
12	大阪市立都島工業高等学校	大阪市都島区善源寺町1-5-64	2名
13	大阪市立泉尾工業高等学校	大阪市大正区泉尾5-16-7	2名
14	大阪市立東淀工業高等学校	大阪市淀川区加島1-52-81	2名
15	大阪市立生野工業高等学校	大阪市生野区生野東2-3-66	2名
16	大阪市立工業高等学校	大阪市阿倍野区文の里1-7-2	2名
17	大阪市立扇町総合高等学校	大阪市北区松ヶ枝町1-38	2名
18	大阪市立咲くやこの花高等学校	大阪市此花区西九条6-1-44	2名
19	大阪市立中央高等学校	大阪市中央区釣鐘町1-1-5	2名

【博物館実習】

科目名	実習施設名	受け入れ可能人数	所在地
博物館実習 2	大阪歴史博物館	20 名	大阪市中央区大手前 4-1-32
博物館実習 2	大阪府立弥生文化博物館	4~5 名	和泉市池上町 4-8-27
博物館実習 2	大阪市立大学理学部附属植物園	15 名	交野市私市 2000
博物館実習 2	伊丹市昆虫館	15 名	伊丹市昆陽池 3-1 昆陽池公園内
博物館実習 2	きしわだ自然資料館	8 月： 1~3 名 11 月： 1~3 名	大阪府岸和田市堺町 6 番 5 号 きしわだ自然資料館
博物館実習 2	大阪市立自然史博物館	5 名	大阪府大阪市東住吉区長居公園 1-23
博物館実習 2	貝塚市立自然遊学館	2 名	大阪府貝塚市二色 3 丁目 26-1

【公認心理師】

科目名	実習施設名	受け入れ可能人数	所在地
心理実習 ※生活科学部開講科目	大阪市こども相談センター	10 名	大阪市中央区森ノ宮中央 1-17-5
心理実習 ※生活科学部開講科目	大阪市立弘済院附属病院	20 名	大阪府吹田市古江台 6-2-1
心理実習 ※生活科学部開講科目	医療法人サヂカム会三国丘病院	10 名	大阪府堺市堺区榎元町 1-5-1
心理実習 ※生活科学部開講科目	社会福祉法人甲山福祉センター西宮すなご医療福祉センター	4 名	兵庫県西宮市武庫川町 2-9
心理実習 ※生活科学部開講科目	大阪市立大学医学部附属病院	20 名	大阪市阿倍野区旭町 1-5-7

履修モデル（哲学歴史学科 哲学コース（編入））

科目区分	編入学時		3年次		4年次		単位 合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
基幹教育科目								
	小計	0	小計	0	小計	0	0	
専門科目	必修科目	編入学個別認定			卒業論文 哲学歴史学研究演習1 哲学歴史学研究演習2	10 2 2		
	選択必修科目		哲学概論 1 哲学演習・講読 1 哲学史演習・講読 1 哲学演習・講読 2 宗教学演習・講読 1 宗教学演習・講読 2 哲学史通論 1 倫理学概論 1 倫理学演習・講読 1 宗教学概論 1 西洋史通論 哲学概論 2 哲学史通論 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	倫理学概論 2 倫理学演習・講読 2 宗教学概論 2 世界史通論 美学概論 1 美学概論 2	2 2 2 2 2 2		
	自由選択科目	(編入学個別認定)言語文化基礎論B (編入学個別認定)国文学史B (編入学個別認定)比較表現論 (編入学個別認定)博物館展示論 (編入学個別認定)政治学概論 (編入学個別認定)人間行動学概論A (編入学個別認定)教育方法学A	2 2 2 2 2 2 2	社会学概論 A 社会学特講 B 心理学概論 1 心理学概論 2 知覚・認知心理学特論 発達心理学特論 哲学特講 B 哲学特講 C 哲学特講 D	2 2 2 2 2 2 2 2 2			
	自由科目							
	小計	22	小計	44	小計	26	92	
合計		22		44		26	92	

履修モデル（哲学歴史学科 日本史コース（編入））

科目区分	編入学時		3年次		4年次		単位 合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
基幹教育科目								
	小計	0	小計	0	小計	0	0	
専門科目	必修科目	編入学個別認定	8		卒業論文 哲学歴史学研究演習1 哲学歴史学研究演習2	10 2 2		
	選択必修科目			日本史演習A 日本史演習B 日本史演習C 日本史演習D 考古学演習 日本史通論B 考古学通論 日本史基礎講読1 日本史基礎講読2 日本史講読A 日本史講読B 日本史講読C 日本史講読D	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	日本史通論A 史学概論	2 2	
	自由選択科目	(編入学個別認定) 大阪の歴史演習 (編入学個別認定) 東洋史基礎講読 (編入学個別認定) 世界史通論 (編入学個別認定) 世界史講読 (編入学個別認定) 東洋史講読A (編入学個別認定) 大阪の地域・文化実践演習 (編入学個別認定) 民俗学	2 2 2 2 2 2	日本史特講A 日本史特講B 日本史特講C 日本史特講D 考古学実習 東洋史通論 東洋史講読B 世界史演習 世界史特講	2 2 2 2 2 2 2 2 2	世界史基礎講読 上方文化講座 文化人類学 東洋史特講A	2 2 2 2	
	自由科目							
合計	小計	22	小計	44	小計	26	92	
		22		44		26	92	

履修モデル（哲学歴史学科 世界史コース（編入））

科目区分	編入学時		3年次		4年次		単位 合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
基幹 教育 科目								
	小計	0	小計	0	小計	0	0	
専 門 科 目	必修 科目	編入学個別認定			卒業論文 哲学歴史学研究演習1 哲学歴史学研究演習2	10 2 2		
	選択 必修 科目		東洋史講読A 東洋史講読C 東洋史演習A 世界史演習 西洋史講読B 西洋史演習A 宗教学概論1 西洋史演習B 西洋史演習C 世界史基礎講読 世界史通論 東洋史講読B 東洋史基礎講読	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	宗教学概論2 倫理学概論1 東洋史通論 史学概論 世界史講読 西洋史講読A 哲学史通論1	2 2 2 2 2 2 2		
	自由 選択 科目	(編入学個別認定) 民俗学 (編入学個別認定) 文化構想学概論A (編入学個別認定) 教育基礎論 (編入学個別認定) 発達・学習論 (編入学個別認定) 文化構想学概論B (編入学個別認定) 社会学史B (編入学個別認定) 社会学概論A	2 2 2 2 2 2 2	西洋史特講B 東洋史特講A 社会学史A マス・コミュニケーション論A 社会学概論A ドイツ語学概論 ギリシャ語1 ラテン語1	2 2 2 2 2 2 2 2			
	自由 科目							
	小計	22	小計	42	小計	28	92	
合計		22		42		28	92	

履修モデル（人間行動学科 社会学コース（編入））

科目区分	編入学時		3年次		4年次		単位 合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
基幹教育科目								
	小計	0	小計	0	小計	0	0	
専門科目	必修科目	編入学個別認定	8			卒業論文	10	
						人間行動学研究演習1	2	
					人間行動学研究演習2	2		
	選択必修科目			社会学実習1	2	比較・国際教育学	2	
			社会学実習2	2	地誌学A	2		
			社会学演習2	2	心理学特講A	2		
			社会学演習3	2	心理学概論1	2		
			社会学質的研究法	2	地理学概論A	2		
			社会学データ解析法	2	教育学概論A	2		
			社会学概論A	2				
			社会学研究法	2				
			社会学基礎演習	2				
			社会学史A	2				
		社会学調査法	2					
		社会学演習1	2					
自由選択科目		(編入学個別認定) 哲学史通論1	2	社会学特論D	2	社会学特論A	2	
		(編入学個別認定) 民俗学	2	社会学特論E	2	社会学特論B	2	
		(編入学個別認定) フランス語圏文化論	2	社会学特講B	2	社会学特論C	2	
		(編入学個別認定) 表象文化論	2	社会学特講C	2			
		(編入学個別認定) 言語文化基礎論A	2	マス・コミュニケーション論A	2			
		(編入学個別認定) ポピュラー文化論	2	広報情報論B	2			
		(編入学個別認定) 文化人類学	2	社会・集団・家族心理学特論	2			
自由科目								
	小計	22	小計	38	小計	32	92	
合計		22		38		32	92	

履修モデル（人間行動学科 心理学コース（編入））

科目区分	編入学時		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目							
	小計	0	小計	0	小計	0	0
専門科目	必修科目	編入学個別認定	8		卒業論文	10	
					人間行動学研究演習1	2	
					人間行動学研究演習2	2	
	選択必修科目			心理学研究演習1 心理学研究演習2 人間行動学データ解析法3 人間行動学データ解析法4 心理学概論1 心理学概論2 心理学実験演習1(心理学実験) 心理学実験演習2(心理学実験) 教育学概論A 心理学研究法1 心理学研究法2 心理学統計法	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	社会学概論A 社会学概論B 地理学概論A	2 2 2
自由選択科目	(編入学個別認定) 神経・生理心理学特論 (編入学個別認定) 感情・人格心理学特論 (編入学個別認定) 教育学概論B (編入学個別認定) 教育学研究法1 (編入学個別認定) 学習・言語心理学特論 (編入学個別認定) 知覚・認知心理学特論 (編入学個別認定) 社会・集団・家族心理学特論	2 2 2 2 2 2 2	心理的アセスメント特論 心理学特講A 発達心理学特論 地理学概論B 社会学特講A 教育方法学A 哲学特講A 教育史 地理情報学 英語コミュニケーションA	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	心理学特講B 自然地理学概論 英語コミュニケーションB	2 2 2	
自由科目							
	小計	22	小計	44	小計	26	92
合計		22		44		26	92

履修モデル（人間行動学科 教育学コース（編入））

科目区分	編入学時		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹 教育科目							
	小計	0	小計	0	小計	0	0
専 門 科 目	必修科目	編入学個別認定	8		卒業論文	10	
					人間行動学研究演習1	2	
					人間行動学研究演習2	2	
	選択必修科目			教育方法学B	2	心理学概論1	2
			比較・国際教育学	2	地理学概論A	2	
			教育学演習D	2	地理学概論B	2	
			教育学概論A	2	心理学概論2	2	
			教育学概論B	2	教育学実習	2	
			教育方法学A	2	教育学演習A	2	
			教育学研究法1	2	社会学概論A	2	
			教育学演習B	2			
			教育学研究法1	2			
			教育学演習C	2			
	自由選択科目	(編入学個別認定) 教育史	2	教育学特講B	2		
		(編入学個別認定) 日本史通論B	2	教育行政学	2		
		(編入学個別認定) 道德教育論	2	生徒・進路指導論	2		
		(編入学個別認定) 教育相談論	2	特別支援教育論	2		
		(編入学個別認定) 教育メディア論	2	教育方法論	2		
		(編入学個別認定) 特別活動論	2	総合的な探究の指導論	2		
		(編入学個別認定) 教育基礎論	2	発達・学習論	2		
				教育制度論	2		
				教育課程論	2		
				文学部基礎演習	2		
				人間文化基礎論1	2		
	自由科目						
		小計	22	小計	42	小計	28
合計			22		42		92

履修モデル（人間行動学科 地理学コース（編入））

科目区分	編入学時		3年次		4年次		単位 合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
基幹教育科目								
	小計	0	小計	0	小計	0	0	
専門科目	必修科目	編入学個別認定	8			卒業論文	10	
						人間行動学研究演習1	2	
					人間行動学研究演習2	2		
	選択必修科目			地理学演習A	2	心理学概論1	2	
			地理学演習B	2	心理学概論2	2		
			地理学野外調査実習2	2	社会学研究法	2		
			地誌学A	2				
			地誌学B	2				
			地理学講読演習A	2				
			地理学講読演習B	2				
			人間行動学データ解析法4	2				
			地理学概論A	2				
			地理学概論B	2				
			地理学実験実習1	2				
			地理学実験実習2	2				
			地理学野外調査実習1	2				
自由選択科目		(編入学個別認定) 地理情報学	2	地図学	2	言語文化概論A	2	
		(編入学個別認定) 哲学概論1	2	地理学特講A	2	言語文化概論B	2	
		(編入学個別認定) 哲学概論2	2	ドイツ語圏文化論	2			
		(編入学個別認定) 観光文化論	2	英米文化演習	2			
		(編入学個別認定) フランス語学概論	2	フランス語圏言語文化演習A	2			
		(編入学個別認定) 言語文化基礎論A	2	心理学特講B	2			
		(編入学個別認定) 言語文化基礎論B	2	公共経済学	2			
				産業経済論	2			
				経済政策入門	2			
				日本史通論B	2			
自由科目								
合計	小計	22	小計	46	小計	24	92	

注)「経済政策入門」、「産業経済論」、「公共経済学」は経済学部専門科目

履修モデル（言語文化学科 国語国文学コース（編入））

科目区分	編入学時		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目							
	小計	0	小計	0	小計	0	0
専門科目	必修科目	編入学個別認定	8		卒業論文	10	
					言語文化学研究演習1	2	
					言語文化学研究演習2	2	
	選択必修科目			国語国文学演習A1	2	国文学史D	2
				国語国文学演習B1	2	国語国文学講読A2	2
			国語国文学演習C1	2	国語国文学講読B2	2	
			国語国文学演習D1	2	英米文化概論	2	
			フランス語圏言語文化論	2	ドイツ語圏言語文化論	2	
			国語国文学演習A2	2	ドイツ語圏文化論	2	
			国語国文学演習B2	2			
			国語国文学演習C2	2			
			国語国文学演習D2	2			
			国文学史B	2			
			国文学史A	2			
			国語学基礎論	2			
			国語国文学講読A1	2			
			国語国文学講読B1	2			
			英米文化演習	2			
自由選択科目	(編入学個別認定)民俗学	2	国語国文学特講A	2			
	(編入学個別認定)日本史通論A	2	美術史通論A	2			
	(編入学個別認定)日本史通論B	2	地図学	2			
	(編入学個別認定)観光文化論	2	哲学概論1	2			
	(編入学個別認定)英語コミュニケーションA	2	心理学概論1	2			
	(編入学個別認定)英語コミュニケーションB	2	国語国文学特講D	2			
	(編入学個別認定)比較表現論	2	教職概論	2			
自由科目							
	小計	22	小計	44	小計	26	92
合計		22		44		26	92

履修モデル（言語文化学科 中国語中国文学コース（編入））

科目区分	編入学時		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目							
	小計	0	小計	0	小計	0	0
専門科目	必修科目	編入学個別認定	8		卒業論文	10	
					言語文化学研究演習1	2	
					言語文化学研究演習2	2	
	選択必修科目			中国文学演習1	2	中国語学演習A	2
				中国文学演習1	2	中国語コミュニケーション3	2
			中国語中国文学概論A	2	中国語コミュニケーション4	2	
			中国語中国文学概論B	2	中国語学演習B	2	
			フランス語圏言語文化論	2	ドイツ語圏言語文化論	2	
			中国語中国文学概論D	2	中国文学演習2	2	
			中国語基礎演習1	2			
			中国語基礎演習2	2			
			中国語コミュニケーション1	2			
			中国語コミュニケーション2	2			
自由選択科目	(編入学個別認定) 美学概論1	2	中国語中国文学特講A	2			
	(編入学個別認定) 東洋史通論	2	中国語中国文学特講B	2			
	(編入学個別認定) 世界史通論	2	東洋史演習B	2			
	(編入学個別認定) 東洋史講読A	2	東洋史演習C	2			
	(編入学個別認定) 東洋史講読B	2	東洋史基礎講読	2			
	(編入学個別認定) 英語学概論A	2	教育史	2			
	(編入学個別認定) 比較表現論	2	英語学概論B	2			
			アジア地域文化概論	2			
			国語国文学特講A	2			
自由科目			外国語科教育法(中国語)1A	2			
			外国語科教育法(中国語)2A	2			
			中国語海外語学研修	2			
	小計	22	小計	44	小計	26	92
合計		22		44		26	92

履修モデル（言語文化学科 英米言語文化コース（編入））

科目区分	編入学時		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目							
	小計	0	小計	0	小計	0	0
専門科目	必修科目	編入学個別認定 8			卒業論文 言語文化学研究演習1 言語文化学研究演習2	10 2 2	
	選択必修科目		英語学概論A 英米文学史A 英米文化演習 国語学基礎論 フランス語圏言語文化論 英米文学演習D 英米文学史C 英語学特講 比較表現論 英米文化概論 国文学史B	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	フランス語圏言語文化論 フランス語圏文化論 フランス語圏言語文化演習A 英米文学史B ドイツ語圏言語文化論 フランス語学概論	2 2 2 2 2 2	
	自由選択科目	(編入学個別認定)英語コミュニケーションA (編入学個別認定)民俗学 (編入学個別認定)人間行動学データ解析法1 (編入学個別認定)社会学研究法 (編入学個別認定)観光文化論 (編入学個別認定)発達・学習論 (編入学個別認定)英語コミュニケーションB	2 2 2 2 2 2	インターカルチュラルスタディーズA 社会学概論A 教育方法学B 心理学概論2 教育行政学 表現文化特論 博物館資料論 哲学史通論1 教育制度論 人間行動学概論A 人間行動学概論B	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		
	自由科目						
	小計	22	小計	44	小計	26	92
合計		22		44		26	92

履修モデル（言語文化学科 ドイツ語圏言語文化コース（編入））

科目区分	編入学時		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目							
	小計	0	小計	0	小計	0	0
専門科目	必修科目	編入学個別認定	8		卒業論文	10	
					言語文化学研究演習1	2	
					言語文化学研究演習2	2	
	選択必修科目	(編入学個別認定)ドイツ語文学史	2	ドイツ語圏言語文化演習A	2	フランス語圏言語文化論	2
	(編入学個別認定)ドイツ語圏言語文化基礎演習A	2	ドイツ語コミュニケーション1	2	国文学史C	2	
	(編入学個別認定)ドイツ語圏文化論	2	ドイツ語圏言語文化特別演習	2	国文学史D	2	
	(編入学個別認定)ドイツ語圏言語文化基礎演習B	2	ドイツ語圏言語文化演習B	2			
			ドイツ語圏言語文化演習C	2			
			ドイツ語コミュニケーション2	2			
			ドイツ語圏ランデスkunde	2			
			ドイツ語学概論	2			
			ドイツ語圏言語文化論	2			
			国文学史A	2			
			国文学史B	2			
			フランス語圏文学史	2			
			フランス語圏文化論	2			
			フランス語学概論	2			
自由選択科目	(編入学個別認定)英米文化概論	2	美術史通論A	2	ヨーロッパ言語文化特講	2	
	(編入学個別認定)教育基礎論	2	美術史通論B	2	西洋古典学	2	
	(編入学個別認定)発達・学習論	2	英米文学特講	2	ギリシア語1	2	
			比較文化交流論	2	ギリシア語2	2	
			博物館情報・メディア論	2			
			哲学概論1	2			
			美学概論1	2			
自由科目							
	小計	22	小計	42	小計	28	92
合計		22		42		28	92

履修モデル（言語文化学科 フランス語圏言語文化コース（編入））

科目区分	編入学時		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹 教育 科目							
	小計	0	小計	0	小計	0	0
専門 科目	必修 科目	編入学個別認定	8		卒業論文	10	
					言語文化学研究演習1	2	
					言語文化学研究演習2	2	
	選択 必修 科目			フランス語圏言語文化演習A	2	エチュードフランコフォース	2
				フランス語圏言語文化演習B	2	ドイツ語圏文化論	2
				フランス語圏言語文化演習D	2		
				フランス語コミュニケーション1	2		
				フランス語圏言語文化論	2		
				フランス語圏言語文化演習C	2		
				フランス語圏言語文化特別演習	2		
				フランス語コミュニケーション2	2		
				フランス語圏文学史	2		
				ドイツ語圏言語文化論	2		
				フランス語圏言語文化基礎演習A	2		
				フランス語学概論	2		
				フランス語圏文化論	2		
				ドイツ語圏文学史	2		
				フランス語圏言語文化基礎演習B	2		
				フランス語圏言語文化基礎演習C	2		
自由 選択 科目		(編入学個別認定)美術史通論A	2	インターカルチュラルスタディーズA	2	フランス語コミュニケーション3	2
		(編入学個別認定)ヨーロッパ言語文化特講	2	インターカルチュラルスタディーズB	2	フランス語コミュニケーション4	2
		(編入学個別認定)文化構想学概論A	2	ヨーロッパ言語文化特講	2	西洋古典学	2
		(編入学個別認定)視覚芸術文化論	2	表現文化特論	2	ラテン語1	2
		(編入学個別認定)発達学習論	2			上方文化講座	2
		(編入学個別認定)人間文化概論A	2			人間文化基礎論2	2
		(編入学個別認定)人間行動学概論A	2			文化構想学概論B	2
自由 科目							
		小計	22	小計	40	小計	32
合計			22		40		94

履修モデル（文化構想学科 表現文化コース（編入））

科目区分	編入時		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目							
	小計	0	小計	0	小計	0	0
専門科目	必修科目	編入学個別認定	8		卒業論文	10	
					文化構想学研究演習1	2	
					文化構想学研究演習2	2	
	選択必修科目			文化理論演習	2	舞台芸術文化論	2
				比較文化交流論	2	文化デザイン論	2
				テキスト文化論	2		
				表現文化論特殊演習1	2		
				比較表現論演習	2		
				テキスト文化論演習	2		
				表現文化論特殊演習2	2		
				文化理論	2		
				表象文化論	2		
				ポピュラー文化論	2		
				表現文化論基礎演習	2		
				表象文化論演習	2		
				ポピュラー文化論演習	2		
自由選択科目	(編入学個別認定)社会学概論A	2	文化資源特論A	2	表現文化特論	2	
	(編入学個別認定)国文学史A	2	アジア文化特論A	2	文化資源特論C	2	
	(編入学個別認定)ドイツ語圏言語文化論	2	民俗学	2	上方文化講座	2	
	(編入学個別認定)社会学概論B	2	美学概論1	2	美術史通論B	2	
	(編入学個別認定)美術史通論A	2	マス・コミュニケーション論A	2	美学概論2	2	
	(編入学個別認定)言語文化概論A	2	文化資源特論B	2	表象文化特論	2	
	(編入学個別認定)言語文化概論B	2	アジア文化特論B	2			
自由科目							
	小計	22	小計	40	小計	30	92
合計		22		40		30	92

履修モデル（文化構想学科 アジア文化コース（編入））

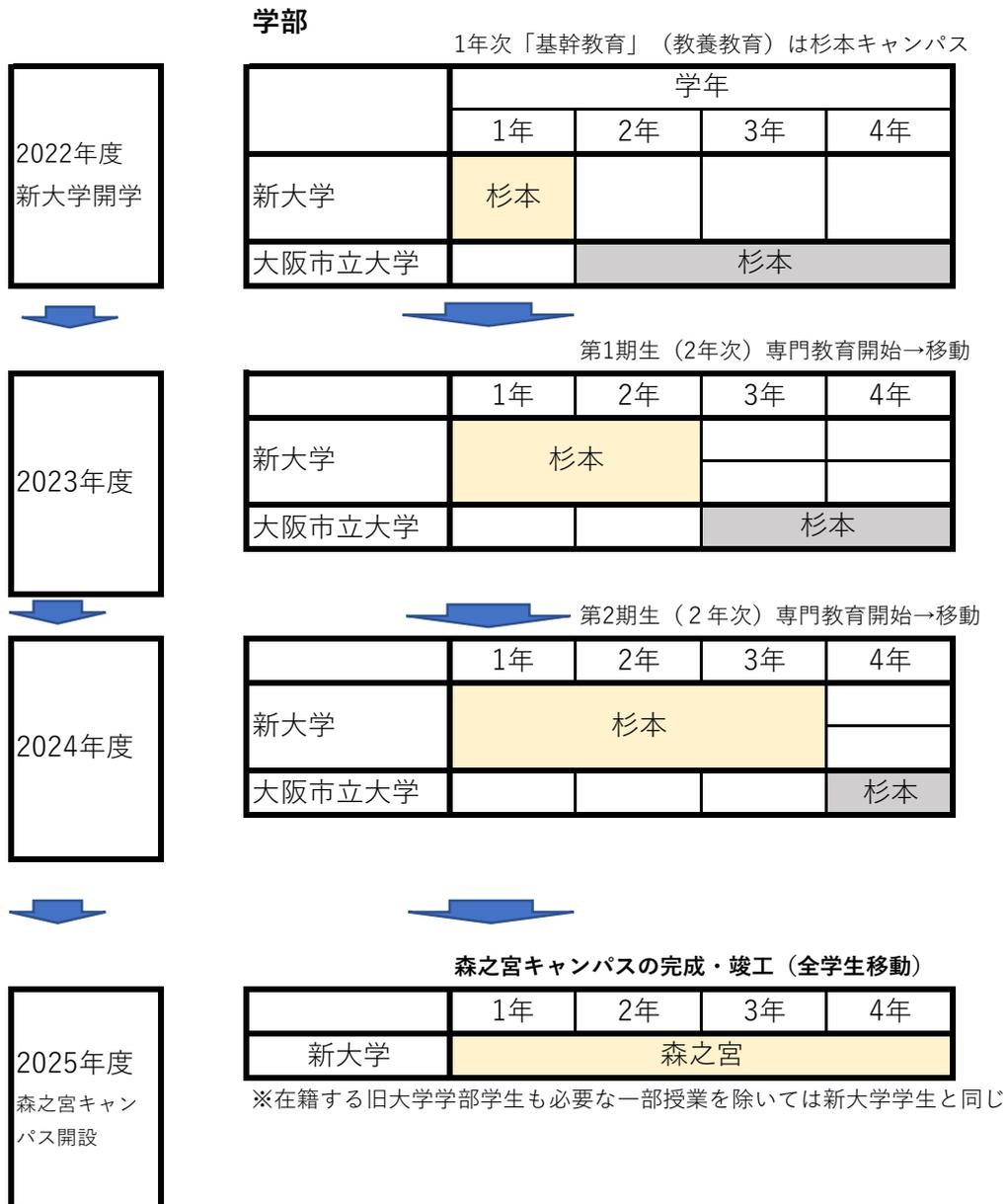
科目区分	編入時		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目							
	小計	0	小計	0	小計	0	0
専門科目	必修科目	編入学個別認定	8		卒業論文	10	
					文化構想学研究演習1	2	
					文化構想学研究演習2	2	
	選択必修科目			アジア地域文化論	2	アジア共生文化論演習	2
				アジア共生文化論	2	アジア比較文化論演習	2
				アジア比較文化論	2	観光文化論	2
				アジア伝統文化論	2	表象文化論	2
				アジア地域文化論演習	2	ポピュラー文化論	2
				アジア伝統文化論演習	2	比較表現論	2
				文化理論演習	2	文化資源基礎論	2
				アジア文化学基礎論	2	舞台芸術文化論	2
				アジア地域文化概論	2		
				アジア伝統文化概論	2		
				アジア共生文化概論	2		
				アジア比較文化概論	2		
				文化理論	2		
自由選択科目	(編入学個別認定)大阪の地域・文化実践演習	2	アジア文化特論A	2	国際都市社会論	2	
	(編入学個別認定)史学概論	2	アジア文化特論B	2			
	(編入学個別認定)社会調査法	2	文化人類学	2			
	(編入学個別認定)比較文化交流論	2	地域文化資源論演習	2			
	(編入学個別認定)地理学概論B	2	民俗学	2			
	(編入学個別認定)表象文化特論	2	上方文化講座	2			
	(編入学個別認定)地理学概論A	2					
自由科目							
小計		22	小計	38	小計	32	92
合計		22		38		32	92

履修モデル（文化構想学科 文化資源コース（編入））

科目区分	編入時		3年次		4年次		単位 合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
基幹教育科目								
	小計	0	小計	0	小計	0	0	
専門科目	必修科目	編入学個別認定	8		卒業論文 文化構想学研究演習1 文化構想学研究演習2	10 2 2		
	選択必修科目			音楽文化資源論演習 舞台文化資源論演習 表象文化論 音楽文化資源論実習 舞台文化資源論実習 視覚文化資源論実習 地域文化資源論実習 視覚文化資源論演習 地域文化資源論演習 文化資源基礎論	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	観光文化論 文化理論 文化デザイン論 舞台芸術文化論 視覚芸術文化論	2 2 2 2 2	
	自由選択科目	(編入学個別認定)文化資源特論A (編入学個別認定)社会学研究法 (編入学個別認定)社会調査法 (編入学個別認定)大阪の地域・文化実践演習 (編入学個別認定)博物館展示論 (編入学個別認定)人間行動学概論A (編入学個別認定)人間行動学概論B	2 2 2 2 2 2 2	文化資源特論B 文化資源特論C 文化資源論特別演習 世界史通論 広報情報論B 社会学質的研究法 地図学 大阪の歴史演習 美術史通論B 日本文化発信のための英語 総合文化実践演習	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	上方文化講座 広報情報論A	2 2	
	自由科目							
	小計	22	小計	42	小計	28	92	
合計		22		42		28	92	

文学部キャンパスの遷移

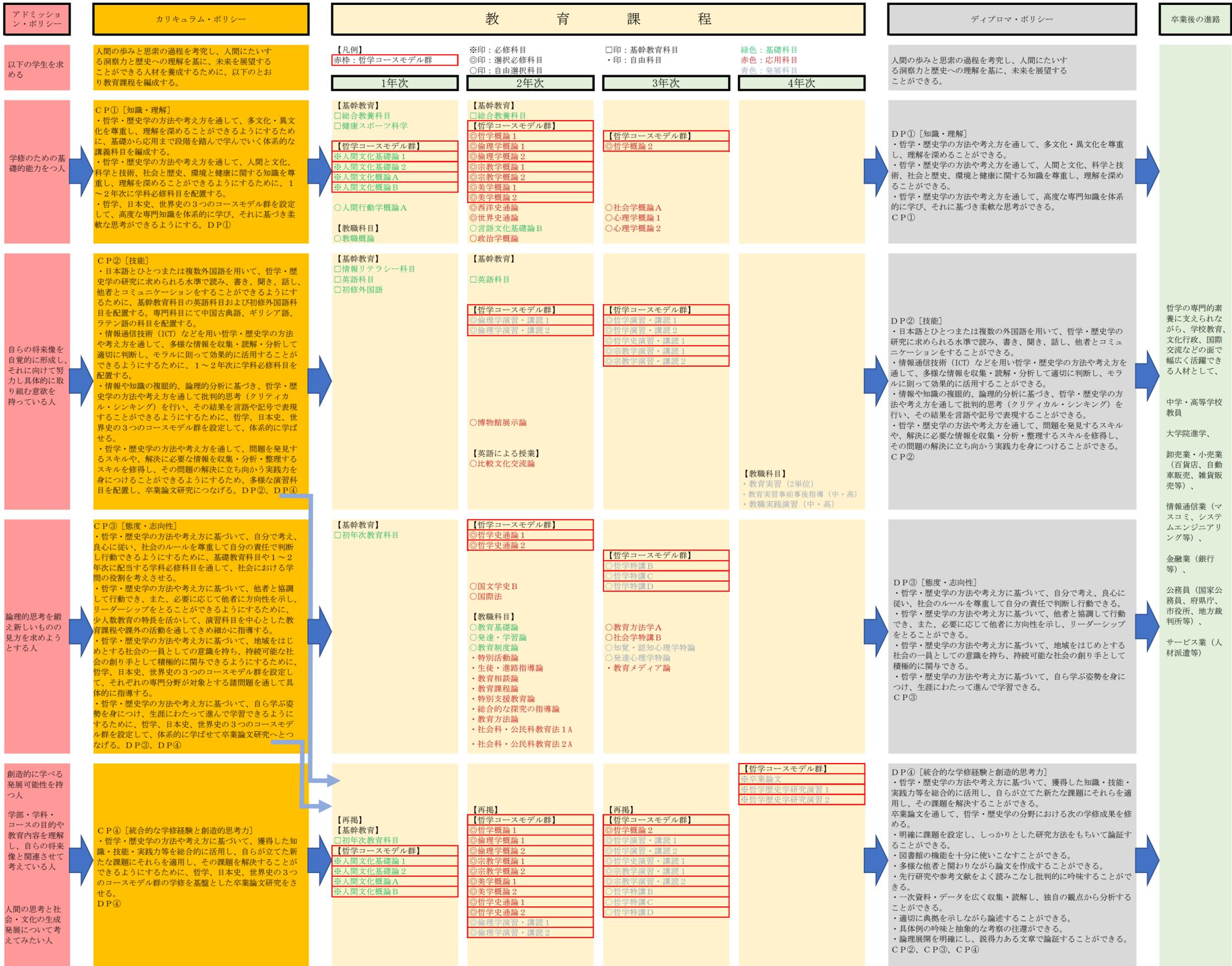
新大学 新キャンパス整備に伴う校地（教育実施場所）遷移について



文学部 哲学歴史学科 哲学コース カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会では、これまで人類はどのようにして危機に直面しそれをどう乗り越えてきたかを分析し、持続可能な社会を志向する倫理観、価値観を考察していくことが一層重要となる。そこで求められるのが、人間と文化に対する新たなものの見方と方法に対する原理的反省である。哲学、そして日本史・世界史からなる歴史学は諸学の基礎としての役割を共有しており、哲学的観点と歴史的観点は人間理解のための2つの基本的な座標軸と言える。激しく変動する時代潮流のなかで、人間文化の本質とその普遍的価値を見極め、さらにその変化の意味と方向性を洞察する能力が切実に求められており、哲学と歴史学の学問的追究を基盤とした人材育成が強く希求される。

【養成する人材像】
文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。
具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
とくに哲学歴史学科では、人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる人材を養成する。



(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)

文学部 哲学歴史学科 日本史コース カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
 予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会では、これまで人類はどのようにして危機に直面しそれをどう乗り越えてきたかを分析し、持続可能な社会を志向する倫理観、価値観を考察していくことが一層重要となる。そこで求められるのが、人間と文化に対する新たなものの見方と方法に対する原理的反省である。哲学、そして日本史・世界史からなる歴史学は諸学の基礎としての役割を共有しており、哲学的観点と歴史的観点は人間理解のための2つの基本的な座標軸と言える。激しく変動する時代潮流のなかで、人間文化の本質とその普遍的価値を見極め、さらにその変化の意味と方向性を洞察する能力が切実に求められており、哲学と歴史学の学問的追究を基盤とした人材育成が強く希求される。

【養成する人材像】
 文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよきや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
 とくに哲学歴史学科では、人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程				ディプロマ・ポリシー	卒業後の進路
以下の学生を求める	人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。	【凡例】 赤枠：日本史コースモデル群	※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ○印：自由選択科目	□印：基礎教育科目 ・印：自由科目	緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目	人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる。	
学修のための基礎的能力をつつ人	C P① [知識・理解] ・哲学・歴史学の方法や考え方を通じて、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。 ・哲学・歴史学の方法や考え方を通じて、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。 D P①	【基礎教育】 □総合教養科目 □健康スポーツ科学 【日本史コースモデル群】 ※人間文化基礎論1 ※人間文化基礎論2 ※人間文化概論A ※人間文化概論B	【基礎教育】 □総合教養科目 □健康スポーツ科学 【日本史コースモデル群】 ◎史学概論 ◎日本史通論A	【日本史コースモデル群】 ◎日本史通論B ◎考古学通論 ◎東洋史通論		D P① [知識・理解] ・哲学・歴史学の方法や考え方を通じて、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方を通じて、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方を通じて、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。 C P①	
自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的に取り組む意欲を持っている人	C P② [技能] ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、哲学・歴史学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基礎教育科目の英語科目および初級外国語科目を配置する。専門科目にて中国古典語、ギリシア語、ラテン語の科目を配置する。 ・情報通信技術 (ICT) などを用い哲学・歴史学の方法や考え方を通じて、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、哲学・歴史学の方法や考え方を通じて批判的思考 (クリティカル・シンキング) を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方を通じて、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするため、多様な演習科目を配置し、卒業論文研究につなげる。 D P②、D P④	【基礎教育】 □情報リテラシー科目 □英語科目 □初級外国語 【日本史コースモデル群】 ◎日本史基礎講義1	【基礎教育】 □英語科目 【日本史コースモデル群】 ◎日本史基礎講義2 ◎日本史講義A ◎日本史講義B ◎日本史講義C ◎日本史講義D ◎東洋史基礎講義 ◎世界史講義 ◎世界史講義 ◎東洋史講義A	【日本史コースモデル群】 ◎考古学実習 ◎東洋史講義B		D P② [技能] ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、哲学・歴史学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・情報通信技術 (ICT) などを用い哲学・歴史学の方法や考え方を通じて、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、哲学・歴史学の方法や考え方を通じて批判的思考 (クリティカル・シンキング) を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方を通じて、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。 C P②	歴史学の専門的素養に支えられながら、学校教育、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材として、 大学院進学、 卸売業・小売業 (百貨店、自動車販売、雑貨販売等)、 情報通信業 (マスコミ、システムエンジニアリング等)、 金融業 (銀行等)、 公務員 (国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等)、 サービス業 (人材派遣等)
論理的思考を鍛え新しいもの見方を求めようとする人	C P③ [態度・志向性] ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目や1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外の活動を通してきめ細かに指導する。 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸問題を通して具体的に指導する。 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。D P③、D P④	【基礎教育】 □初年次教育科目 ◎世界史基礎講義 ◎上方文化講座	【日本史コースモデル群】 ○大阪の歴史演習 ○大阪の地域・文化実践演習 ○民俗学	【日本史コースモデル群】 ◎日本史演習A ◎日本史演習B ◎日本史演習C ◎日本史演習D ◎考古学演習 ◎日本史特講A ◎日本史特講B ◎日本史特講C ◎日本史特講D ◎世界史演習 ◎世界史特講 ◎東洋史特講A ○文化人類学		D P③ [態度・志向性] ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。 C P③	
創造的に学べる発展可能性を持つ人	C P④ [統合的な学修経験と創造的思考力] ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。 D P④	【再掲】 【基礎教育】 □初年次教育科目 【日本史コースモデル群】 ※人間文化基礎論1 ※人間文化基礎論2 ※人間文化概論A ※人間文化概論B ◎日本史基礎講義1	【再掲】 【日本史コースモデル群】 ◎史学概論 ◎日本史通論A ◎日本史通論B ◎日本史基礎講義2 ◎日本史講義A ◎日本史講義B ◎日本史講義C ◎日本史講義D ○大阪の歴史演習	【再掲】 【日本史コースモデル群】 ◎日本史通論B ◎日本史通論A ◎日本史演習A ◎日本史演習B ◎日本史演習C ◎日本史演習D ◎考古学実習 ◎日本史特講A ◎日本史特講B ◎日本史特講C ◎日本史特講D	【日本史コースモデル群】 ※卒業論文 ※哲学歴史学研究演習1 ※哲学歴史学研究演習2	D P④ [統合的な学修経験と創造的思考力] ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。 卒業論文を通して、哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修める。 ・明確に課題を設定し、しっかりとした研究方法をもちいて論証することができる。 ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。 ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。 ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。 ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 ・適切に典拠を示しながら論述することができる。 ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができる。 ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができる。 C P②、C P③、C P④	

(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)

文学部 哲学歴史学科 日本史コース (学芸員資格取得) カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会では、これまで人類はどのようにして危機に直面しそれをどう乗り越えてきたかを分析し、持続可能な社会を志向する倫理観、価値観を考察していくことが一層重要となる。そこで求められるのが、人間と文化に対する新たなもの見方と方法に対する原理的反省である。哲学、そして日本史・世界史からなる歴史学は諸学の基礎としての役割を共有しており、哲学的観点と歴史的観点は人間理解のための2つの基本的な座標軸と言える。激しく変動する時代潮流のなかで、人間文化の本質とその普遍的価値を見極め、さらにその変化の意味と方向性を洞察する能力が切実に求められており、哲学と歴史学の学問的追究を基盤とした人材育成が強く希求される。

【養成する人材像】
文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。とくに哲学歴史学科では、人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる人材を養成する。

Table with 5 main columns: アドミッション・ポリシー, カリキュラム・ポリシー, 教育課程 (1-4年次), ディプロマ・ポリシー, 卒業後の進路. It details the curriculum for the Philosophy and History Department, Japanese History Course, including subjects like CP1, CP2, DP1, DP2, DP3, DP4 and various Japanese History model groups.

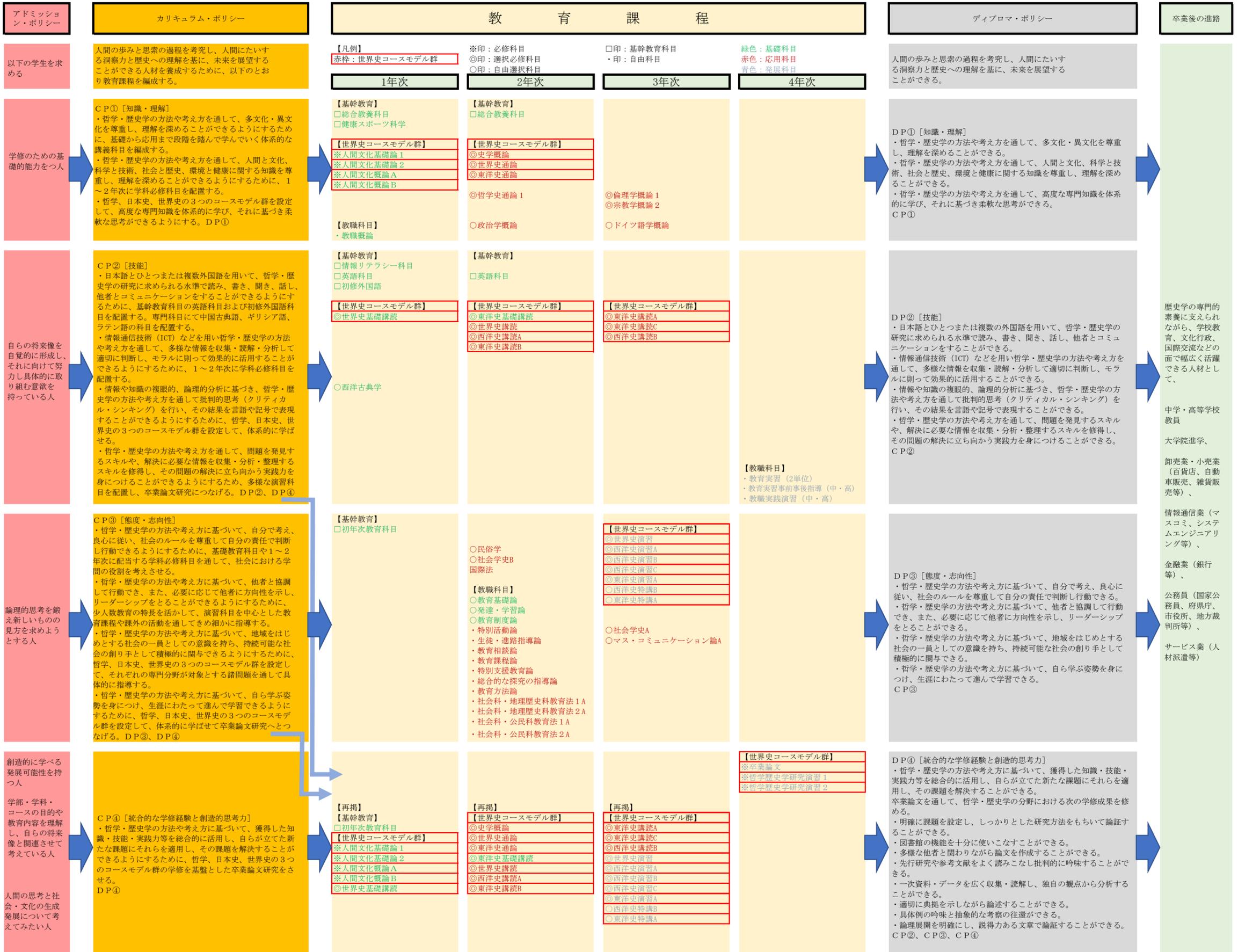
(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして社会の中で貢献する人材を育成する)

文学部 哲学歴史学科 世界史コース カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会では、これまで人類はどのようにして危機に直面しそれをどう乗り越えてきたかを分析し、持続可能な社会を志向する倫理観、価値観を考察していくことが一層重要となる。そこで求められるのが、人間と文化に対する新たなものの見方と方法に対する原理的反省である。哲学、そして日本史・世界史からなる歴史学は諸学の基礎としての役割を共有しており、哲学的観点と歴史的観点は人間理解のための2つの基本的な座標軸と言える。激しく変動する時代潮流のなかで、人間文化の本質とその普遍的価値を見極め、さらにその変化の意味と方向性を洞察する能力が切実に求められており、哲学と歴史学の学問的追究を基盤とした人材育成が強く希求される。

【養成する人材像】
文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。
具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
とくに哲学歴史学科では、人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる人材を養成する。



(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして社会の中で貢献する人材を育成する)

文学部 哲学歴史学科 世界史コース (学芸員資格取得) カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
 予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会では、これまで人類はどのようにして危機に直面しそれをどう乗り越えてきたかを分析し、持続可能な社会を志向する倫理観、価値観を考察していくことが一層重要となる。そこで求められるのが、人間と文化に対する新たなものの見方と方法に対する原理的反省である。哲学、そして日本史・世界史からなる歴史学は諸学の基礎としての役割を共有しており、哲学的観点と歴史的観点は人間理解のための2つの基本的な座標軸と言える。激しく変動する時代潮流のなかで、人間文化の本質とその普遍的価値を見極め、さらにその変化の意味と方向性を洞察する能力が切実に求められており、哲学と歴史学の学問的追究を基盤とした人材育成が強く希求される。

【養成する人材像】
 文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよきや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。
 具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
 とくに哲学歴史学科では、人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程				ディプロマ・ポリシー	卒業後の進路
以下の学生を求める	人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。	【凡例】 赤枠：世界史コースモデル群	※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ○印：自由選択科目	□印：基幹教育科目 ・印：自由科目	緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目	人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる。	
学修のための基礎的能力をつつ人	CP①【知識・理解】 ・哲学・歴史学の方法や考え方を通じて、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。 ・哲学・歴史学の方法や考え方を通じて、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。 DP①	【基幹教育】 □総合教養科目 □健康スポーツ科学 【世界史コースモデル群】 ※人間文化基礎論1 ※人間文化基礎論2 ※人間文化概論A ※人間文化概論B	【基幹教育】 □総合教養科目 【世界史コースモデル群】 ◎史学概論 ◎世界史通論 ◎東洋史通論 ◎哲学史通論1 ◎美術史通論A ◎文化構想学概論A ◎文化構想学概論B ◎社会学概論A 【学芸員科目】 ○博物館概論			DP①【知識・理解】 ・哲学・歴史学の方法や考え方を通じて、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方を通じて、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方を通じて、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。 CP①	
自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的に取り組む意欲を持っている人	CP②【技能】 ・日本語とひとつまたは複数外国語を用いて、哲学・歴史学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基幹教育科目の英語科目および初修外国語科目を配置する。専門科目にて中国古典語、ギリシア語、ラテン語の科目を配置する。 ・情報通信技術（ICT）などを用い哲学・歴史学の方法や考え方を通じて、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、哲学・歴史学の方法や考え方を通じて批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方を通じて、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするため、多様な演習科目を配置し、卒業論文研究につなげる。 DP②、DP④	【基幹教育】 □情報リテラシー科目 □英語科目 □初修外国語 【世界史コースモデル群】 ◎世界史基礎講読 ○西洋古典学	【基幹教育】 □英語科目 【世界史コースモデル群】 ◎東洋史基礎講読 ◎世界史講読 ◎西洋史講読A ◎東洋史講読B ○ギリシア語1 ○ギリシア語2	【世界史コースモデル群】 ◎東洋史講読A ◎東洋史講読C ◎西洋史講読B 【学芸員科目】 ○博物館資料保存論 ○博物館展示論	【学芸員科目】 ・博物館実習1 ・博物館実習2	DP②【技能】 ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、哲学・歴史学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・情報通信技術（ICT）などを用い哲学・歴史学の方法や考え方を通じて、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、哲学・歴史学の方法や考え方を通じて批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方を通じて、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。 CP②	歴史学の専門的素養に支えられながら、学校教育、文化行政、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材として、 学芸員（公務員、博物館、研究所等） 大学院進学、 卸売業・小売業（百貨店、自動車販売、雑貨販売等）、
論理的思考を鍛え新しいものの見方を求めようとする人	CP③【態度・志向性】 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目や1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外の活動を通してきめ細かに指導する。 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸問題を通して具体的に指導する。 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。DP③、DP④	【基幹教育】 □初年次教育科目		【世界史コースモデル群】 ◎世界史演習 ◎西洋史演習A ◎西洋史演習B ◎西洋史演習C ◎東洋史演習A ◎西洋史特講B ◎東洋史特講A ○ドイツ語圏文化論 ○ドイツ語圏言語文化特別演習 ○社会学史A ○マス・コミュニケーション論A 【学芸員科目】 ○博物館経営論 ○博物館資料論 ○博物館教育論 ○博物館情報・メディア論		DP③【態度・志向性】 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。 CP③	情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 金融業（銀行等）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 サービス業（人材派遣等）
創造的に学べる発展可能性を持つ人	CP④【統合的な学修経験と創造的思考力】 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。 DP④	【再掲】 【基幹教育】 □初年次教育科目 【世界史コースモデル群】 ※人間文化基礎論1 ※人間文化基礎論2 ※人間文化概論A ※人間文化概論B ◎世界史基礎講読	【再掲】 【世界史コースモデル群】 ◎史学概論 ◎世界史通論 ◎東洋史通論 ◎東洋史基礎講読 ◎世界史講読 ◎西洋史講読A ◎西洋史講読B ◎東洋史講読B	【再掲】 【世界史コースモデル群】 ◎東洋史講読A ◎東洋史講読C ◎世界史演習 ◎西洋史演習A ◎西洋史演習B ◎西洋史演習C ◎東洋史演習A ◎西洋史特講B ◎東洋史特講A	【世界史コースモデル群】 ※卒業論文 ※哲学歴史学研究演習1 ※哲学歴史学研究演習2	DP④【統合的な学修経験と創造的思考力】 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。 卒業論文を通して、哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修める。 ・明確に課題を設定し、しっかりとした研究方法をもちいて論証することができる。 ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。 ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。 ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。 ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 ・適切に典拠を示しながら論述することができる。 ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができる。 ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができる。 CP②、CP③、CP④	

(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして社会の中で貢献する人材を育成する)

文学部 人間行動学科 社会学コース カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
 あくまでも人間を中心として、一人一人が他者との関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる社会の中では、他者を思いやり、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材が求められる。そのニーズに応えるのが、社会学、心理学、教育学、地理学を基礎とする学際的な人間行動学科である。社会学は、人間の社会生活の諸相、心理学は人間の行動とそれを支える心の働き、教育学は人間の発達と教育的働きかけとの関係、地理学は地域性や景観の形成に対する人間の働きかけをそれぞれに研究するものであるが、それらは、ともに人間の行動の諸側面を対象とし、それらを観察・調査・実験・フィールドワークの科学的手法に基づいて実証的に明らかにすることを旨す点で共通しており、このような学問的追究を基盤とした人材育成が予測不可能な時代、グローバル社会において強く希求される。

【養成する人材像】
 文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよき可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線活躍できる専門職業人を育成する。とくに人間行動学科では、人間や社会を理解するための科学的方法を身につけ、人間行動や人間を取りまく事象を様々な視点から考えることができる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程				ディプロマ・ポリシー	卒業後の進路
以下の学生を求める	人間や社会を理解するための科学的方法を身につけ、人間行動や人間を取りまく事象を様々な視点から考えることができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。	【凡例】 赤枠：社会学コースモデル群 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ○印：自由選択科目 □印：基幹教育科目 ・印：自由科目 緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目				人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる。	
学修のための基礎的能力をつな	CP① [知識・理解] ・人間行動学の方法や考え方を通じて、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。 ・人間行動学の方法や考え方を通じて、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・社会学、心理学、教育学、地理学の4つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。 DP①	【基幹教育】 □総合教養科目 □健康スポーツ科学 【社会学コースモデル群】 ※人間行動学概論A ※人間行動学概論B	【基幹教育】 □総合教養科目 【社会学コースモデル群】 ◎社会学概論A ◎心理学概論1 ◎地理学概論A ◎教育学概論A			DP① [知識・理解] ・人間行動学の方法や考え方を通じて、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。 ・人間行動学の方法や考え方を通じて、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。 ・人間行動学の方法や考え方を通じて、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。 CP①	
自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的に取り組む意欲を持っている人	CP② [技能] ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、人間行動学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基幹教育科目の英語科目および初修外国語科目を配置する。専門科目にて中国古典語、ギリシア語、ラテン語の科目を配置する。 ・情報通信技術（ICT）などを用い人間行動学の方法や考え方を通じて、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、人間行動学の方法や考え方を通じて批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、社会学、心理学、教育学、地理学の4つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。 ・人間行動学の方法や考え方を通じて、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするため、多様な演習科目や実験科目を配置し、卒業論文研究につなげる。 DP②、DP④	【基幹教育】 □情報リテラシー科目 □英語科目 □初修外国語	【基幹教育】 □英語科目 【社会学コースモデル群】 ※人間行動学データ解析法1 ※人間行動学データ解析法2 ◎社会学実習1 ◎社会学実習2 ◎社会学実習3 ◎社会学実習4	【社会学コースモデル群】 ◎社会学実習1 ◎社会学実習2 ◎社会学実習3 ◎社会学実習4		DP② [技能] ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、人間行動学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・情報通信技術（ICT）などを用い人間行動学の方法や考え方を通じて、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、人間行動学の方法や考え方を通じて批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。 ・人間行動学の方法や考え方を通じて、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。 CP②	社会学の専門的素養に支えられながら、学校教育、市民サービス、国際交流などの人間に関わる分野において幅広く活躍できる人材として、 大学院進学、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 金融・保険（銀行、信用金庫、証券、保険等）、 製造業（電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等）、 卸売業・小売業（百貨店、自動車販売、雑貨販売等）
論理的思考を鍛え新しいもの見方を求めようとする人	CP③ [態度・志向性] ・人間行動学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目や1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、他者と協働して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外の活動を通してきめ細かに指導する。 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、社会学、心理学、教育学、地理学の4つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野を対象とする諸問題を通して具体的に指導する。 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、社会学、心理学、教育学、地理学の4つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。DP③、DP④	【基幹教育】 □初年次教育科目	【社会学コースモデル群】 ◎社会学基礎演習2 ◎社会学史A ◎社会学演習1 ◎社会学特論A ◎社会学特論B ◎社会学特論C ○言語文化基礎論A ○哲学史通論1 ○民俗学 ○フランス語圏文化論 ○表象文化論 ○ポピュラー文化論	【社会学コースモデル群】 ◎社会学演習2 ◎社会学演習3 ◎社会学特論D ◎社会学特論E ◎社会学特論F ◎社会学特論G ◎社会学特論H	◎比較・国際教育学 ◎地誌学A ◎マス・コミュニケーション論A ◎文化人類学 ◎広報情報論B ◎社会・集団・家族心理学特論	DP③ [態度・志向性] ・人間行動学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、他者と協働して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。 CP③	
創造的に学べる発展可能性を持つ人 学部・学科・コースの目的や教育内容を理解し、自らの将来像と関連させて考えている人 人間行動の原理と社会のしくみについて考えてみたい人	CP④ [統合的な学修経験と創造的思考力] 人間行動学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らを立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができるようにするために、社会学、心理学、教育学、地理学の4つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。 DP④	【再掲】 【基幹教育】 □初年次教育科目 【社会学コースモデル群】 ※人間行動学概論A ※人間行動学概論B	【再掲】 【社会学コースモデル群】 ◎社会学概論A ※人間行動学データ解析法1 ※人間行動学データ解析法2 ◎社会学実習1 ◎社会学実習2 ◎社会学実習3 ◎社会学実習4 ◎社会学特論A ◎社会学特論B ◎社会学特論C	【再掲】 【社会学コースモデル群】 ◎社会学実習1 ◎社会学実習2 ◎社会学実習3 ◎社会学実習4 ◎社会学特論D ◎社会学特論E ◎社会学特論F ◎社会学特論G ◎社会学特論H	【社会学コースモデル群】 ※卒業論文 ※人間行動学研究演習1 ※人間行動学研究演習2	DP④ [統合的な学修経験と創造的思考力] ・人間行動学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らを立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。 ・卒業論文を通して、人間行動学の分野における次の学修成果を修める。 ・明確に課題を設定し、しっかりとした研究方法をもちいて論証することができる。 ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。 ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。 ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。 ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 ・適切に典拠を示しながら論述することができる。 ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができる。 ・論理展開を明確に④説得力ある文章で論証することができる。 CP④	

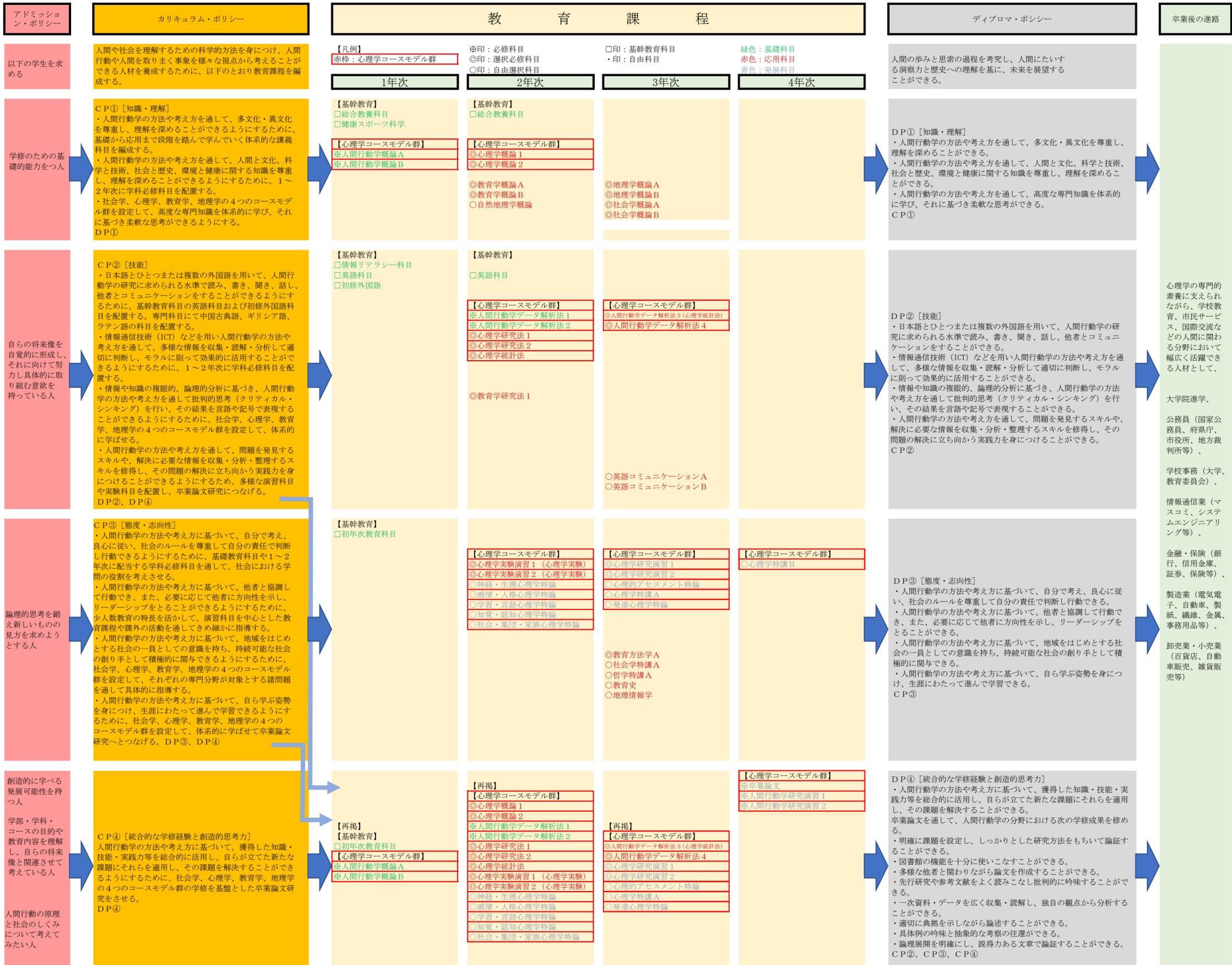
(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして 社会の中で貢献する人材を育成する)

文学部 人間行動学科 心理学コース カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
あくまでも人間を中心として、一人一人が他者との関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる社会の中では、他者を思いやり、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材が求められる。そのニーズに応えるのが、社会学、心理学、教育学、地理学を基盤とする学際的な人間行動学である。社会学は、人間の社会生活の諸相、心理学は人間の行動とそれを支える心の働き、教育学は人間の発達と教育的働きかけとの関係、地理学は地域性や景観の形成に対する人間の働きかけをそれぞれに研究するものであるが、それらは、ともに人間の行動の諸側面を対象とし、それらを観察・調査・実験・フィールドワークの科学的手法に基づいて実証的に明らかにすることを目指す点で共通しており、このような学問的追究を基盤とした人材育成が予測不可能な時代、グローバル社会において強く希求される。

【養成する人材像】
文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。
具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
とくに人間行動学科では、人間や社会を理解するための科学的方法を身につけ、人間行動や人間を取りまく事象を様々な視点から考えることができる人材を養成する。



(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして 社会の中で貢献する人材を育成する)

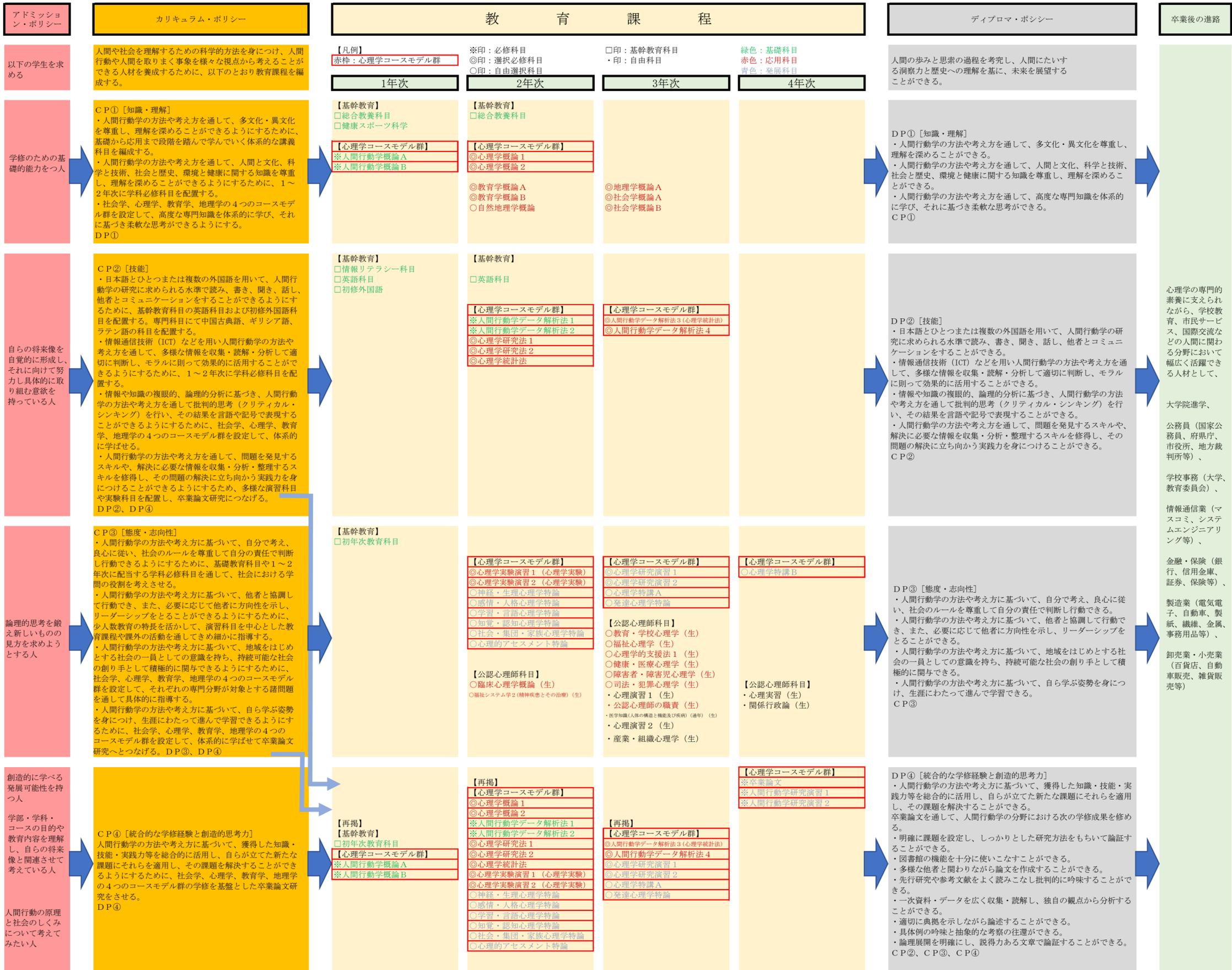
文学部 人間行動学科 心理学コース（公認心理師資格取得）カリキュラムマップ

【設置の趣旨】

あくまでも人間を中心として、一人一人が他者との関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる社会の中では、他者を思いやり、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材が求められる。そのニーズに応えるのが、社会学、心理学、教育学、地理学を基盤とする学際的な人間行動学科である。

【養成する人材像】

文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。



(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして 社会の中で貢献する人材を育成する)

文学部 人間行動学科 教育学コース カリキュラムマップ

【設置の趣旨】

あくまでも人間を中心として、一人一人が他者との関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる社会の中では、他者を思いやり、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材が求められる。そのニーズに応えるのが、社会学、心理学、教育学、地理学を基盤とする学際的な人間行動学科である。社会学は、人間の社会生活の諸相、心理学は人間の行動とそれを支える心の働き、教育学は人間の発達と教育的働きかけとの関係、地理学は地域性や景観の形成に対する人間の働きかけをそれぞれに研究するものであるが、それらは、ともに人間の行動の諸側面を対象とし、それらを観察・調査・実験・フィールドワークの科学的手法に基づいて実証的に明らかにすることを旨とする点で共通しており、このような学問的追究を基盤とした人材育成が予測不可能な時代、グローバル社会において強く希求される。

【養成する人材像】

文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。とくに人間行動学科では、人間や社会を理解するための科学的方法を身につけ、人間行動や人間を取りまく事象を様々な視点から考えることのできる人材を養成する。

Table with 5 main columns: アドミッション・ポリシー, カリキュラム・ポリシー, 教育課程 (1-4 years), ディプロマ・ポリシー, 卒業後の進路. It details the curriculum and learning outcomes for the Education Course in the Department of Literature, Faculty of Letters.

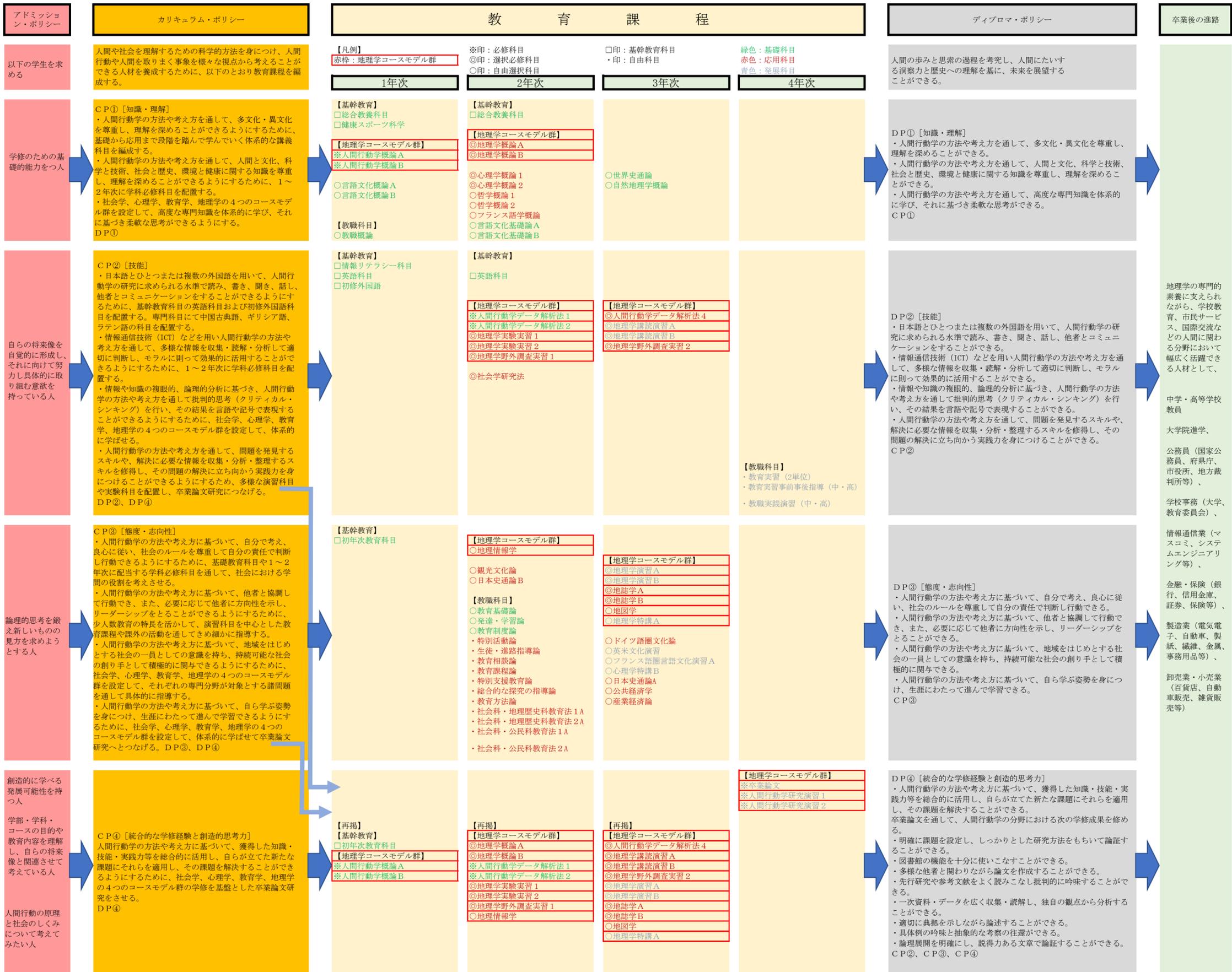
(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして 社会の中で貢献する人材を育成する)

文学部 人間行動学科 地理学コース カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
あくまでも人間を中心として、一人一人が他者との関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる社会の中では、他者を思いやり、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材が求められる。そのニーズに応えるのが、社会学、心理学、教育学、地理学を基盤とする学際的な人間行動学科である。社会学は、人間の社会生活の諸相、心理学は人間の行動とそれを支える心の働き、教育学は人間の発達と教育的働きかけとの関係、地理学は地域性や景観の形成に対する人間の働きかけをそれぞれに研究するものであるが、それらは、ともに人間の行動の諸側面を対象とし、それらを観察・調査・実験・フィールドワークの科学的手法に基づいて実証的に明らかにすることを旨とする点で共通しており、このような学問的追究を基盤とした人材育成が予測不可能な時代、グローバル社会において強く希求される。

【養成する人材像】
文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。
具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
とくに人間行動学科では、人間や社会を理解するための科学的方法を身につけ、人間行動や人間を取りまく事象を様々な視点から考えることのできる人材を養成する。



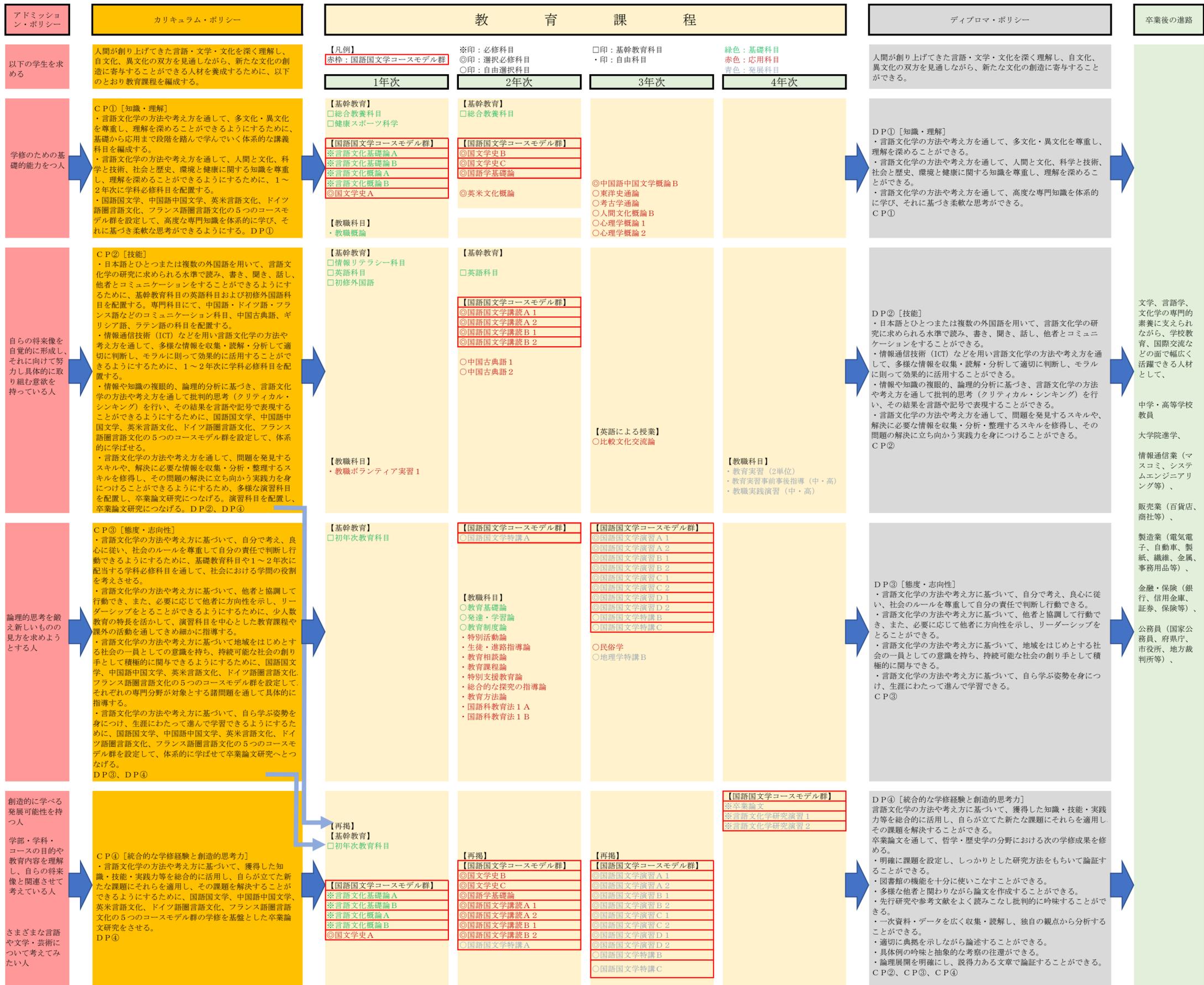
(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして 社会の中で貢献する人材を育成する)

文学部 言語文化学科 国語国文学コース カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人間の歴史的営為の所産である文化を言語を通して根源的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学科である。グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化、それぞれの言語、文学、文化、社会の視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材として育てていくことが強く求められている。

【養成する人材像】
文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。
具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身に付け、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
とくに言語文化学科では、人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる人材を養成する。



(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)

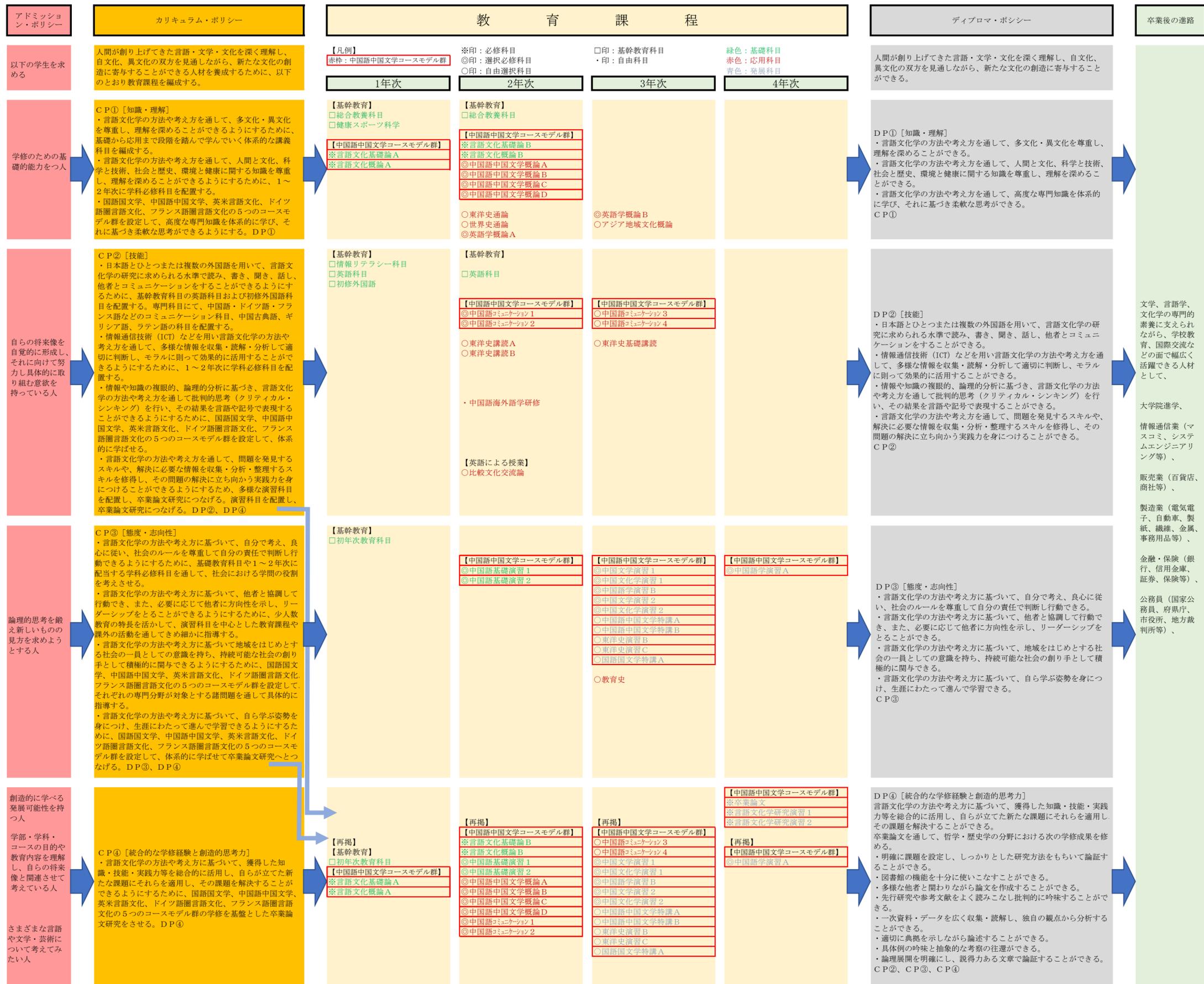
文学部 言語文化学科 中国語中国文学コース カリキュラムマップ

【設置の趣旨】

予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史的営為の所産である文化を言語を通じて根源的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学科である。グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化、それぞれの言語、文学、文化、社会の視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材として育てていくことが強く求められている。

【養成する人材像】

文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身に付け、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。とくに言語文化学科では、人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる人材を養成する。



(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)

文学部 言語文化学科 中国語中国文学コース (学芸員資格取得) カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史的営為の所産である文化を言語を通して根源的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学科である。グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化、それぞれの言語、文学、文化、社会の視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材として育っていくことが強く求められている。

【養成する人材像】
文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。
具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身に付け、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
とくに言語文化学科では、人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる人材を養成する。

Table with 5 main columns: アドミッション・ポリシー, カリキュラム・ポリシー, 教 育 課 程 (1-4 years), ディプロマ・ポリシー, 卒業後の進路. It details the curriculum and learning outcomes for the Chinese Language and Literature program.

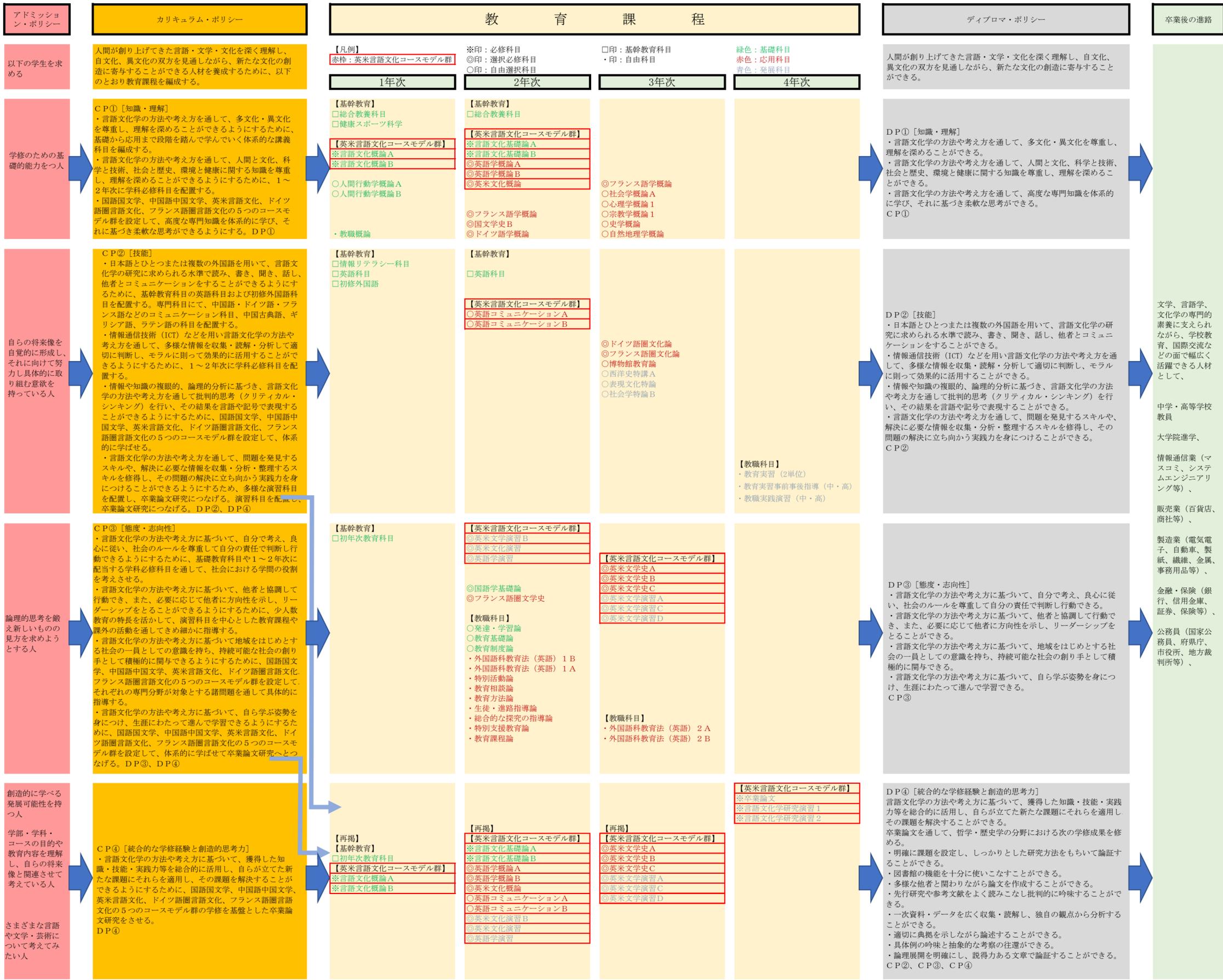
(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)

文学部 言語文化学科 英米言語文化コース カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史的営為の所産である文化を言語を通じて根源的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学科である。グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化、それぞれの言語、文学、文化、社会の視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材として育てていくことが強く求められている。

【養成する人材像】
文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。
具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
とくに言語文化学科では、人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる人材を養成する。



(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)

文学部 言語文化学科 ドイツ圏言語文化コース (標準) カリキュラムマップ

【設置の趣旨】

予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史的営為の所産である文化を言語を通じて根源的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学科である。グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化、それぞれの言語、文学、文化、社会の視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材として育っていくことが強く求められている。

【養成する人材像】

文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。とくに言語文化学科では、人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる人材を養成する。

Table with columns: アドミッション・ポリシー, カリキュラム・ポリシー, 教育課程 (1-4年次), ディプロマ・ポリシー, 卒業後の進路. Rows describe learning goals like '基礎的能力をつなぐ', '自らの将来像を自覚的に形成し...', '論理的思考を鍛え...', '創造的に学べる...', and 'さまざまな言語や文学・芸術について考えてみたい人'.

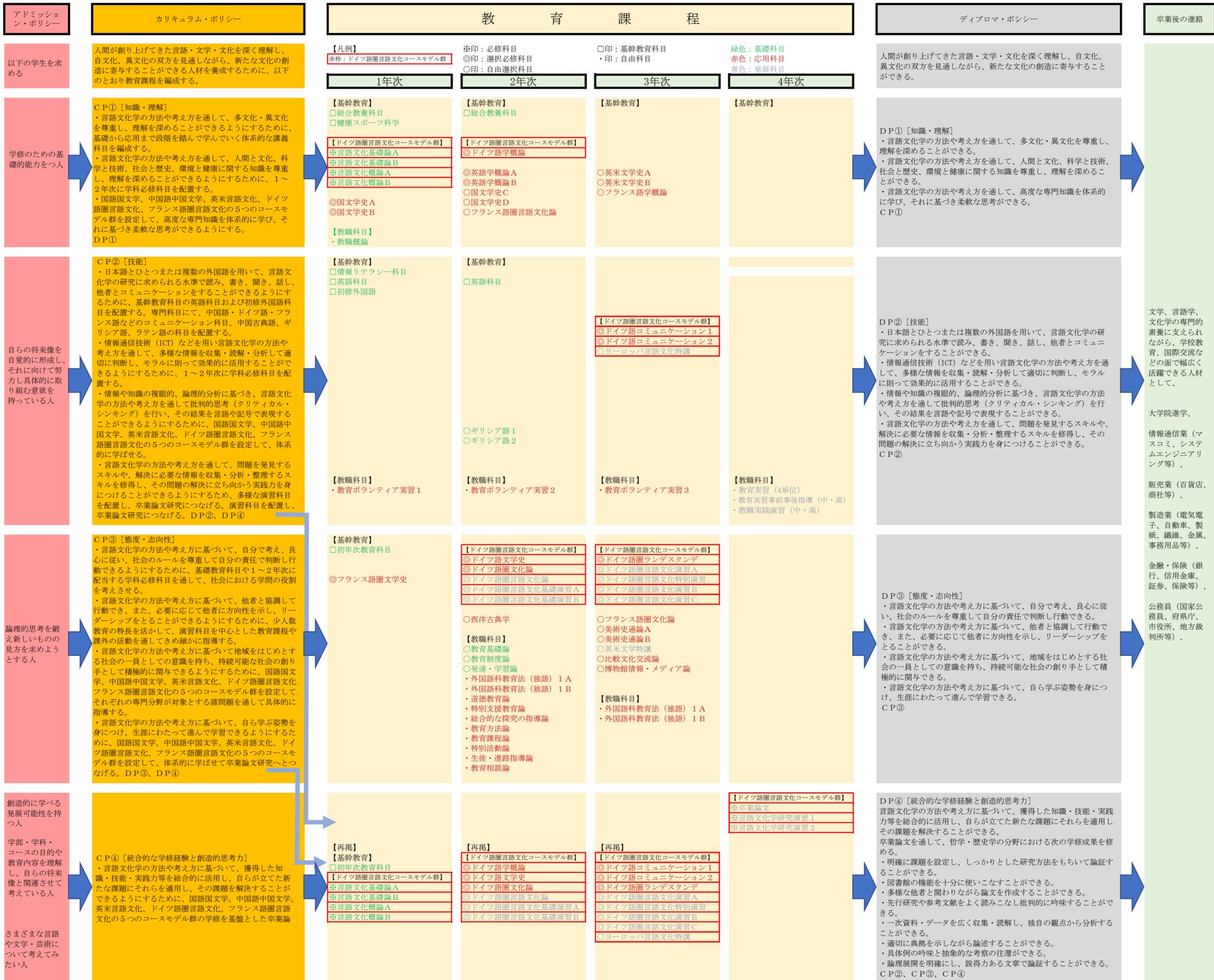
(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)

文学部 言語文化学科 ドイツ語圏言語文化コース (教員免許取得) カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史的営為の所産である文化を言語を通じて根源的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学科である。グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化、それぞれの言語、文学、文化、社会の視点から学問的な探究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材として育てていくことが強く求められている。

【養成する人材像】
文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。
具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身に付け、国際的・歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
とくに言語文化学科では、人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる人材を養成する。



(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)

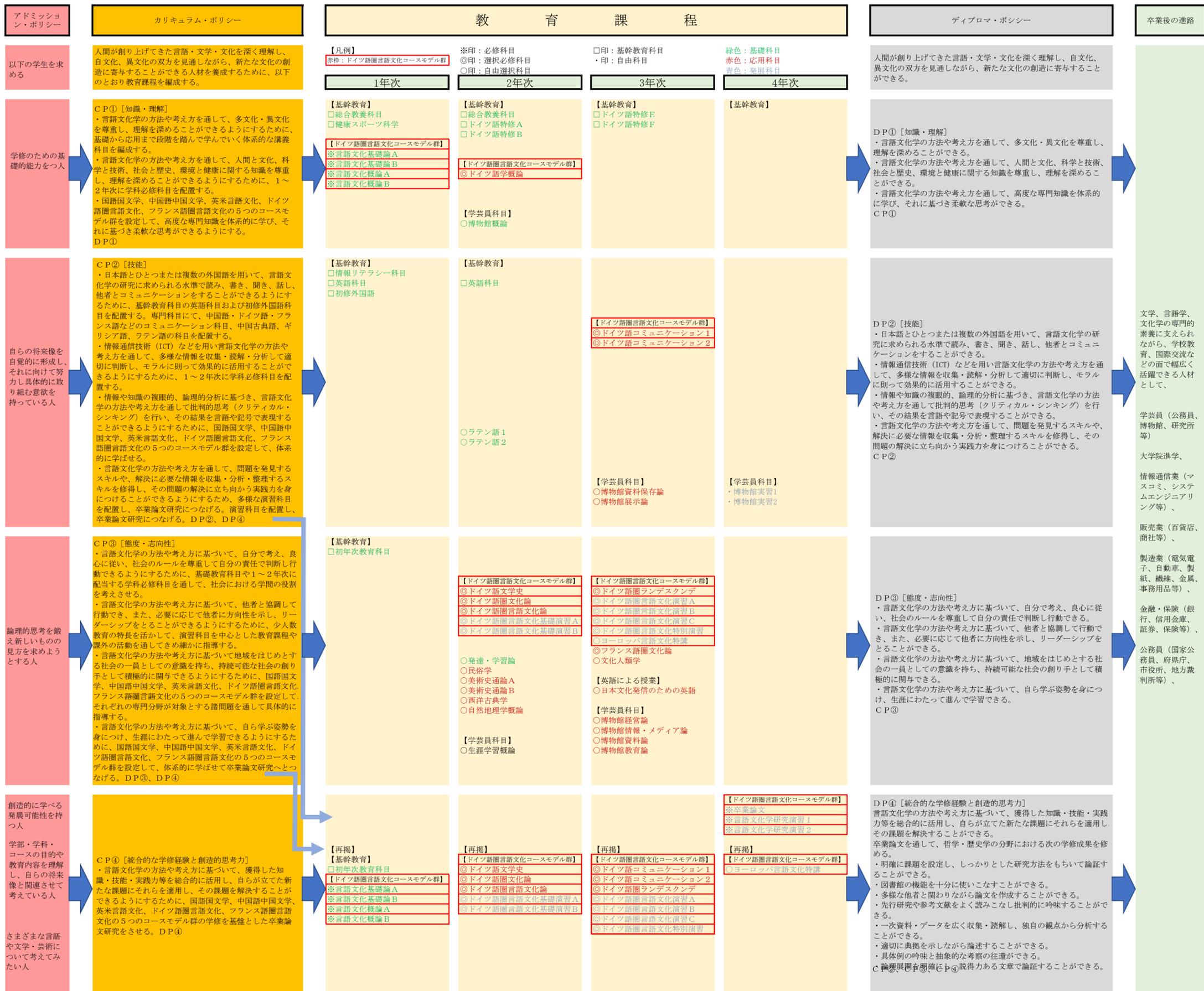
文学部 言語文化学科 ドイツ語圏言語文化コース (学芸員資格取得) カリキュラムマップ

【設置の趣旨】

予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史的営為の産物である文化を言語を通じて根源的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学科である。グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化、それぞれの言語、文学、文化、社会の視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材として育っていくことが強く求められている。

【養成する人材像】

文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。とくに言語文化学科では、人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる人材を養成する。



(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)

文学部 言語文化学科 フランス語圏言語文化コース (教員免許取得) カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
 予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史的営為の所産である文化を言語を通じて根源的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学科である。グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化、それぞれの言語、文学、文化、社会の視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材として育っていくことが強く求められている。

【養成する人材像】
 文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。とくに言語文化学科では、人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程				ディプロマ・ポリシー	卒業後の進路	
以下の学生を求める	人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。	【凡例】 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ○印：選択必修科目 □印：基礎教育科目 ・印：自由科目 緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目	1年次	2年次	3年次	4年次	人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる。	
学修のための基礎的能力をつな	CP① [知識・理解] ・言語文化学の方法や考え方を通じて、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。 ・言語文化学の方法や考え方を通じて、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。DP①	【基礎教育】 □総合教養科目 □健康スポーツ科学 【フランス語圏言語文化コースモデル群】 ※言語文化基礎論A ※言語文化基礎論B ※言語文化概論A ※言語文化概論B ○人間文化概論A ○人間行動学概論A ○文化構想学概論A ○人間文化基礎論2 ○文化構想学概論B ・教職概論	【基礎教育】 □総合教養科目 【フランス語圏言語文化コースモデル群】 ◎フランス語学概論 ◎英米文化概論 ◎英語学概論B				DP① [知識・理解] ・言語文化学の方法や考え方を通じて、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。 ・言語文化学の方法や考え方を通じて、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。 ・言語文化学の方法や考え方を通じて、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。CP①	
自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的に取り組む意欲を持っている人	CP② [技能] ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、言語文化学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基礎教育科目の英語科目および初修外国語科目を配置する。専門科目にて、中国語・ドイツ語・フランス語などのコミュニケーション科目、中国古典語、ギリシア語、ラテン語の科目を配置する。 ・情報通信技術 (ICT) などを用い言語文化学の方法や考え方を通じて、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、言語文化学の方法や考え方を通じて批判的思考 (クリティカル・シンキング) を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。 ・言語文化学の方法や考え方を通じて、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするため、多様な演習科目を配置し、卒業論文研究につなげる。演習科目を配置し、卒業論文研究につなげる。DP②、DP④	【基礎教育】 □情報リテラシー科目 □英語科目 □初修外国語 ○ラテン語1	【基礎教育】 □英語科目 ○ラテン語1	【フランス語圏言語文化コースモデル群】 ◎フランス語コミュニケーション1 ◎フランス語コミュニケーション2	【フランス語圏言語文化コースモデル群】 ◎フランス語コミュニケーション3 ◎フランス語コミュニケーション4	【教職科目】 ・教育実習 (4単位) ・教育実習事前事後指導 (中・高) ・教職実践演習 (中・高)	DP② [技能] ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、言語文化学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・情報通信技術 (ICT) などを用い言語文化学の方法や考え方を通じて、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、言語文化学の方法や考え方を通じて批判的思考 (クリティカル・シンキング) を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。 ・言語文化学の方法や考え方を通じて、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。CP②	文学、言語学、文化学等の専門的素養に支えられながら、学校教育、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材として、 中学・高等学校教員 大学院進学、 情報通信業 (マスコミ、システムエンジニアリング等)、 販売業 (百貨店、商社等)、 製造業 (電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等)、 金融・保険 (銀行、信用金庫、証券、保険等)、 公務員 (国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等)、
論理的思考を鍛え新しいもの見方を求めようとする人	CP③ [態度・志向性] ・言語文化学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目や1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問的役割を考えさせる。 ・言語文化学の方法や考え方に基いて、他者と協働して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外の活動を通してきめ細かに指導する。 ・言語文化学の方法や考え方に基いて地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸問題を通して具体的に指導する。 ・言語文化学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究につなげる。DP③、DP④	【基礎教育】 □初年次教育科目 【フランス語圏言語文化コースモデル群】 ◎フランス語圏文学史	【フランス語圏言語文化コースモデル群】 ◎フランス語圏言語文化基礎演習A ◎フランス語圏言語文化基礎演習B ◎フランス語圏言語文化基礎演習C ◎フランス語圏文化論 ◎エチュード・フランコフォーム ◎ドイツ語圏言語文化論 ◎ドイツ語圏文学史 ◎英米文学史B 【教職科目】 ○教育基礎論 ○教育制度論 ○発達・学習論 ・外国語科教育法 (仏語) 1A ・外国語科教育法 (仏語) 1B ・道徳教育論 ・特別支援教育論 ・総合的な探究の指導論 ・教育方法論 ・教育課程論 ・特別活動論 ・生徒・進路指導論 ・教育相談論	【フランス語圏言語文化コースモデル群】 ◎フランス語圏言語文化演習A ◎フランス語圏言語文化演習B ◎フランス語圏言語文化演習C ◎フランス語圏言語文化演習D ◎フランス語圏言語文化特別演習 ◎フランス語圏言語文化論 ◎インターカルチュラルスタディーズA ◎インターカルチュラルスタディーズB ◎ヨーロッパ言語文化特講	○英語学特講 ○英米文化特講 ○美術史論A	【教職科目】 ・外国語科教育法 (仏語) 2A ・外国語科教育法 (仏語) 2B	DP③ [態度・志向性] ・言語文化学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。 ・言語文化学の方法や考え方に基いて、他者と協働して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。 ・言語文化学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。 ・言語文化学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。CP③	
創造的に学べる発展可能性を持つ人	CP④ [統合的な学修経験と創造的思考力] ・言語文化学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができるようにするために、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。DP④	【再掲】 【基礎教育】 □初年次教育科目 【フランス語圏言語文化コースモデル群】 ※言語文化基礎論A ※言語文化基礎論B ※言語文化概論A ※言語文化概論B	【再掲】 【フランス語圏言語文化コースモデル群】 ◎フランス語学概論 ◎フランス語圏言語文化基礎演習A ◎フランス語圏言語文化基礎演習B ◎フランス語圏文化論 ◎エチュード・フランコフォーム	【再掲】 【フランス語圏言語文化コースモデル群】 ◎フランス語コミュニケーション1 ◎フランス語コミュニケーション2	【再掲】 【フランス語圏言語文化コースモデル群】 ◎フランス語コミュニケーション3 ◎フランス語コミュニケーション4	【フランス語圏言語文化コースモデル群】 ※卒業論文 ※言語文化研究演習1 ※言語文化研究演習2	DP④ [統合的な学修経験と創造的思考力] 言語文化学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。 卒業論文を通して、哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修める。 ・明確に課題を設定し、しっかりとした研究方法をもちいて論証することができる。 ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。 ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。 ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。 ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 ・適切に典拠を示しながら論述することができる。 ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができる。 ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができる。CP②、CP③、CP④	

(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)

文学部 文化構想学科 表現文化コース カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
 文化構想学科は、文化を積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高め、文化をもって21世紀型成熟社会における諸課題の解決をはかることのできる人材を育成する。従来の文化研究においては、文化はあくまでも研究対象であり、それを活用するという視点は必ずしも重視されてこなかった。それにたいして本学科では、さまざまな場で活用される文化や文化的コンテンツに関する研究、日本を含めたアジア地域における文化活用の実践についての比較研究、実践的・課題解決的な文化活用の方策についての研究等の観点から、文化や文化的コンテンツの表現そのものから社会的活用に至るまでの一連の過程について、教育、研究を進めていく。文化の社会的活用について修得した専門人材は、従来の人文系諸分野においては今後の必要性に比して必ずしも十分に輩出されてきたとは言いがたい。ビジネスの素材や集客のための訴求力として、対外的なソフトパワーとして、共生的社会実現のための土台としてなど、文化が活用される場は多岐にわたる。これらはいずれも現代社会における重要な課題となっているものであり、本学科の教育、研究は、現代社会の課題解決にも大きく寄与するものである。

【養成する人材像】
 文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の手法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることのできる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程				ディプロマ・ポリシー	卒業後の進路
以下の学生を求める	文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることのできる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。	【凡例】 赤枠：表現文化コースモデル群 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ○印：自由選択科目	※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ○印：自由選択科目	○印：基礎教育科目 ・印：自由科目	緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目	文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる。	
学修のための基礎的能力をつな	C P① [知識・理解] ・文化構想学の手法や考え方を通じて、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。 ・文化構想学の手法や考え方を通じて、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。 D P①	【基礎教育】 <input type="checkbox"/> 総合教養科目 <input type="checkbox"/> 健康スポーツ科学 【表現文化コースモデル群】 ※文化構想学概論A ※文化構想学概論B ○言語文化概論A ○言語文化概論B	【基礎教育】 <input type="checkbox"/> 総合教養科目 【表現文化コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ◎文化理論 ○社会学概論A ○社会学概論B ○国文学史A	○美学概論2		D P① [知識・理解] ・文化構想学の手法や考え方を通じて、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。 ・文化構想学の手法や考え方を通じて、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。 ・文化構想学の手法や考え方を通じて、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。 C P①	
自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的に取り組む意欲を持っている人	C P② [技能] ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、文化構想学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基礎教育科目の英語科目および初修外国語科目を配置する。 ・情報通信技術（ICT）などを用い文化構想学の手法や考え方を通じて、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、文化構想学の手法や考え方を通じて批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。 ・文化構想学の手法や考え方を通じて、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするため、多様な演習科目や実験科目を配置し、卒業論文研究につなげる。 D P②、D P④	【基礎教育】 <input type="checkbox"/> 情報リテラシー科目 <input type="checkbox"/> 英語科目 <input type="checkbox"/> 初修外国語 【表現文化コースモデル群】 ◎表現文化論基礎演習 ◎表象文化論演習 ◎ポピュラー文化論演習	【基礎教育】 <input type="checkbox"/> 英語科目 【表現文化コースモデル群】 ◎文化理論演習 ◎比較表現理論演習 ◎テキスト文化論演習	○文化理論演習	○英語文化論演習	D P② [技能] ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、文化構想学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・情報通信技術（ICT）などを用い文化構想学の手法や考え方を通じて、多様な情報を収集・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、文化構想学の手法や考え方を通じて批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。 ・文化構想学の手法や考え方を通じて、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・読解・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。 C P②	表現文化学の専門的素養に支えられながら、学校教育、文化施設、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材として、 大学院進学、 博物館・美術館学芸員、 サービス業（人材派遣、観光業等）、 広告代理店、コンサルティング、
論理的思考を鍛え新しいもの見方を求めようとする人	C P③ [態度・志向性] ・文化構想学の手法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目や1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。 ・文化構想学の手法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外の活動を通してきめ細かに指導する。 ・文化構想学の手法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸問題を通して具体的に指導する。 ・文化構想学の手法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。 D P③、D P④	【基礎教育】 <input type="checkbox"/> 初年次教育科目 ○上方文化講座	【表現文化コースモデル群】 ◎表象文化論 ◎ポピュラー文化論 ◎舞台芸術文化論 ◎文化デザイン論 ○ドイツ語圏言語文化論 ○美術史通論A	【表現文化コースモデル群】 ◎テキスト文化論 ◎表現文化論特殊演習1 ◎表象文化特論 ○文化資源特論A ○アジア文化特論A ○文化資源特論B ○アジア文化特論B ○民俗学 ○美学概論1 ○マス・コミュニケーション論A ○美術史通論B 【英語による授業】 ○比較文化交流論	○文化資源特論A ○アジア文化特論A ○文化資源特論B ○アジア文化特論B ○民俗学 ○美学概論1 ○マス・コミュニケーション論A ○美術史通論B 【英語による授業】 ○比較文化交流論	D P③ [態度・志向性] ・文化構想学の手法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。 ・文化構想学の手法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。 ・文化構想学の手法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。 ・文化構想学の手法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。 C P③	卸売業・小売業（百貨店、自動車販売、 雑貨販売等）、 製造業（電気電子、 自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等）
創造的に学べる発展可能性を持つ人 学部・学科・コースの目的や教育内容を理解し、自らの将来像と関連させて考えている人 さまざまな文化的営みを社会のなかで活かす方法を考えてみたい人	C P④ [統合的な学修経験と創造的思考力] ・文化構想学の手法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。 D P④	【再掲】 【基礎教育】 <input type="checkbox"/> 初年次教育科目 【表現文化コースモデル群】 ※文化構想学概論A ※文化構想学概論B	【再掲】 【表現文化コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ◎文化理論 ◎表現文化論基礎演習 ◎表象文化論演習 ◎ポピュラー文化論演習 ◎表象文化論 ◎ポピュラー文化論	【再掲】 【表現文化コースモデル群】 ◎文化理論演習 ◎比較表現理論演習 ◎テキスト文化論演習 ◎テキスト文化論 ◎表現文化論特殊演習1 ◎表現文化論特殊演習2 ◎表象文化特論	【表現文化コースモデル群】 ※卒業論文 ※文化構想学研究演習1 ※文化構想学研究演習2	D P④ [統合的な学修経験と創造的思考力] ・文化構想学の手法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。 ・卒業論文を通して、哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修める。 ・明確に課題を設定し、しっかりとした研究方法をもちいて論証することができる。 ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。 ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。 ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。 ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 ・適切に典拠を示しながら論述することができる。 ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができる。 ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができる。 C P②、C P③、C P④	体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する

（コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる）

（体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する）

文学部 文化構想学科 表現文化コース (学芸員資格取得) カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
文化構想学科は、文化を積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高め、文化をもって21世紀型成熟社会における諸課題の解決をはかることのできる人材を育成する。従来の文化研究においては、文化はあくまでも研究対象であり、それを活用するという視点は必ずしも重視されてこなかった。それにたいして本学科では、さまざまな場面で活用される文化や文化的コンテンツに関する研究、日本を含めたアジア地域における文化活用の実践についての比較研究、実践的・課題解決的な文化活用の方策についての研究等の観点から、文化や文化的コンテンツの表現そのものから社会的活用に至るまでの一連の過程について、教育、研究を進めていく。文化の社会的活用について修得した専門人材は、従来の人文系諸分野においては今後の必要性に比して必ずしも十分に輩出されてきたとは言いがたい。ビジネスの素材や集客のための訴求力として、対外的なソフトパワーとして、共生的社会実現のための土台としてなど、文化が活用される場は多岐にわたる。これらはいずれも現代社会における重要な課題となっているものであり、本学科の教育、研究は、現代社会の課題解決にも大きく寄与するものである。

【養成する人材像】
文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。
具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
とくに文化構想学科では、文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることのできる人材を養成する。

Table with columns: アドミッション・ポリシー, カリキュラム・ポリシー, 教育課程 (1-4年次), ディプロマ・ポリシー, 卒業後の進路. Rows describe student goals and curriculum details.

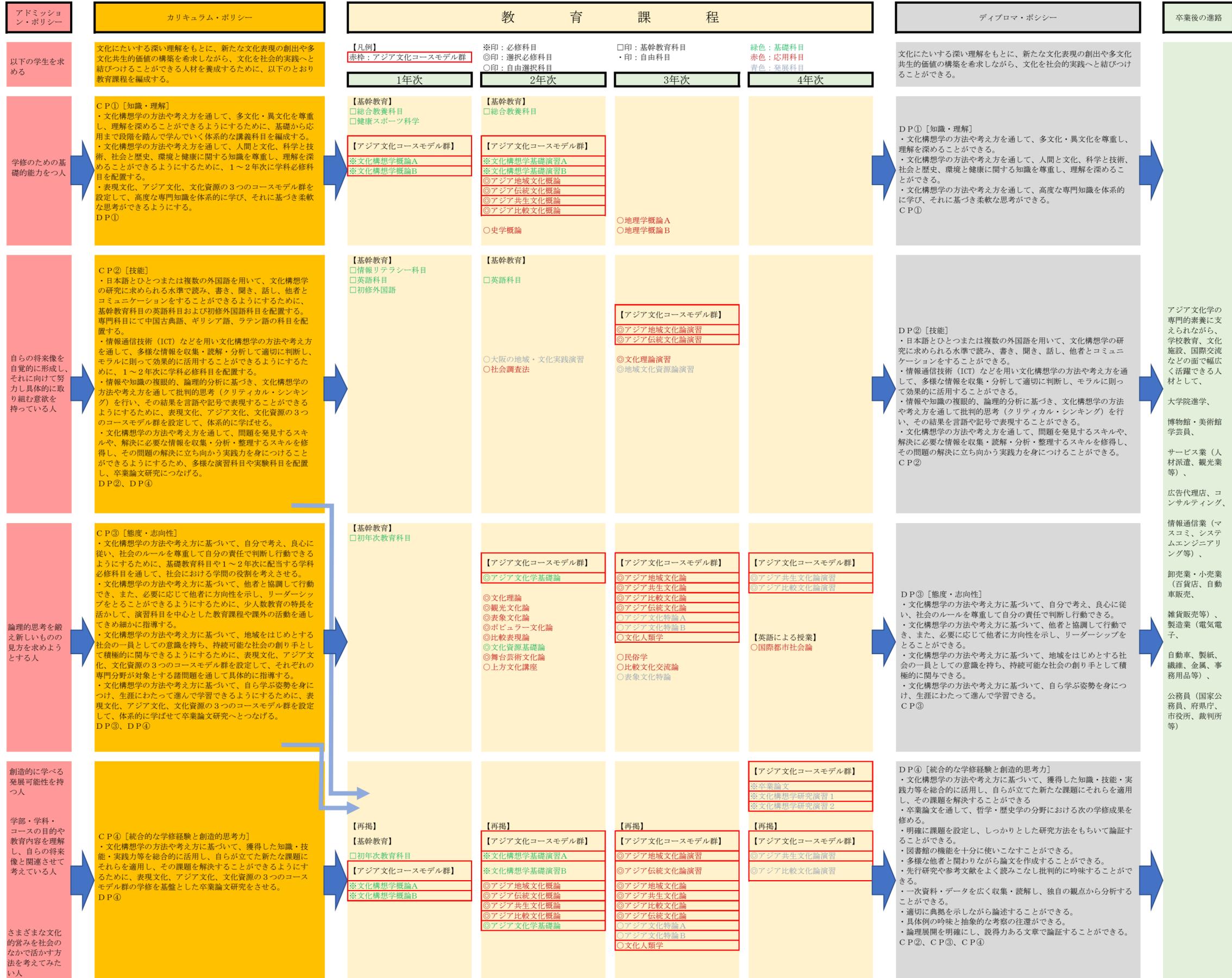
(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)

文学部 文化構想学科 アジア文化コース カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
文化構想学科は、文化を積極的に活用することで文化のつよさをさらに高め、文化をもって21世紀型成熟社会における諸課題の解決をはかることのできる人材を育成する。従来の文化研究においては、文化はあくまでも研究対象であり、それを活用するという視点は必ずしも重視されてこなかった。それにたいして本学科では、さまざまな場で活用される文化や文化的コンテンツに関する研究、日本を含めたアジア地域における文化活用の実際についての比較研究、実践的・課題解決的な文化活用の方策についての研究等の観点から、文化や文化的コンテンツの表現そのものから社会的活用に至るまでの一連の過程について、教育、研究を進めていく。文化の社会的活用について修得した専門人材は、従来の人文系諸分野においては今後の必要性に比して必ずしも十分に輩出されてきたとは言いがたい。ビジネスの素材や集客のための訴求力として、対外的なソフトパワーとして、共生的社会実現のための土台としてなど、文化が活用される場は多岐にわたる。これらはいずれも現代社会における重要な課題となっているものであり、本学科の教育、研究は、現代社会の課題解決にも大きく寄与するものである。

【養成する人材像】
文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。
具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身に付け、国際的・歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
とくに文化構想学科では、文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることのできる人材を養成する。



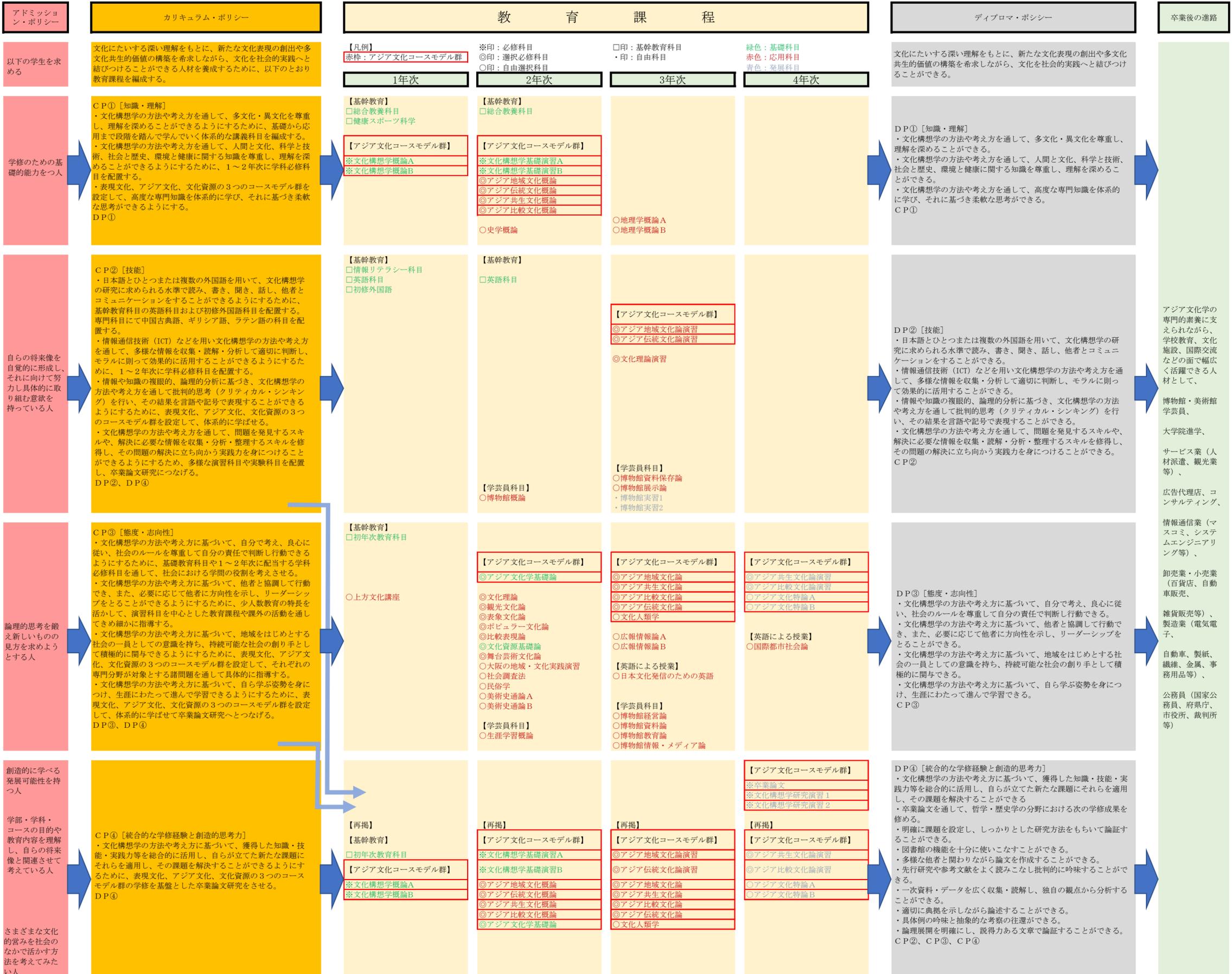
(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)

文学部 文化構想学科 アジア文化コース (学芸員資格取得) カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
文化構想学科は、文化を積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高め、文化をもって21世紀型成熟社会における諸課題の解決をはかることのできる人材を育成する。従来の文化研究においては、文化はあくまでも研究対象であり、それを活用するという視点は必ずしも重視されてこなかった。それにたいして本学科では、さまざまな場面で活用される文化や文化的コンテンツに関する研究、日本を含めたアジア地域における文化活用の実際についての比較研究、実践的・課題解決的な文化活用の方策についての研究等の観点から、文化や文化的コンテンツの表現そのものから社会的活用に至るまでの一連の過程について、教育、研究を進めていく。文化の社会的活用について修得した専門人材は、従来の人文系諸分野においては今後の必要性に比して必ずしも十分に輩出されてきたとは言いがたい。ビジネスの素材や集客のための訴求力として、対外的なソフトパワーとして、共生的社会実現のための土台としてなど、文化が活用される場は多岐にわたる。これらはいずれも現代社会における重要な課題となっているものであり、本学科の教育、研究は、現代社会の課題解決にも大きく寄与するものである。

【養成する人材像】
文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。
具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的・歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
とくに文化構想学科では、文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることのできる人材を養成する。



(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)

文部省 文化構想学科 アジア文化コース (研究者志望タイプ) カリキュラムマップ

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程				ディプロマ・ポリシー	卒業後の進路
以下の学生を求める	文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。	【凡例】 赤枠：アジア文化コースモデル群	※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ○印：自由選択科目	□印：基幹教育科目 ・印：自由科目	緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目	文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる。	
学修のための基礎的能力をつな	C P① [知識・理解] ・文化構想学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。 D P①	【基幹教育】 □総合教養科目 □健康スポーツ科学 【アジア文化コースモデル群】 ※文化構想学概論A ※文化構想学概論B	【基幹教育】 □総合教養科目 【アジア文化コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ◎アジア地域文化概論 ◎アジア伝統文化概論 ◎アジア共生文化概論 ◎アジア比較文化概論			D P① [知識・理解] ・文化構想学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。 C P①	
自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的に取り組む意欲を持っている人	C P② [技能] ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、文化構想学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基幹教育科目の英語科目および初修外国語科目を配置する。 ・情報通信技術 (ICT) などを用い文化構想学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、文化構想学の方法や考え方を通して批判的思考 (クリティカル・シンキング) を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするため、多様な演習科目や実験科目を配置し、卒業論文研究につなげる。 D P②、D P④	【基幹教育】 □情報リテラシー科目 □英語科目 □初修外国語 ○中国語基礎演習 1 ○中国語基礎演習 2 ○中国語コミュニケーション 1 ○中国語コミュニケーション 2	【基幹教育】 □英語科目 ○中国語基礎演習 1 ○中国語基礎演習 2 ○中国語コミュニケーション 1 ○中国語コミュニケーション 2 ○中国語コミュニケーション 2	【アジア文化コースモデル群】 ◎アジア地域文化論演習 ◎アジア伝統文化論演習 ○中国学演習 1 ○中国学文化演習 1 ○中国古典語 1 ○中国古典語 2	【英語による授業】 ○比較文化交流論 【英語による授業】 ○国際都市社会論	D P② [技能] ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、文化構想学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・情報通信技術 (ICT) などを用い文化構想学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、文化構想学の方法や考え方を通して批判的思考 (クリティカル・シンキング) を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・読解・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。 C P②	アジア文化学の専門的素養に支えられながら、学校教育、文化施設、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材として、 大学院進学、 博物館・美術館学芸員、 サービス業 (人材派遣、観光業等)、 広告代理店、コンサルティング、 情報通信業 (マスコミ、システムエンジニアリング等)、 卸売業・小売業 (百貨店、自動車販売、 雑貨販売等)、 製造業 (電気電子、 自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等)、 公務員 (国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等)
論理的思考を鍛え新しいもの見方を求めようとする人	C P③ [態度・志向性] ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目や1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外の活動を通してきめ細かに指導する。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸問題を通して具体的に指導する。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。 D P③、D P④	【基幹教育】 □初年次教育科目 【アジア文化コースモデル群】 ◎アジア文化学基礎論 ◎テキスト文化論 ◎文化理論 ◎観光文化論 ◎表象文化論 ◎ポピュラー文化論 ◎比較表現論 ◎文化資源基礎論 ◎舞台芸術文化論 ◎東洋史通論 ◎東洋史基礎講義 ◎美術史通論 A ○上方文化講座	【アジア文化コースモデル群】 ◎アジア文化学基礎論 ◎テキスト文化論 ◎文化理論 ◎観光文化論 ◎表象文化論 ◎ポピュラー文化論 ◎比較表現論 ◎文化資源基礎論 ◎舞台芸術文化論 ◎東洋史通論 ◎東洋史基礎講義 ◎美術史通論 A ○上方文化講座	【アジア文化コースモデル群】 ◎アジア地域文化論 ◎アジア共生文化論 ◎アジア比較文化論 ◎アジア伝統文化論 ◎アジア文化特論 A ◎アジア文化特論 B ◎文化人類学 ○民俗学 ○中国語中国文学特講 A ○表象文化特論	【アジア文化コースモデル群】 ◎アジア共生文化論演習 ◎アジア比較文化論演習	D P③ [態度・志向性] ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。 C P③	卸売業・小売業 (百貨店、自動車販売、 雑貨販売等)、 製造業 (電気電子、 自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等)、 公務員 (国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等)
創造的に学べる発展可能性を持つ人 学部・学科・コースの目的や教育内容を理解し、自らの将来像と関連させて考えている人 さまざまな文化的営みを社会のなかで活かす方法を考えてみたい人	C P④ [統合的な学修経験と創造的思考力] ・文化構想学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。 D P④	【再掲】 【基幹教育】 □初年次教育科目 【アジア文化コースモデル群】 ※文化構想学概論A ※文化構想学概論B	【再掲】 【アジア文化コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ◎アジア地域文化概論 ◎アジア伝統文化概論 ◎アジア共生文化概論 ◎アジア比較文化概論 ◎アジア文化学基礎論	【再掲】 【アジア文化コースモデル群】 ◎アジア地域文化論演習 ◎アジア伝統文化論演習 ◎アジア共生文化論 ◎アジア比較文化論 ◎アジア文化特論 A ◎アジア文化特論 B ◎文化人類学	【アジア文化コースモデル群】 ※卒業論文 ※文化構想学研究演習 1 ※文化構想学研究演習 2 【再掲】 【アジア文化コースモデル群】 ◎アジア共生文化論演習 ◎アジア比較文化論演習	D P④ [統合的な学修経験と創造的思考力] ・文化構想学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。 ・卒業論文を通して、哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修める。 ・明確に課題を設定し、しっかりとした研究方法をもちいて論証することができる。 ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。 ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。 ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。 ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 ・適切に典拠を示しながら論述することができる。 ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができる。 ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができる。 C P②、C P③、C P④	卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する

(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)

文学部 文化構想学科 文化資源コース カリキュラムマップ

【設置の趣旨】文化構想学科は、文化を積極的に活用することで文化のつくりをさらに高め、文化をもって21世紀型成熟社会における諸課題の解決をはかることのできる人材を育成する。従来の文化研究においては、文化はあくまでも研究対象であり、それを活用するという視点は必ずしも重視されてこなかった。それにたいして本学科では、さまざまな場で活用される文化や文化的コンテンツに関する研究、日本を含めたアジア地域における文化活用の実践についての比較研究、実践的・課題解決的な文化活用の方策についての研究等の観点から、文化や文化的コンテンツの表現そのものから社会的活用に至るまでの一連の過程について、教育、研究を進めていく。文化の社会的活用について修得した専門人材は、従来の人文系諸分野においては今後の必要性に比して必ずしも十分に輩出されてきたとは言いがたい。ビジネスの素材や集客のための訴求力として、対外的なソフトパワーとして、共生的社会実現のための土台としてなど、文化が活用される場は多岐にわたる。これらはいずれも現代社会における重要な課題となっているものであり、本学科の教育、研究は、現代社会の課題解決にも大きく寄与するものである。

【養成する人材像】文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身に付け、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。とくに文化構想学科では、文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることのできる人材を養成する。

Table with columns: アドミッション・ポリシー, カリキュラム・ポリシー, 教育課程 (1-4年次), ディプロマ・ポリシー, 卒業後の進路. Rows describe student goals like '基礎的能力をつなげる', '自らの将来像を自覚的に形成し...', '論理的思考を鍛え...', '創造的に学べる...', and 'さまざまな文化的営みを社会のなかで活かす方法を考えてみたい人'.

(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程				ディプロマ・ポリシー	卒業後の進路
以下の学生を求める	文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。	<p>【凡例】</p> <p>赤枠：文化資源コースモデル群</p> <p>※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ○印：自由選択科目</p> <p>□印：基幹教育科目 ・印：自由科目</p> <p>緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目</p>				文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる。	
学修のための基礎的能力をつな	<p>CP① [知識・理解]</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化構想学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。 文化構想学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。 <p>DP①</p>	<p>【基幹教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> □総合教養科目 □健康スポーツ科学 <p>【文化資源コースモデル群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※文化構想学概論A ※文化構想学概論B <ul style="list-style-type: none"> ○人間行動学概論A ○人間行動学概論B 	<p>【基幹教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> □総合教養科目 <p>【文化資源コースモデル群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ◎文化資源基礎論 <ul style="list-style-type: none"> ◎アジア地域文化概論 ◎アジア共生文化概論 ○社会学研究法 ○社会調査法 	<ul style="list-style-type: none"> ○倫理学概論1 ○倫理学概論2 		<p>DP① [知識・理解]</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化構想学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。 文化構想学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。 文化構想学の方法や考え方を通して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。 <p>CP①</p>	
自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的に取り組む意欲を持っている人	<p>CP② [技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、文化構想学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基幹教育科目の英語科目および初級外国語科目を配置する。専門科目にて中国古典語、ギリシア語、ラテン語の科目を配置する。 情報通信技術 (ICT) などを用い文化構想学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、文化構想学の方法や考え方を通して批判的思考 (クリティカル・シンキング) を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。 文化構想学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・読解・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするため、多様な演習科目や実験科目を配置し、卒業論文研究につなげる。 <p>DP②、DP④</p>	<p>【基幹教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> □情報リテラシー科目 □英語科目 □初級外国語 	<p>【基幹教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> □英語科目 <p>【文化資源コースモデル群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎視覚文化資源論演習 ◎音楽文化資源論演習 ◎地域文化資源論演習 ◎視覚文化資源論実習 <ul style="list-style-type: none"> ○社会・集団・家族心理学特論 ○大阪の地域・文化実践演習 	<p>【文化資源コースモデル群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎音楽文化資源論演習 ◎音楽文化資源論実習 ◎舞台文化資源論実習 ◎地域文化資源論実習 <ul style="list-style-type: none"> ○社会学データ解析法 ○社会学質的研究法 ◎表象文化論 ◎アジア地域文化論演習 ◎アジア共生文化論演習 ◎アジア比較文化論 ○社会学質的研究法 		<p>DP② [技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、文化構想学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。 情報通信技術 (ICT) などを用い文化構想学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、文化構想学の方法や考え方を通して批判的思考 (クリティカル・シンキング) を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。 文化構想学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・読解・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。 <p>CP②</p>	<p>文化資源学の専門的素養に支えられながら、学校教育、文化施設、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材として、</p> <p>公務員 (国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等)</p> <p>大学院進学、</p> <p>博物館・美術館学芸員、</p> <p>サービス業 (人材派遣、観光業等)、</p> <p>広告代理店、コンサルティング、</p>
論理的思考を鍛え新しいものの見方を求めようとする人	<p>CP③ [態度・志向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化構想学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目や1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。 文化構想学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外活動を通してきめ細かに指導する。 文化構想学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸問題を通して具体的に指導する。 文化構想学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。 <p>DP③、DP④</p>	<p>【基幹教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> □初年次教育科目 <p>○上方文化講座</p>	<p>【文化資源コースモデル群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎観光文化論 ◎文化デザイン論 ◎舞台芸術文化論 ◎視覚芸術文化論 ○文化資源特論A 	<p>【文化資源コースモデル群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化資源特論B ○文化資源特論C ○文化資源論特別演習 <ul style="list-style-type: none"> ◎表象文化論 ○広報情報論B ○地図学 ○美術史通論B ○教育行政学 ○地理情報学 ○博物館経営論 ○国際都市社会学 		<p>DP③ [態度・志向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化構想学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。 文化構想学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。 文化構想学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。 文化構想学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。 <p>CP③</p>	<p>情報通信業 (マスコミ、システムエンジニアリング等)、</p> <p>卸売業・小売業 (百貨店、自動車販売、</p> <p>雑貨販売等)、</p> <p>製造業 (電気電子、</p> <p>自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等)、</p>
創造的に学べる発展可能性を持つ人 学部・学科・コースの目的や教育内容を理解し、自らの将来像と関連させて考えている人 さまざまな文化的営みを社会的なかで活かす方法を考えてみたい人	<p>CP④ [統合的な学修経験と創造的思考力]</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化構想学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。 <p>DP④</p>	<p>【再掲】</p> <p>【基幹教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> □初年次教育科目 <p>【文化資源コースモデル群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※文化構想学概論A ※文化構想学概論B 	<p>【再掲】</p> <p>【文化資源コースモデル群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ◎文化資源基礎論 ◎視覚文化資源論演習 ◎地域文化資源論演習 ◎視覚文化資源論実習 ◎観光文化論 ◎文化デザイン論 ◎舞台芸術文化論 ◎視覚芸術文化論 ○文化資源特論A 	<p>【再掲】</p> <p>【文化資源コースモデル群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎音楽文化資源論演習 ◎音楽文化資源論実習 ◎舞台文化資源論実習 ◎地域文化資源論実習 ○文化資源特論B ○文化資源特論C ○文化資源論特別演習 	<p>【文化資源コースモデル群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※卒業論文 ※文化構想学研究演習1 ※文化構想学研究演習2 	<p>DP④ [統合的な学修経験と創造的思考力]</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化構想学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。 卒業論文を通して、哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修める。 明確に課題を設定し、しっかりと研究方法をもちいて論証することができる。 図書館の機能を十分に使いこなすことができる。 多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。 先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。 一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 適切に典拠を示しながら論述することができる。 具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができる。 論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができる。 <p>CP②、CP③、CP④</p>	<p>(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)</p>

(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)

文学部 文化構想学科 文化資源コース (学芸員資格取得) カリキュラムマップ

【設置の趣旨】文化構想学科は、文化を積極的に活用することで文化のつくりをさらに高め、文化をもって21世紀型成熟社会における諸課題の解決をはかることのできる人材を育成する。従来の文化研究においては、文化はあくまでも研究対象であり、それを活用するという視点は必ずしも重視されてこなかった。それについて本学科では、さまざまな場で活用される文化や文化的コンテンツに関する研究、実践的・課題解決的な文化活用の方策についての研究等の観点から、文化や文化的コンテンツの表現そのものから社会的活用に至るまでの一連の過程について、教育、研究を進めていく。文化の社会的活用について修得した専門人材は、従来の人文系諸分野においては今後の必要性に比して必ずしも十分に輩出されてきたとはいえない。ビジネスの素材や集客のための訴求力として、対外的なソフトパワーとして、共生的社会実現のための土台としてなど、文化が活用される場は多岐にわたる。これらはいずれも現代社会における重要な課題となっているものであり、本学科の教育、研究は、現代社会の課題解決にも大きく寄与するものである。

【養成する人材像】文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあつて、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。とくに文化構想学科では、文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることのできる人材を養成する。

Table with columns: アドミッション・ポリシー, カリキュラム・ポリシー, 教育課程 (1-4年次), ディプロマ・ポリシー, 卒業後の進路. Rows describe student goals and corresponding curriculum details.

(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)